

卒業論文

2014年1月31日提出

「嚼む」身体と共に生きる

—吃音自助組織での語りにみる吃音対処法の意味—

徳島大学総合科学部社会創生学科

地域創生コース

学籍番号：1010030032

大塚諒

指導教員：内藤直樹

「嚼む」身体と共に生きる—吃音自助組織での語りにみる吃音対処法の意味—

第一章	はじめに	2
第一節	研究目的	2
第二節	先行研究	3
第二章	言友会の歴史と活動	6
第一節	吃音矯正の歴史	6
第二節	言友会の歴史	8
第三節	徳島言友会の活動内容	10
第四節	徳島言友会における「嚼んでも語る」認識	17
第五節	徳島言友会の活動が持つ意味	21
第三章	吃音のスティグマ化	22
第一節	吃音がスティグマとなる経緯	22
第二節	吃音問題の表出	25
第三節	吃音がスティグマ化されるプロセスの特徴	28
第四章	「嚼む」ことと付き合う	30
第一節	対処しようと試みる吃音者	30
第二節	吃音の特徴	33
第三節	吃音に対処する身体技法	36
第五章	おわりに	37
第一節	「嚼む」ことと身体技法	38
第二節	考察	39
参考文献		41
謝辞		43
資料	徳島言友会例会における会話事例	44
4月21日	「近況報告」	46
4月21日	「テーマを決めた話し合い」	65
5月19日	「近況報告」	89
5月19日	「テーマを決めた話し合い」	108
6月16日	「3分間スピーチ」	122
7月21日	「3分間スピーチ」	131

第一章 はじめに

第一節 研究目的

筆者は、しばしばコミュニケーション障害であるとされる「吃音」とともに生きてきた。私は、人前で言葉に詰まる(吃る)ことを恥じらい、馬鹿にされることを恐れ、徐々に内向的な性格になっていった。その影響は、「みんなは普通に会話ができるけれども、私にはそんな普通のこともしない。私は、何も上手くできない人間だ。」と、コミュニケーション能力に関係のない、学業の成績や身体能力まで及び、吃ってしまいそうな状況を自ら避けようとするようになった。吃音コンプレックスを強く抱いた私は、あらゆる自己を否定し、吃音から逃れることばかりに思いめぐらせていた。しかし、年齢を重ねるにつれて社会と接触する機会が増え、吃音に立ち向かわざるを得ない状況も増えた。そして私は、吃音を改善するためにも、吃音を持つ人達が集う自助組織である「徳島言友会」への参加を決めた。

活動に初めて参加した時にその場で見たものは、私の倍以上の人生を過ごしてきたであろう吃音者が、私の吃音症状以上に言葉に詰まりながら話をしている姿であった。言友会の活動は、私が求めた吃音を改善するものではなく、吃音改善に希望を抱いていた私の考えを一瞬で崩壊させた。その活動内容は吃音改善とは程遠く、自分が話したいことをだらだらと話すことが主たるものであった。しかしながら、言友会で会話をする彼らの姿は、吃音を気にすることなく伸び伸びと会話を楽しんでいるように見えた。吃音に悩む私から見た彼らの姿は、魅力的でありながらも、異様な姿にも見え、この時に感じた不思議な感覚を理解したいと思うようになった。そのためにも、本研究では吃音自助組織における人びとの会話の内容を分析することを通じて、一見すると非常に奇妙なものに見える自助組織におけるやりとりが、「吃音」とともに生きてきた人びとにとっていかなる意味をもつのかについて考察する。

第二節 先行研究

「吃音」とは、特定の身体的特徴に対して病気・障害・ハンディキャップといった社会-文化的な価値付けがなされた概念である。「言葉に詰まる」という身体的・行動的な特徴をめぐるさまざまな価値の対立や葛藤について検討するために、本研究では医学的な「疾患」やコミュニケーション上の「障害」としての「吃音」と単なる身体的な特徴としての「嚙む」こととを区別して記述する。

なぜ、吃音者は「嚙む」ことを気にするのであろうか。ゴフマン(2002)によれば、吃音は、<気詰まり>の場면을形成するがゆえに忌避すべきものとして認識されるという。「嚙む」ことが<気詰まり>を形成するとは、主にそれまで流暢に発話していた吃音者が急に言葉に詰まり、次の言葉が上手くでてこない状況が、「本来あるべき」と想像される滑らかなコミュニケーションを阻害することである。したがって、『「どもる」という現象が存在したとしても、お互いがそれを気にすることなくコミュニケーションできるのであれば、それは障害として意識されることもないであろうし、問題にはならないはずである』(藤島 2006:148)。つまり、吃音という「言語障害」は、発話者と聴者による特定の文脈に根ざした相互行為の場面のなかに初めて生じているのである。吃音者は、滑らかに発話をするという自明視された会話のルール中で、<気詰まり>という相互行為上のリスクとつねに向き合っている。

ゴフマン(2002)によれば、<気詰まり>が生じているような場面には客観的な兆候と主観的な兆候がある。客観的な兆候とは、相互行為に参加している人によって、視覚や聴覚によって観察されるような身体動作を指す。具体的には、「目を伏せる、顔を伏せる、手を頭のうしろにやる、指で服を神経質にまさぐる、指と指をからませる、どもる、つじつまの合わぬことをしゃべる」といった例が挙げられる(ボールドウィン 1902:212)。ここでも「どもる」という例が挙げられているように、嚙むことは<気詰まり>の場면을引き起こす客観的な兆候の代表例として挙げることができる。そして渡辺(2003)は、ゴフマン(2002)による相互行為儀礼の概念を言語障害者に応用することで、吃音者が<気詰まり>を引き起こす要因を2点挙げた。1点目が、吃音者は<気詰まり>な相互行為を「修復」するような「言い訳」を備えておらず、「言い訳」の適切な語彙が見つげにくいために「謝罪」を表出することができないこと。そして次に、<気詰まり>の場면을避けようとするために、吃音者は正常な会話の基準(“滑らかな”相互行為の基準)を志向しているとし、相互行為そのものへの参入を阻まれているような事態に陥っていることである。以上の要因から、吃音者はできる限り「嚙む」ことを隠し、滑らかな発話を志向しようとするが故に、コミュニケーション自体から遠ざかってしまうと、渡辺(2003)は論じた。

医療人類学者のA・クライマン(1996)は、慢性病という回復が見込まれない「病い」の経験とそれに付随する社会的苦悩について記述した。そして「病気」という現象を「疾患(disease)」と「病い(illness)」という概念を用いて整理した。「疾患」概念は、病気を生物医学的に定義付けし、治療者の視点から見たものであり、「病い」は患者の視点から病気に伴う観念や感情、社会的機構の結びつきという経験を表したものである。「病い」の経験や、「病い」の出来事は多義的な意味合いを包含している。その意味は、患者の心理的要因や社会的要因の変化に伴って絶えず変化し、これらの要因の変化によって症状も移り変わる。

たとえば「病い」を気にしていない患者が、「病い」を周囲に指摘された瞬間に「病い」を意識するようになることは、慢性病患者の日常生活において常に有り得る。また、「病い」とは、症状の程度のような身体的要因のみで捉えることはできず、それに伴う社会的苦悩についても目を向ける必要がある。そして、その「病い」の意味を解釈することによって、より有効的な医療的ケアを施すことが可能になり、患者自身も身体について認識を深めることで自己と向き合っていけるようになる可能性を含んでいる。このような「病い」の語りは、慢性病患者のセルフヘルプグループにおいて頻繁に交換されている(田辺 2008 など)。北タイにおいて 1980 年代末から顕在化したエイズ危機に伴い、HIV 感染者やエイズ患者たちによって組織された自助グループや、アルコール依存者が集う断酒会はその例である。そこでは自らの「病い」の経験を語り、苦悩や情報を共有することを通じて「病い」をもつ身体を抱えた人間としてのアイデンティティを再生する。

こうしたセルフヘルプグループは、レイヴとウエンガー(1993)が著書でアルコール依存者の断酒会について触れているように、実践コミュニティとして捉えることができる。実践コミュニティとは、「参加者が、自分たちが何をしているか、またそれが自分たちの生き方と共同体にとってどういう意味があるかについての共通理解がある活動システムへの参加」(レイヴ&ウエンガー 1993:80)を基礎としている。この活動の成員達は固定的なコミュニティを形成する訳ではなく、異なった考えを持つものたちからなるアソシエーション的な集団であるとした。レイヴとウエンガーは、これを多層的なレベルでの参加と呼んだ。そして、実践コミュニティにおいては、メンバーとしてのアイデンティティが、その集団で重要であると位置づけられている知識や技術の習得とともに変化し、周辺から中心へと社会的に移行する。そして、このような学習過程は、個人の内的認知過程ではなく、社会的学習過程であるとした。彼らは実践コミュニティの例として、西アフリカのヴァイ族とゴラ族の仕立屋コミュニティの徒弟制を挙げた。この事例において、最初徒弟は普段着の作り方を学び、その後外出用のフォーマルな衣服に、そして最後には高級スーツを作るに至る。そうする中で裁縫や裁断の方法も学んでいく。この過程は専門職である親方の元で行われ、知識や技術の蓄積によって徒弟のアイデンティティは社会的に中心へと移行する。活動を通して知識や技能を習得するとともに、自己のアイデンティティを再編するのである。すなわち実践コミュニティとは、成員同士のやりとりの過程に注目し、メンバーの参加を通じたアイデンティティの獲得過程のなかで知識や技術が習得・保存される空間のことである。このように、実践コミュニティにおける知識の習得と自己アイデンティティの再編は分かち難く結びついており、慢性病患者の自助組織を分析するうえで重要な視座である。

また田辺(2008)は、実践コミュニティの概念を用いて、北タイにおける HIV 感染者やエイズ患者たちによって組織された自助組織を検討した。タイにおける HIV 感染者達は、病氣それ自体から来る苦痛以上に、家族や村、地域社会および医療機関からの社会的差別と排除といった社会的苦悩によって苦しめられた。その社会的苦悩に対応するために感染者や患者達は患者の自助組織を形成した。このような自助組織では、自己統治の動きが活発化し、有用な治療の知識や情報が「資源」として選択的に受容され、交換されていく。

このように、実践コミュニティにおけるメンバーとしてのアイデンティティの再編とその集団に核心的な知識・技術の習得は分かち難く結びついている。そこで本研究では、セ

セルフヘルプグループで交換される「病い」の語りを、身体技法に関わる内容に焦点をあわせて分析する。身体技法とは、社会・文化的な視座から人間の休息や運動といった身体的な諸活動を分析する概念としてモース(1976)が論じた概念である。

どんな社会でも、すべての人はいかなる条件でも自分がしなければならないことを知っている、また、それを知らねばならないし、習得しなければならない。もちろん、社会生活は愚劣や異常さを免れるものではない。誤りが原則ということだっでありうる。…(中略)…しかし、模範と秩序が原則であることに変わりがない。それゆえ、それらの事実にはいずれも強力な社会学的要因がひそんでいるのである(モース 1976:154)。

モースは、それまで生物・生理学的視点からのみ理解されてきた身体技法がもつ経験的リアリティを、<全体的人間>の視点から浮かび上がらせた。またブルデュー(1990)は、モースによる身体技法論の影響を受けてハビトゥス概念を提唱した。ハビトゥスとは、「構造化する構造、つまり慣習行動および慣習行動の知覚を組織する構造であると同時に、構造化された構造」(ブルデュー 1990:263)であり、階級や民族、年齢、性別といった社会的要因によって無意識的に身体に刻み込まれた影響である。つまり、人が生まれながら自らの意思で起こしていると考えられる習慣に関して、それは社会的要因によって生み出されたものであり、社会的位置とその変遷に応じて日々の暮らしの中で意識的・無意識的に再生産するものである。

本研究では、慢性病患者のセルフヘルプグループにおける「病い」の語りを分析することを通じて、慢性病という「病い」にともなう社会的苦悩のリアリティを明らかにするとともに、グループ内で繰り返しおこなわれている「病い」の経験の交換実践を、身体技法に注目して分析する。

第二章 言友会の歴史と活動

第一節 吃音矯正の歴史

日本における吃音治療の組織的な取り組みは明治初期に遡る。吃音治療の専門的機関の始まりの1つとして、1903年に伊沢修二によって設立された「楽石社」が挙げられる。「楽石社」では、腹式呼吸を意識付ける呼吸の仕方を訓練することや、「ハー」「ヘー」「ホー」の発声練習によって声帯を開く訓練が行われ、設立後20年で7000名の吃音矯正に成功した。しかし、矯正所に通った吃音者には、1ヶ月程度の期間の後に吃音症状の「再発」がみられることが報告されている。この症状は「ディストラクション(緊張弛緩)効果」と呼ばれ、通常とは異なった話し方をすることで一時的に吃音症状がなくなる効果を指す。しかし、この吃音症状の改善は一時的なものであり、現在の吃音研究においては、一時的に吃音症状がなくなったとしても、ディストラクション効果は吃音の治療であるとはみなされない。伊沢修二による吃音の定義では、吃音は身体(発声器官)に生じている後天的な習慣(癖)であるとされ、「(吃音者が)治そうと努力すればするほど悩みが深まっていくという悪循環」(伊藤編 1976:55)の形成でもあった。楽石社では、ディストラクション効果による訓練だけでなく、精神強化訓練によって「吃音は必ず治る」という考え方を持つように徹底されていたのである。「その結果、吃音矯正は吃音の治癒であるとともに、治癒しないものにとつての『悪循環』にもなったことは、吃音者にとっては皮肉な結果であったと言えるのかもしれない」(渡辺 2004:32)。吃音矯正は必ずしも吃音症状の長期的な改善を意味するものではなく、吃音者の精神修練と結びつくことで可能となった言語矯正だったのである。

そもそも、吃音とは話し言葉の流暢の障害で、非流暢性に集中し、コミュニケーションに障害が生じた状態である。吃音の有病率は約1%、発症率は約5%と言われており、男女比はおよそ3:1である。その言語症状は、主に音を繰り返す「連発型」、音を引き延ばす「伸発型」、最初の音がなかなか出てこない「難発(ブロック)型」の3つに分類される。一般的に吃音とは言葉の言い淀み、「嚙む」ことであるとみなされがちである。しかしながら、吃音の定義基準は「嚙む」ことではない。吃音の定義として、伊藤(2004:8)は、

- (1)音を繰り返したり、つまったりするなどの明確な言語症状がある
- (2)器質的(脳や発語器官など)に明確な根拠が求められない
- (3)本人がどもることを自覚し、不安をもち、悩み、話すのを避けようとする

上記の3点を挙げ、全てに当てはまる者が吃音であるとされる。周囲から見れば「嚙む」という身体的特徴しか見ることができないため、吃音の苦悩を理解することは容易ではない。吃音は大人になれば治ると考えられることもあるが、吃音の定義(3)にあるように、吃音者は「嚙む」場面を自ら避けようとしたり、年齢を重ねるごとに語彙が増え、言葉の言い換えが多くなることで「嚙む」ことを上手く隠そうとするために周囲からは改善したように見えるのである。一見改善したように見える吃音であるが、吃音者本人は「嚙む」ことを悪いものとして認識し、それを隠そうとするあまりに自ら吃音の悩みを深くし、周囲

に理解されないことに葛藤する。また、吃音は独り言を呟いている時にはほとんど「囁むこと」はなく、歌を歌う時も同様である。これらの要因が、吃音問題をさらに複雑化させる。また、吃音に伴う社会的苦悩は、必ずしも吃音症状の軽重によって左右される訳ではない。症状が重い吃音者は、会話を上手く成り立たせることができず、時として周囲から馬鹿にされる。しかし、周囲から観察しても、吃音を持っているようには見えず、吃音症状が軽く見える人でも、深く悩むことがある。症状の軽い人は、非吃音者と同じような滑らかな会話を追及しすぎるあまりに、上手く発話できない自分を責める。そして、その悩みが理解されず、周囲との考え方の違いによるジレンマに苦悩することもある。さらに、非吃音者にとっては吃音者の悩みが単純に「囁む」ことであると考えがちであるが、吃音者自身は「囁む」ことで生じる<気詰まり>の場面に恐怖心を抱いているのである。そのため、吃音者は<気詰まり>の場면을恐れるあまりに、発話の場면을自ら避けるようになり、コミュニケーションに問題が出るケースもある。このように、吃音者達は、非吃音者が想像する以上に自身が「囁む」ことを重大に感じていることが多い。

現代においても吃音治療が行われているものの、吃音の原因が判明していないため、その効果・限界は、従来からの伝統的な治療法の効果・限界と大差がなく(伊藤 1999)、現代においても吃音の治療法は確立されていない。

第二節 言友会の歴史

本研究で調査対象地とする「言友会」は、1966年に東京で設立された吃音者の自助組織である。楽石社での吃音矯正以降も、民間矯正所での吃音矯正が行われていた。しかし、成人の吃音者に対する公的な治療相談機関はなく、民間矯正所がその役割を担っていた。民間矯正所の吃音矯正法ではなかなか治らない、あるいはしばらくすると再発する、費用も決して安くはないといった状況の中で、吃音矯正所の卒業生が集まり、吃音矯正を目指して東京言友会が結成された。当初の言友会活動は、民間矯正所で学んだ、腹式呼吸や発声練習を中心に、講談や詩吟、弁論や話し方等、吃音矯正に有効と思われるものが積極的に取り入れられた。活動の主体は大学生を中心とする、20代の若い人たちであった。会の運営は専門家に頼らず、会員の力のみで行われ、文化祭や合宿、レクリエーションなどいろいろな行事が企画された。同年10月には言友会京都支部、11月には言友会大阪支部を設けるように発展した。1967年には大阪にて言友会全国大会が開催され、これまでの本部(東京)と支部(大阪)という関係ではなく、それぞれを独立した言友会として認める案が出された。そして、翌年1968年には各支部が独立した言友会となり、同時に全国組織として「全国言友会連絡協議会(全言連)」が設立された。その後も福岡や名古屋、北九州、札幌にも輪は広がり、その活動は成功しているように見える。しかし、吃音矯正という面から見ると、言友会結成前の民間矯正所での矯正と同じ方法で活動をしているため、思うような結果を出すことはできていなかった。

この状況下で、吃音矯正の実現可能性や吃音矯正を会の目的に据えることに対する疑問から、吃音の矯正ではなく、吃音を克服する活動へと転換していったのである。そこで言友会では、「どもりを治そう」ではなく、「克服、改善しよう」という言葉を使うようになった。そして、1976年に東京で開催された第10回全国大会において、言友会の目的を吃音矯正から「どもりをもったままの生き方の確立」へと変更し、「吃音者宣言」(表1)が採択された。吃音者宣言採択後は、吃音を治す、治さないよりも、相手に言いたいことをうまく伝えるにはどうすればよいか、表現力を高めるにはどうすればよいかといった視点での活動や取り組みに重点が置かれるようになった。現在は全国各地に34の言友会が存在しており、NPO法人「全国言友会連絡協議会」が各県の言友会を統制している。言友会の活動内容は、例会、機関紙の発行、行政から委託を受けた講習会、全国の吃音者が集う全国大会、地域毎に分けたブロック大会、吃音者と健常者の交流の場を設ける「つどい」、吃音の相談会、言語聴覚士養成校、ことばの教室との交流、1年に1度開催される国際組織への加盟と国際大会への参加、である。本研究では、その中でも徳島県で活動する徳島言友会の活動に着目する。

吃音者宣言

私たちは、長い間、どもりを隠し続けてきた。「どもりは悪いもの、劣ったもの」という社会通念の中で、どもりを嘆き、恐れ、人にどもりであることを知られたくない一心で口を開くことを避けてきた。

「どもりは努力すれば治るもの治すべきもの」と考えられ、「どもらずにしたい」という、吃音者の切実な願いの中で、ある人は職を捨て、生活を犠牲にしてまでさまざまな治すところみに人生をかけた。

しかし、どもりを治そうとする努力は、古今東西の治療家・研究者・教育者などの協力にもかかわらず、十分にむくわれることはなかった。それどころか自らのことばに嫌悪し、自らの存在への不信を生み、深い悩みの淵へと落ちこんでいった。また、いつか治るという期待と、どもりさえ治ればすべてが解消するという自分自身への甘えから、私たちは人生の出発（たびだち）を遅らせてきた。

私たちは知っている。どもりを治すことに執着するあまり悩みを深めている吃音者がいることを。その一方、どもりながら明るく前向きに生きている吃音者も多くいる事実を。

そして、言友会 10 年の活動の中からも、明るくよりよく生きる吃音者は育ってきた。

全国の仲間たち、どもりだからと自分をさげすむことはやめよう。どもりが治ってからの人生を夢みるより、人としての責務を怠っている自分を恥じよう。そして、どもりだからと自分の可能性を閉ざしている硬い殻を打ち破ろう。

その第一歩として、私たちはまず自らが吃音者であることを、また、どもりを持ったままの生き方を確立することを、社会にも自らにも宣言することを決意した。

どもりで悩んできた私たちは、人に受け入れられないことのつらさを知っている。すべての人が尊重され個性と能力を発揮して生きることのできる社会の実現こそ私たちの願いである。そして、私たちはこれまでの苦しみを過去のものとして忘れ去ることなく、よりよい社会を実現するために活かしていきたい。

吃音者宣言、それは、どもりながらもたくましく生き、すべての人びとと連帯していこうという私たち吃音者の叫びであり、願いであり、自らへの決意である。

私たちは今こそ、私たちが吃音者であることをここに宣言する。

昭和 51 年 5 月 1 日
言友会創立 10 周年記念大会にて採択

全国言友会連絡協議会

第三節 徳島言友会の活動内容

徳島言友会は1972年に関東から転勤してきた言友会会員を中心として結成されたが、言友会活動の低迷から、その活動は休止した。しかし、1998年に全言連からの呼びかけで徳島言友会が再興されることになった。活動内容は言友会の歴史と同じように、吃音者宣言が採択されるまでは吃音矯正が行われ、その後は吃音を克服、改善しようとして活動を続けてきた。現在は、例会、例会の内容を記した「機関紙」の発行、全国大会への参加、ブロック大会への参加は行われているが、積極的に活動する会員が少ないため、つどいや、吃音の相談会等の外への情報発信はほとんど行われていない。最後の対外活動は、徳島言友会再結成10周年である2008年に行われた吃音者のつどいである。徳島言友会の現在の会員数は35名であり、その内訳は男性会員24名、女性会員11名である。徳島言友会では月1回の例会以外にも、4月に花見、7月はビアガーデン、10月に中国・四国地方の言友会(現在活動しているのは、岡山、広島、徳島、愛媛の4県)が集うブロック大会、12月には忘年会を開催しており、例会以外にも会員の親睦を深める活動が行われている。徳島言友会の主たる活動である例会は毎月第3日曜日の13:30~17:00に開かれている。その活動内容は、原則として活動の前半(1時間半程)には「近況報告」という活動を、後半(2時間程)には「テーマを決めた話し合い」か「3分間スピーチ」を行う。例外として、「近況報告」前後の雑談の盛り上がりによって、活動の時間が押してしまうことがあり、例会の活動とは関係のない部分に時間が割かれてしまうケースもある。徳島言友会とは、参加したい時に参加できるという活動形態であり、自由に参加・活動できる会となっている。以下に記しているものは、筆者が参加した例会の活動内容・活動時間・参加者である。

4月21日	近況報告(1時間半)・テーマを決めた話し合い：吃音の対処法について (2時間)参加者:9名
5月19日	近況報告(2時間)・テーマを決めた話し合い：会外部で吃音を気にするか (1時間半) 参加者:7名
6月16日	近況報告(1時間半)・3分間スピーチ(2時間) 参加者:6名
7月21日	近況報告(1時間半)・3分間スピーチ(2時間) 参加者:8名
9月15日	近況報告(1時間)・3分間スピーチ(1時間)：悪天候の為1時間早く閉会 参加者:5名

吃音自助組織といえども、その活動内容は吃音に関する討論や情報交換ばかりが行われている訳ではない。それぞれの活動内容の流れや雰囲気について、事例を提示しながら説明していきたいと思う。まずは活動の前半部分を占める「近況報告」について見ていく。

「近況報告」とは、前回に参加した例会から当日までに発表者の身に起きたことを3~5分程度発表し、その発表に気になる点がある参加者が質問をするというものである。そして質疑応答が終わった後に、発表者が次の発表者を指名し、順番が回っていく。このサイクルを1時間半ほど繰り返し、全員の発表が終わったところで例会の前半が終了する。以

下に記す事例は、4月21日に行われた「近況報告」での、K氏の語りである。上記の活動内容では4月の例会参加者は9名となっているが、K氏が発表した際には3名の遅刻者があり、6名での「近況報告」となった。K氏の発表は2番目であった。K氏は連発性の吃音を持つが、その症状は徳島言友会の中でも比較的軽度であり、吃音者であることを知ったうえで会話をして、ほとんど分からない状態である。K氏は68歳の男性であり、徳島言友会では最高齢である。そして、M氏は徳島言友会で事務局長を務める66歳の男性である。連発性の吃音を持っており、その程度は非吃音者から見ても会話に違和感を覚えるものであり、徳島言友会の中でも比較的重い症状である。徳島言友会の司会進行は主にM氏によって進められ、他の各言友会との連絡や、機関紙の発行も行う。そして、全ての例会に参加されており、言友会活動に積極的に参与されている方である。

会話中に出てくる黒点・は、話者が嚼んだことを表している。黒点が1つ・は、言葉に詰まり、言葉を連発したものの、すぐに次の言葉が出てきた時を表す。世間一般で言われる、「嚼む」というものだ。黒点2つ・・は、約1秒間次の言葉が出なかった時。黒点3つ・・・は、約2秒間次の言葉が出なかった時を表している。その時間は、正確に計ったものではないため、あくまで参考程度に読み進めていただきたい。そして、文字が連続している箇所、例えば「あああ・あ」となっている箇所は、話者が「嚼んだ」ことを示している。各章を通して事例に登場する話者を表記したアルファベットは全章を通して同一人物を示している。

[事例1:スピーチを任されたK氏]

K(60歳代 男性) M(60歳代 男性)

K:えーっと、石井町、高花のKと申します。えーと、68歳になったところでございます。68歳ということは、まあ一応、人生、お務めも終わり、ほの一、孫が大きくなって、えー、元気に育つことを願うばかりでございます。仕事は済んだものの、また声がかかって、最近、仕事に行っております。それ以外にも色々とボランティアとか、そういう活動を、しよる訳でございますが、ここい来て、やっかいなことに、さあどうだろという出来事。1つは、6月15日か。えー、石井町有線放送ちゅうんがあつて、これ、総会は、えー、ああ・あの6月15日にある訳なんです、出席者総代500人ぐらい寄ってくる。

M:うん。

K:そこで、議長をしてくれと、

M:はいはいはい。

K:いう風なことで、えー、声がかかって、えー、他におらんのか？ということで、話してはおるものの、またやらなしゃあないかなと、ま、ここで、けんど吃るんが理由で、断るんはみっともないなど。まあ、思うんですが、やはりそういう、タイミング、機会があると、吃らんように上手いこと喋らないかんなど、こうプレッシャーがある。で、えー、私、吃るのは、夕行。ほれと、まあ、ほれ以外にも吃る訳やけど、慌てて言うたらカキクケコ、の行なんかも吃ります。1番苦手なのは、たた・タの行、自分の名前、K、それと住所、高花、それと県外言った時には、徳島っていう、

M:(笑)

K:絶対付いて回るんよな。(笑) ほれが非常に困ったもんだなあと。で、この度も、議長席っちゅうんも、決算書の報告等も、ありますんで、あの一、定款に基づいて、えー、議事進める訳なんですけど、その中にも、貸借対照表、通期計算書の説明、必ず吃る言葉があるんですよ。ほなけど、貸借対照表、さあ、困ったなあと、そんな心配もしております。それともう1点、えー、もう1点、5月10日、これわしの大学のほうの、お一、これも、年次総会なる訳です。これは、1000人ぐらいおります。で、この席でこの度、私、徳島支部長6年間しとって、ほんでこの度、引退ということで、えー、替わったんですが。この度、懇談会、OB会やいう会の、功労賞を、あの、ひび・表彰したいと、いう風なことで文章が来ております。で、3名、功労賞で表彰してくれる人がおる訳なんですけど、その内2名が、もう故人、しん・死んでしもとります。東京事務所長、あの、支部長、東京支部長。ほれともう1人ほの、副支部長、ほの2名、それと私と3名になります。で、1人だから、あの一、う、なんちゅうん、健康な人1人ということで、謝辞を言ってくれと。

M:でやー。

K:こういう話も貰いました。これも、また、徳島支部のKというのを言わないかん、これまた苦手やなど、上手くやれたらええなあと、これもちょっと重荷になっておる次第でございます。とは言いながら、そう、なんちゅうんか、悩んでもしょうがないし、うん。ほれも、挑戦しようかなあと、意地でも挑戦しようかなあと、こんな気持ちでおります。まあ、この会で、えー、もし、今度の機会はもう間に合わんのやな、5月10日っちゅうたら。6月は間に合うんか。なんだったら、ここの席でスピーチの練習でもしたいなあと。

M:ああ、

K:こう思うんやけど、

M:参加者募らないかんな。

K:残念ながら、ちょっと日程が合わないと思いますので、まあ、そんな日常でございます。以上でございます。

一同:(拍手)

4月の近況報告でK氏は6月に500人の前で、5月には1,000人の前でのスピーチを任されたことを語った。この中で、K氏は「夕」行が語頭にくる言葉で吃りやすいことを語り、名前や住所を話すことに少し不安を感じているため、徳島言友会の例会でスピーチの練習をすることを考えた。結果的に、7月の例会までK氏は参加されなかったために、練習をすることはなかったが、その発表は上手くいったようである。これは、K氏が自身の吃音に関する近況を語っていることが分かる事例であった。しかし、活動へ参加する中で、近況報告は事例1で示したような語りだけではないことが見えてきた。次の事例2はM氏の近況報告である。この事例も4月21日の「近況報告」で行われたものであり、M氏は6番目の発表であった。

[事例 2:M 氏の近況報告]

M(60 歳代 男性)

M:えー、皆さんこんにちは。

一同:こんにちは。

M:えっと、徳島市庄町、にすすす・住んでいます、えー、えー、えー、M と申します。あの、この会で、一応、事務局長を、えーと、やらさ・やらさせていただきます。あの一、年齢は、あまり言いたくないんですけど、66 歳です。もう、定年になって、いつの間にか 6 年になって、えーと、しまいました。ほれでもまだ、現役で、あの一、クレーン車のオペレーターやってます。今は、藍住町の体育館で、あの一、入ってます。うん。また一、そこと、川内の四国自動車横断道で、あの一、工事やってます。あの一、最近、ものすごくこう、感じるのは、現場で、えっと、中国人の労働者っちゅうか、研修生、えーっと、まあ、ていう感じの青年。もう、う・上の、えっと、責任者とか、合図マンとか、えーっと、えーと、玉かけっていうんですけど、あの一、し・品物を上手にワイヤーかけて斜めにならんように、そのまま吊ったりすることを、えっと、えっと、玉かけっていうんですけど。上の無線の合図とか、責任者。あと、それ以外は全員が中国人っていう感じで。今、屋根の、えっと、乗せ板あげてるんですけど、あの一。藍住町の、えっと、体育館が、80 メーターの 40 メーターっていう、お・規模で、う・上が、屋根がドーム型になってるんですね。ほんで、また、中国人がほとんど上に上がってるんです。ほの、日本人と中国人を見分ける方法、えっと、分かる方が居たら教えてほしいんですけど。顔は、もう、全部一緒なんですよ。それで、ヘルメットの後ろ見て、あの一、王(ワン)さんとか、シャーとか、リとか書いて、ああ、この人中国、だったんやなっていう感じで。あとは、安全带とかしてるのも、全然おんなしなんで、朝、休憩所入って行って、「おはよう。」で入っていて、こう、向こうからは絶対に、は・話かけんていうか、え・えっと、声掛けはないんですけど、こっちからこう、言ったら、ニコ一っと笑って話したり。日本に来る前に、1 ヶ月間の、まあ、教育っていうか、えーと、特訓を受けてくるらしいんで、あの一、「おはよう、ありがとう」まあ、そういう、あれ、は、大体してるんですけど。えっと、えっと、鳶さんで、1 年という方はもう、日本語言うことが全部分かって、向こうからも受け答えが出来て、「シャー、お前頭がええなあ。」と言うたら、『えー。』っと、こう、えーっと、する(謙遜する)んやけど。「あと、まだ、えーと、2 年おれるなあ。」、『はい。』ってまあ、研修生やから、えーと、3 年間おって、ほれから中国へ、えっと、帰るんやけど、うん。結構、向こうでも 100 万円で、家が建つらしいんで、あの一、送金も、してるみたいで、そんで、始末して、煙草とかは、「お前、日本の煙草持って。」、『いえいえ、中国から送ってもらってます。』て言うて、中国の煙草持ったりして、ほれでもう、あの一、やっぱし、小泉が、えー、えーと、日本をぶっ潰すって言うて、あの一、きき・えっと、規制緩和して、ほれ以来、もう、あの一、派遣業もどンドン改正されて、まあ、建設業と公安と、警備は、派遣社員送り込むことが出来るので。やっぱし、労働力が安い、安い賃金で、え、使える中国人が入ってきてるんでないかなと思うんですけど。もう、皆もう、あの一、日本人がこれ、仕事無いんも、頷けるっていうような感じで、もう、ほんまに、もう、乗っ取られ

るんでないかなってというような感じ、感じになってます。中国の人は集団で行動するんで、もう、すごい賑やかです。5人でおったら、もう、中国語でワーワーワー言ってますねえ。一応、まあ、近況っていう、現場はそういう風な状態なんです。えーっと、私事のほうでは、あの、2年前から、詩吟をは・始めて、始めてて、あのー、発声練習にいいなあっていうんで、これ、あのー、上手いへへへ・下手はともかく、週に1回だけ、あのー、2時間練習に通ってます。それで、まあ、その、あのー、石井の中央公民館でこないだ、昇段試験があって、2段に受かりまして、あのー、えっと、えっと、雅号っていうんですか、雅に号って書いて、そのー、頂いて、「俊堂」っていう名前を頂きました。あのー、励みにしてます。以上、ま、こんな所なんですけど、終わります。

一同:(拍手)

この事例の前半は、工事現場でクレーン車のオペレーターを務めるM氏が、現場で中国人との交流をもった経験と、現場に中国人が増えてきたことを語っている。そして、後半は2年前から始めた詩吟の昇段試験で昇格した出来事について語っている部分に分かれている。この語りでは、自身の仕事と趣味について語っているのみであり、「吃音」という単語は一切出てきていないことが読み取れる。先程のK氏の語りとは異なり、自身の吃音について語っていないということである。つまり、例会の「近況報告」では、自身の吃音に関する語りをする場合もあれば、それとは全く関係のない語りをする場合もある。その割合は、筆者がM氏から頂いた過去29回分の例会内容を記した機関紙と、筆者が参加した例会5回分の「近況報告」、計34回の例会で行われた「近況報告」を集計することで知ることができた。34回行われた例会において近況を報告した者は計198名であり、参加者は重複している。そして、吃音に関する近況を報告した者は43名、吃音の話題に触れずに近況を報告した者は155名であった。その話題の割合について見れば一目瞭然である。このように、「近況報告」では、吃音とは無関係の話題について語る場合のほうが多いことが分かる。

次に「テーマを決めた話し合い」について見ていく。「テーマを決めた話し合い」では、参加者で討論するテーマを1つ決定し、それに対して各自が意見を述べる。「テーマを決めた話し合い」での司会者の決定は立候補による場合と、M氏が指名する場合がある。そして、発表者の順番は、司会が次々と指名していく場合と、「近況報告」と同じように発表者が次の発表者を指名する場合があり、形式が決まっている訳ではない。4月の例会では、徳島言友会に初めて参加する筆者とY氏のためにも、「吃りそうな時にどういふ手段を用いてそれを回避したか」という、「吃音の対処法」について議論がなされた。次の事例は、4月21日の例会で行われた「吃音の対処法」という「テーマについての話し合い」でのM氏とK氏の会話を抜き出したものである。

[事例3: 弾みをつけて発声する]

M(50歳代 男性) K(60歳代 男性)

M:学級、が・学級い・委員長とかなって号令、かけたりとか。

K:「起立」は言えるんじゃないかな。

M:「礼」まで言えて。

K:「着席」やがしんどかった。言えんでよ。

M:皆立ったままで。

K:「ちゃ」がやっぱり、「ち」やろ？ここで。

M:皆立ったままで、「は・はよ言わんか、こら。」って。

K:「着席」が言えんけん、ほんなんしよったんかな。なんか、こう、弾みつけて。いいい・言うた記憶はある。うん。

この事例は、K氏が学生時代の吃音経験について語った後の会話である。K氏が学級委員長になった時に、「起立、例、着席」という号令をかける時に、身体に弾みをつけ、その弾みと同時に言葉を発した経験であり、それにM氏も同調して話している。「近況報告」では、発表者の発言を遮ることはあまりなく、発表者のペースに合わせていた。しかし、「テーマを決めた話し合い」では自身の考えを発言するという点では似ているが、疑問に思うことがあれば「近況報告」と比較すれば自由に討論することができる場であった。良いことは互いに褒め合い、おかしいと思うことには随時コメントがなされた。「テーマを決めた話し合い」についても、「近況報告」と同じように過去34回分の例会内容を参照し、吃音に関する題目で討論をしているか集計した。その結果、「テーマを決めた話し合い」が行われたのは16回であり、その中で吃音に関する討論がなされたのは8回であり、吃音に関しない討論がなされたのも8回であった。このように、「テーマを決めた話し合い」においても吃音に語りが多いという訳ではなく、吃音とは無関係の話し合いと比較しても、その割合は変わらない。そして、最後に説明するのが「3分間スピーチ」である。

「3分間スピーチ」とは、まず、参加者がB5程度の大きさの紙に自由にテーマを書き、その紙をM氏に渡す。全員の紙を受け取ったM氏がその紙を無作為に参加者に振り分け、そのお題に関して話す内容を考える時間を5分から10分ほど設ける。そして、M氏が指名した人から発表が始まり、その後は近況報告と同じように、発表内容について質問がある人の質疑応答が行われ、発表者が次の発表者を指名することで、順番が回っていく。

以下の事例に登場するT氏は60歳代の男性である。T氏は連発性と難発性の吃音を併せ持っており、その症状は徳島言友会の中で最も重い。現在は定年を迎えて家で過ごすことが多くなり、人と話すことが少なくなってきたという話をされていた。次の事例は7月21日の例会で行われた「3分間スピーチ」においてT氏の語りの場面である。

[事例4:「嚼む」ことを気にせずに話す]

T(60歳代 男性) M(60歳代 男性)

T:まあ、普通、一般的に、言われる旅行は、ほなけん、国内とか、海外とか、まあ、1人旅とか、団体の何とか、色々、ありますけど、また、自分も、まあ、今まで、生きてき・きた中で、ほとんどは、まあ、まあ、他の、ひ・人から、まあ、「行かんか。」と言われてほとんど、行っているのが、旅行ですけど。まあ、自分、も、ちょいちょい、こうね、き・なけん、国府の何があるんですけど、なけん、朝早うに、一番の何で乗って、

池田の方に行ってもいいなあ、と思う時もあるんですけど、まだいっぺんも、そういうことも、実行してません。ほなけん、まあ、ししししししししし・死んでしまうまでには、

M: (笑)

T: そういう事もしたいなあ、と。ふらっと、何も決めんと、東行ったり、に・西行ったり、まあ、そういうんもまた、そういうんもええなど、思います。まあ、自分、まあ、今の所1人やけど、まあ、ほのまま、自分1人になってしもて、放浪みたいになって、しし・しまうようにも思て、1人旅っていうんはあんまり、ようしません。まあ、ほなけん、なんかあって、あります。んで、自分本来は、まあ、1年に1回や2回、また、言友会でもあるんですけど、ほの日の、ほんまに、ほのひひ・ほの日の、当日に、ならんかったら、まあ、ちゃんとせんのやな、支度。で、いつも、バタバタしとんですけど、ほなけん、ほんまに、したかったら、あの、早うから、なけん、1日前ぐらいに、ちゃんと準備しといて、ほの日はただ、起きたらすぐ、パッと行けるように。(笑) あの、したいんですけど、いち・・いつも、ほなけん、その日になるまで、何もせんと、ほっといて、ただ、バッグに詰めて、パッと行ってます。まあ、そういうんがええんか、いかんのか。(笑) まあ、知らんのんですけど、まあ、ほれからは、まあ、1人旅みたいなんも、あの、し・・したいと思ってます。以上です。

事例4はT氏が「旅行」というテーマについて自らの経験を話している場面である。T氏は池田方面へ旅行をしようとすることもあるが、1人旅というものにあまり乗り気ではない経験談。そして、旅行の前日までに準備をすることがなく、当日に用意を済ませてしまうことを語り、今後は1人旅もしてみたいということも考えているようである。この語りは、吃音について触れておらず、ただ単に「旅行」というテーマについて語っているだけである。この語りでは、先程の「テーマを決めた話し合い」とは異なり、吃音とは関係のない話題であることが分かる。無論、発表のテーマとして吃音が設定された場合には吃音に関して話すであろうが、筆者が参加した「3分間スピーチ」において吃音について語った者はおらず、「3分間スピーチ」の活動の中においては吃音について全く触れていないと言える。

徳島言友会では吃音に関する活動を主として行っていると考えていたが、そうではないようであった。第二節で述べたように、言友会とは、「吃音を克服、改善する」という目標を持った吃音者の自助組織である。しかし、事例を見てきて分かったように、吃音とは関係のないような、話者のプライベートについて語る場面が多く見られた。それは、言友会の「吃音を克服、改善する」目標を達成することとは関係がないように思える、悪く言えば他愛もない会話であった。そして場合によっては、言友会活動の大半を他愛もない会話が占めることや、吃音について全く語らないこともある。では何故、吃音者の自助組織であるはずの言友会では、他愛もない会話、目標を達成する活動とは無関係に思える活動を行っているのでしょうか。活動に参加すればするほど、その姿は不思議に思えた。

第四節 徳島言友会における「嚼んでも語る」認識

言友会では、吃音による言葉の言い淀みを治療するという考え方ではなく、自分らしく生きる道を探そうと、「嚼むこと」という身体的特徴として相対化する活動が行われている。このことは、言友会創立 10 周年に採択された言友会宣言において「治す努力」から「治す努力の否定」へと活動方針を決定したことから読み取れた。それでは、吃音者は言友会の活動を通じ、どのようにして吃音スティグマをただ単に「嚼む」ことへと認識を転換したのか。吃音者が「嚼む」ことという新たな認識を獲得した姿を見ていこうと思う。次の事例は、5 月 20 日の例会において行われた「言友会外部でも吃音を気にしているか」という題目での「テーマについての話し合い」において、T 氏の語りである。

[事例 5: 嚼んでも語る]

T(60 歳代 男性)

T: 俺の場合はもう、なんて言うたら、一番い・いかん例やな。まあ言うたら。なるべく話せんと、なるべく話せんと、そういうところで、まあ、ずっとおったんやな。2 つの会社行ったけど、す・言えんなあ。す・30、30、32、3 年かなあ、おったんやけんど、もうあんまり、だけん、話せんと、ここまで来たけん、ほの当時と今とほんなに今と変化がないように思うんやけん、やっぱり、今の方がやっぱり図々しいわな。言えんでも、こう、平気でおれるっていうんが、やっぱりほら、人間 10 歳や 20 歳とこの年のお・おっさんがやな、おんなじ状態やったらほれはまたおかしいしな。恥ずかしいや言うてな、こんなとこもけえへんしな。やっぱり、図々しいなってくるわな、やっぱり。あんまり変化せえへんでも。言えん状態であっても、やっぱり 20 歳、10 代、20 代と 50 代のおっさんがほんなんして、あるはずがない。やっぱり今まで、あかんなりに、色んなこと、あんまり経験はしとらんけん、ほれなりに生きてきたつもりやけんね。ほたらやっぱり、俺やは、こんなことは・言えるなんではないんやけん、俺やみたいな人間はなるべく、人前に出て、やっぱり話したほうがええな。自分があかんけん、俺が出来んかったけん、まあ、若い子にほやって言うんやけんとな。ほの時は、嫌で、しんだあて、居たあないわって、もう、こんなとこ嫌じゃって思うだろうけん、ほれが 1 年経ち、5 年経ち、10 年経ってきた時にやっぱり、ほれなりに効果があるとおおお・思うんよな。このは・話す、話したり、人前でこう、こういう時に、ほの、ほういう経験よおけたら、ほれが普通になってきて、少々言えんかっても、まあ、人が見たら、あの子、ちょっとちやうなと思われても、ほれがだんだん普通になってきて、あんまり変化せんようになる、なると思う。それはへ・変化せんのがな、ええんかいかんのかほれはししし・知らんでよ。ほなけん、ほういう風にして、やっぱり話していたら、なんで、この頃はほんで、話せんように、せんように、なんか、ししし・社会自体がほういう風にしていきよんか知らんけんとな

この事例は、T 氏が吃音と長い間付き合ってきた経験談である。その中で、自身は人前で食べることに恐怖心を抱いて発話の場面を避け、なるべく話をしないように生活していた

様を語り、若い吃音者には人前でもっと話をしてほしいと語った。これまでの経験から T 氏は、人前で「囁む」ことに対して否定的な姿勢を持っていた過去の自分から、人前で「囁む」ことから逃げてしまうことに否定的な姿勢を持つようになっていたことが分かる。つまり、この事例では、自ら発話の場面から逃げてきた T 氏自身を反面教師として見るように語り、若い吃音者に同じ道を歩んでほしくないという思いを語っているのである。5月の例会は筆者にとって2回目の参加であった。そのために、会話の中に登場する若い吃音者を筆者と重ね合わせているようであり、この語りの中でも T 氏と目が合うことが多かった。この語りから、現在の T 氏は「囁む」ことが悪いものではないという考えを持っていることが分かる。では、どのようにして「囁む」ことに対する考え方を転換させたのであろうか。

この疑問を解消するために注目すべき点は、事例中に引いてある下線部である。下線部は、「32、3年かなあ」という言葉が発話しようとしており、語頭の「さ」という言葉の続きが言葉として出ないために「囁んで」いる。「32、3年」とは、話の時系列を説明するものであり、会話の流れを考えると無理に説明せずとも言いたいことは伝わる。また、会社に長期間在籍していたことを話したいのであれば、「長い間おったんやけんど」でも、「ずっと前やけどな」というような言葉に言い換えることも可能である。しかし、T 氏は自身が考えた文章をそのままの言葉で発しようとしているのである。この部分に言友会活動の意義が隠されていると考えた。その意義が何か、筆者の経験を基に考察する。次の事例は、4月21日の例会で行われた「吃音の対処法」という題目での「テーマについての話し合い」において、R(筆者)の語りである。Rは連発性の吃音を持ち、その症状は徳島言友会の中では中程度である。また、事例中に登場する S 氏は、徳島言友会で会長を務める44歳の男性である。会長職は例会で M 氏のような仕事をする訳ではない。仕事としては、徳島言友会の連絡先は S 氏となっているため、徳島言友会の顔として外部と繋がりを持つだけなのである。筆者が徳島言友会に参加する際には S 氏に連絡を取り、例会の日時・場所を教えていただいた。その吃音症状は筆者から見れば、吃音者と言われた今でも吃音を持っているようには見えないほど軽度である。

[事例 6:発話を諦める]

R(筆者 20歳代 男性) S(40歳代 男性) K(60歳代 男性)

R:あ、いいですか?あと、ほの、ぎ・議論するみたいのがすごい苦手、で。ま、こう、今もすごい順番が時間があったんで、ちょっとまあ、考えてたんですけど、考えてたんで喋れるんですけど、パツて振られると、やっぱり何も喋れなくなるのが・(苦手です。)すごい、うん。なんか、喋ろ・喋る内容よりも、吃らんようにみたいなのがずっと頭の・でかくて、そういうのが。

S:議論する時にな、喋る内容を考えるよりも、喋らない方法を、努力しすぎてな。

R:そう、いつも、無口になっちゃう。(笑)

K:うん、内容かか・内容の方に頭がいかんケースがある。うん。ほら、ワシやでもこの年がきて、そそ・そんま苦労しよるけんな。皆一緒やけんな。

この語りは、筆者自身が吃音の対処法について語った後に、吃音に関してどういう場面に苦手意識を持っているかを語っている。筆者は議論や討論のような、とっさに話題を振られた際に自分の意見を表示しなければならない場面が苦手である。「意見を考え、文章を組み立て、吃らない言葉に言い換えながら、吃る部分をなるべく少なく話す」というプロセスを瞬間に行うことに気をとられ、伝えたい内容がおろそかになってしまいがちであった。ここでは、下線部に注目していただきたい。下線部をそのまま読むと、「パツて振られると、やっぱり何も喋れなくなるのが すごい、うん。」と、意味の伝わらない文章になる。例会後に会話を書き起こした際に、文章が通じないことに筆者が気付いたものである。そして、本当に伝えたかったことを再考し、括弧内の「苦手です。」という言葉を書き加えた。本来ならば、「やっぱり何も喋れなくなるのが苦手です。」と発言したいことを、吃ることを恐れて諦めているのである。「テーマを決めた話し合い」は活動の後半ということもあり、この事例は活動開始後約2時間が経過した際の発言であるが、同じ吃音を持つ者達の前においても、吃ることを恐れる意識があるということだ。

しかし、その認識も徐々に変化を見せ始めた。以下の会話は、先ほどの事例6から1ヶ月経つ5月19日の例会において行われた「言友会外部でも吃音を気にしているか」という題目での「テーマについての話し合い」において、Rの語りである。そして、この語りは、「テーマを決めた話し合い」での総括として、司会を務めていたRの発言でもある。また、事例に登場するZ氏は66歳の男性である。Z氏は難発性の吃音を持ち「あ」や「えーっと」という言葉を会話に挟むことが多い。小・中学生の頃はM氏と同じ学校に通っており、現在は市場で働いている。

[事例7:吃音認識の変化]

R(筆者 20歳代 男性) M(60歳代 男性) Z(60歳代 男性)

R:ありがとうございました。まあ、最後に一言なんですけど、ま、さい・この一ヶ月、あのま・前に言友会に参加して、ま、一ヶ月経って、ま、よく、最近よく食べるようになったんですよ。(笑)

M・N・Z:(笑)

R:ていうのも、あの、なんか、この、あんまこう、誤魔化さんくなってきたっていうか、

M:うんうん。

Z:うんうん、はいはいはい。あー。

R:こう、今までこう、あんまり吃っ・りかけたら、もうちょっと言わなか・かったこ・言葉ちょっとずつ言うようになってきて、ま、食べるようになってはき・たんです。で、まあ、ま、伝わらん、こ・こう、意味が伝わらなくて意味ではちょっと悪いかもしれないんですけど、まあ、気持ち的に、まあ、吃りに対する考えかか・方が、まあ、ちょっと変わってきて、まあ、よかったなど、今、思っています。

Z:やろうって気になったんやな。ほれはええ。

R:そんな感じです。(笑)

このRの語りは、徐々に吃音が悪いものではないというように認識が変化したことで、

人前で「嚼む」回数が増えたという経験の語りである。先ほどの事例 6 でも記したように、吃音者は人前で吃ることを恐れ、発話の場面を避けようとしがちである。しかし、これまで人前で吃ることを恐れ、それを隠そうとしてきた吃音認識が変わる中で、徐々に「嚼む」こととして吃りを恐れなくなっている。4月の例会に参加した経験を通して自身の吃音と向き合うようになったことで、「嚼む」ことという新たな認識を獲得している過程である。では、この認識の変化はどのようにして起きたと見るべきであろうか。

筆者が言友会での活動への参加を続ける中で1つの疑問が浮かんだことを思い返していただきたい。不思議なことに、言友会活動においては吃音に関する語り以上に、吃音とは無関係の他愛もない語りが非常に多く、言友会の例会に顔を出したからといって必ずしも吃音について討論する訳ではないということである。言友会の話し合いは楽しいものの、毎月の例会はあくまで会の形式通りのマンネリ化した進行がなされ、何年も活動を続けていたいと思うほど驚きや発見に満ちているものではない。これらの吃音を克服する活動とは無関係にも見える活動の意義は、会話を「楽しむ」というファクターのみで説明できるものではないということである。そこに、事例 5 の T 氏が「32、3」という言葉を発話したことが関係している。事例 5 では、「嚼む」言葉から逃げださずに、「嚼み」ながらも言葉を出そうとする努力が見られた。つまり、吃音者は言友会という場において「嚼む」ことに立ち向かい、「嚼みつつ語る」認識を手に入れる活動を行っていたのである。その認識は事例 6 と事例 7 の間に一ヶ月の期間があるように、言友会に参加した翌日に手に入るものではない。事例 7 の段階においても、その認識を手に入れる過程にいただけである。「嚼みつつ語る」認識は一朝一夕で獲得できるものではない。その認識を手に入れるための「嚼みつつ語る」活動は、自身の吃音について語る際にも行われているであろうし、他愛のない会話の中でも絶えず行われていると見るべきである。すなわち、一見すると吃音を「克服する」という言友会の活動とは無関係に思えた活動にこそ意義があったのである。

第五節 徳島言友会の活動が持つ意味

徳島言友会では、主として3つの活動が行われている。1つ目が「近況報告」である。「近況報告」は全ての例会の前半部で必ず行われている活動である。事例1と事例2から、「近況報告」において、参加者は自身の吃音症状を語る場合と、吃音とは無関係の語りを行う場合があることが分かった。その割合は、吃音について語る場面は少なく、吃音とは無関係の語が多い。そして、言友会活動の後半部では、「テーマを決めた話し合い」もしくは「3分間スピーチ」が行われている。「テーマを決めた話し合い」においては、吃音に関する討論をする場合と、吃音とは無関係の討論をする場合の割合は等しかった。そして、「3分間スピーチ」では、吃音について話す機会は皆無であることが分かった。つまり、徳島言友会で行われる活動の中で吃音について語る可能性があるのは、「近況報告」で自己の吃音症状について話す場合と、「テーマを決めた話し合い」で吃音をテーマにして話し合う場面に限られているのである。このことから、徳島言友会では吃音について語る以上に、話者の何気ない日常を語る場合が多くなっていることが分かる。言友会活動では、「吃音を克服、改善」する目的とは無関係に見える、話者の日常を語る他愛もない会話が多く行われていたのである。

だが、無意味にも思えた他愛もない会話にこそ、言友会活動の意義が隠されていた。それは、「嚼みつつ語る」認識を作っているということである。「ことばの言い換えや話し方に取り組むことによって、吃音者は”滑らかな”相互行為に参入しようとする」(渡辺2003:185)。しかし、言友会では、あえて滑らかに発話する努力を放棄していたのである。徳島言友会は、吃音者しかいない環境において、「嚼む」ことを恐れずに自由に「嚼む」ことを志向している。吃音者は「嚼みつつ語る」活動を行う中で、「嚼みつつ語る」認識が身体に刷り込まれていくのである。

吃音を恐れずに話すことで「嚼みつつ語る」認識を得た吃音者は、「嚼む」ことを恐れなくなる。しかし、その認識を得たとしても、言友会外部の社会に出れば問題として浮かび上がることがある。その問題とは、周囲から揶揄や嘲笑の的となることや、滑らかに発話しようとする会話認識とのジレンマである。吃音者の中で「嚼む」ことを恐れない認識を得たとしても、周囲から見るとその姿は何の変化も見せていない。なぜなら、「嚼みつつ語る」吃音認識とは、言友会内部における認識であるからだ。「嚼みつつ語る」認識を手に入れたとしても、吃りの恐怖は時として表出する。その恐怖は身体に強く刷り込まれているものであり、馬鹿にされることがあれば吃音者は問題として捉える。また、周囲の人が上手く話している姿を見れば、自身の話し方が滑らかではないことに気付くこともあるだろう。それによって当然ながら上手く話したいという欲求が出てきてしまう。このように、吃音の問題が浮かび上がってしまう要因はどこに隠されているのだろうか。

第三章 吃音のスティグマ化

第一節 吃音がスティグマとなる経緯

「食べる」ことの恐怖とはどういうものであり、何故問題として浮かび上がるのか。吃音は、吃音者の身体に吃音スティグマとして刷り込まれている。そこで、吃音スティグマについて説明していく。スティグマという言葉についてゴフマン(2001)は、「適合的と思われるカテゴリー所属の他の人びとと異なっていることを示す属性、それも望ましくない種類の属性」(ゴフマン 2001:15)であると述べた。つまり、世間一般で言う「普通」と呼ばれる、多数側が作った認識から逸脱していることを指しているのである。それは、肉体上の奇形であったり、性格上の欠点とされるもの、人種や民族、宗教というような集団に帰属されるものもある。有病率が人口の1%であるとされる吃音のスティグマとは、99%の普通に発話ができる人によって形作られるものである。その吃音スティグマについて理解するために、吃音が身体化されるプロセスについて見ていきたい。次の事例は4月21日の例会において行われた「吃音の対処法」という題目での「テーマについての話し合い」においてK氏が小学校時代の経験を語ったものである。

[事例 8:「吃音」に気付いた時]

K(60歳代 男性) S(40歳代 男性) M(60代 男性)

K:ほなけどなあ、私やも子どもの頃小学生の頃じゃ、小学生、幼稚園からかな、親が、進級して、学校の先生が変わる度に「うちの子ども、あの、食べるけん、うん、気いつけて下さい。」とか。なんとか言うんを、親が言よったわよ。

S:うーん。ほれ知っとんですか？

K:ほら知っとる。

S:うん、親が言よったことを？

K:そうそうそうそうそう。ほなけど、ほの時は、まあ、あんまり苦にせんと、自分も、そうだからそうやなと言う、ことな。うーん、ほなけん、学芸会や主役にしてくれなんだ、中々な。(笑)

S:うーん、あえて、ね。

K:うん。ほれでやっぱり、同級生から冷やかされるんを、せせせせ・あの、せせ・先生から守ってほしいと。うん。いう風なつもりだったんか知らんけんどな。うん、ワシらもうほんまに、ちっちゃい頃幼稚園しし・小学生2年生ぐらいまでかなあ、吃り出したら話ができんけん、「言えんわ！」や言うて、自分で。うん。か・家族の前で飯食いながら、ご飯粒飛ばしもって「言えんわ！」や言うて。

S:言う・言うたんですか？

K:うん、自分で言よったわだ。

S:ほれはもう開けてますね。

M:ほら、凄いでなあ。

S:言えんもんねえ。

K:言い出したら言えん・言えん、詰まって言えんでえな。

S:言えんっていうことを言えるっちゅうことがね。

M:ほれは凄いでえ。

S:ほれは凄い。

K:ほれがほなけん、小学校に上がって段々と、なんちゅうん、誤魔化すようになってきたんだろな。うん。ほら、ほの替わり、国語の教科書やは、明日ここや言うたら、母親に読まされよったわだ。

事例 8 は K 氏が小学校低学年の頃に、言葉の言い淀みを吃音として捉えていなかった事例である。しかし、親は K 氏の担任に学級の中で特別な措置をとるように伝え、家庭では、同級生の前で吃らないように国語の教科書の本読み練習を強制した。K 氏の親は、言葉の言い淀みを悪い事として捉え、K 氏の話し方を治そうとした。しかし、これらの経験から K 氏は、自身の話し方に対して、「親から治すように言われる。自分の話し方はおかしいから、治さないといけないものだ。」という考えを持つようになるのである。そして、見逃してはならないのは、「小学生」や、「小学校」という言葉である。K 氏の吃音は大人になってから問題になったものではなく、小学校入学後に既に問題になっていたということだ。K 氏は自らの言葉の言い淀みを隠さなければいけないことであると認識し、問題視するようになってしまった。このような、吃音を問題視するようになった経験は人によって様々である。そこで、他の事例も見ていきたいと思う。

次の事例は 4 月 21 日の「近況報告」での、O 氏の語りである。O 氏は 4 月の例会に遅刻し、S 氏の近況報告の最中にやってきた。その発表順番は事例 2 の M 氏に次ぐ 7 番目であった。O 氏は 50 歳代の男性であり、現在は病院に勤務している。連発性の吃音を持っており、症状は比較的軽度である。語りのペースは他の参加者に比べて遅く、言葉を選びながら話しているようである。

[事例 9:吃音に触れられたくない O 氏]

O(50 歳代 男性)

O:森田療法の、あの、森田療法っていうんがあって、ほの、えー、森田療法っていうんは、今の自分を、えーと、うーん、あるがままに、えー、受け入れるっていうんが基本の考え方なんですけど、まあ、ほの本の中に、吃りで悩んでいる人が、えーと、こう、全国言友会連絡協議会っていうんがあって、徳島にもあると。で、そこに M さんの連絡先があったので、そこに手紙を書いて、出したのがきっかけなんですよ。で、その当時は言友会ってもう、休止状態だって、えーっと、活動してなかったんです。で、まあ、年に 1 回、忘年会っていう、それに顔出してたんですね。それから、えーと、先ほど M さんが仰られたように、えーと、まあ、今から 15 年ぐらい前ですかね。もう一度、徳島で言友会を復活させるっていう集いがあるって、それに参加してまあ、現在に至っているんですけど。でまあ、私は、あの一、小学校の、もう、低学年の頃から自分が吃りっていうのを意識して、まあ、国語の朗読の時間とかは、とにかくもう嫌だったんですよ。こう、順番にこう、朗読の順番が回ってくるんですけど、こう他の生徒が読んでいっ

ていうことは全然頭に入らなくて、次自分が、あの一、当たるだろうっていうとこぼっかりに集中して、全然周りの、はな・喋っている、朗読してるっていうのが頭に入らなくて、そこぼっかり気にしてるっていうような状態で。本当にこう、なんて言うんですかね、こう、暗い、えー、少年時代、青年時代、まあ今でも非常にこう、悩んでいる事には変わらな・変わりなくて、あの一、まあ、改善、というには至ってないんですけど、まあ、あの一、吃りっていうことに対してはもの凄くこう、ほの一、自分の中では、そのことについては触れてほしくない。こう、子どもの時代のこう、友達と遊んどっても、自分の、吃りに関しては触れてほしくないっていう感じで、まあ、禁句みたいな感じの状態だったんですけど、まあ今は、まあ、カミングアウトというか、自分から、まあ、そういうことも、吃音に対する、こう、話題に関しても、まあ、喋れるようになってきたっていうのは、まあ、多少の進歩とは、まあ思うんですけど。でもやっぱり、人前で喋るっていうこと自体に関しては、基本的にやはり緊張しますね。あの一、まあなんていうか、あの一、えー、対人恐怖症っていうんですかね、ひび・人に会うというのがに・苦手というか、社会的に、こう、社会的な、しゃ・社交的ではないっていうか、あの一、なかなかこう、対人関係を上手いこと、こう、うーん、作れないっていうんですかね。やっぱり、自分一、自身に、こう、自分にこう自信がないからこう、なかなか自分からこう、打ち解けていけないというか、まあ、そういう所は基本的に変わってないかなあって思います。でまあ、あの一、ちょっと長いこと話すぎてますね。

S:いやいや、いいですよ。

語りの前半部は、O氏が徳島言友会に参加しようとしていた20年ほど前は活動を休止していたため、年に1回の忘年会に継続的に参加し、徳島言友会を再興した時から現在まで活動を続けているという話である。そして、後半は自身の吃音に関する語りである。O氏も、先程紹介した事例8のK氏と同じように、「小学校」や「低学年」、「少年時代」という言葉が出てきている。O氏も小学校低学年の時から自身が吃音ということを認識し、友人にもそれを触れられたくはなかった。O氏は自身の吃音がどういう経緯を経て悪いこととして見なすようになったのか、K氏が記憶していたこととは異なり、具体的には分からないようである。これに関しては筆者も同じであり、小学生の頃に国語の授業の本読みに悪戦苦闘した記憶があるものの、いつから、どういう経緯で気にするようになったのかは正確に記憶していない。すなわち、O氏も筆者も、吃音に悩むようになったのは、記憶に残っていないほど過去の話であるということだ。池田(2000)によれば、多くの吃音は3、4歳に始まり、その気付きのタイミングは人それぞれであるが、その多くが就学前から小学校低学年のうちに意識するようになる。これらの提示した事例でも、小学校低学年のうちに吃音に気付いているという共通点が見られた。すなわち、吃音スティグマとは主として就学前後からの問題であり、長期に渡るプロセスを経て身体化されているのである。

第二節 吃音問題の表出

吃音が長期間を経て身体にスティグマとして身体化されていると論じたが、そもそも、吃音が身体化されているとはどういうことであるのか。事例を参照しながら見ていきたい。次の事例は、5月19日の例会において行われた「言友会外部でも吃音を気にしているか」という題目での「テーマについての話し合い」において、吃音問題が再表出した経験についてO氏の語りである。

[事例 10:吃音問題の再表出]

O(50歳代 男性) R(20歳代 男性)

- O:若い時に比べて吃音は改善し・してきたかなーっていう風に思ってた時があったんですよ。ただ、ほの、あの一、ま、何年か前に仕事一上でこう、管理職になって、まあ、なんて言うのかな、人を引っ張っていかないかんような立場になってから、あ、吃音で自分、何も自信無いのにほんなんが上に立ってええんかみたいなの、ほれーって、新たなこう、あ・・悩みっていうか、ほういう不安っていうんが出てきて、こんな自分が上に立ってええんやろかみたいなの。ほういう不安っていうか、ほういう精神的な悩みっていうんが出てきて、で、今に至っとおっていうか。ほれで、こう、あの一、吃音がこう、改善してきたのにほういう悩みが出来て、吃音そのものはほなに変わってないのに相対的にこう、喋るのが苦手になる・なっている、っていうか、こう、今の立場やったらもっとスムーズに喋れない・いかんやろかみたいなの。ほういう、なんていうのかな、こう、ほういう、ま、自分の中でイメージを作ってもとうっていうか、ほれが新たな悩みっていうかな、ま、ほういう風なこう、何故か自分で自分を、こう、苦しめるような所があるなあっていう風に。わ・分かっとなやけどほういう風に思い込んでしもおっていうか、ほういう所がありますね、はい。ほんなもんですけど。はい。
- R:部活とかでなんか、段々上の方になってくると、やっぱそういうやっぱ下の人とかに指示とかもなんか、せないかんくて、やっぱりちょっと悩んだり。
- O:下っ端の時やったら全然悩・悩み、ほんなこと考えてもなかったもんが、こう一、上、今・今までこう、小さい時からこう、あまりこう、リーダーシップっちゃうか、ほういうリーダーになったことっていうんがあんまり無いんですよ。だから、ほういう、なけん、若い時、子ども時代、学生時代に、なんかほの一、あの一、ほういうちょっと人の頭に立って、人を引っ張っていくようなことを経験が出来とったら、だいぶその辺りはこう、精神・今の精神的な不安ってだいぶ違とったんでないかなっていう風には思とるんですけどね。

この語りの導入部において、O氏の吃音症状は言友会活動を通じて改善してきているように思われていた。また、職場で下の立場にいた時は「嚼む」悩みもなく、不便を感じることもなかったようである。しかし、仕事上の立場の変化に伴ってO氏は吃音に悩むようになった。O氏は言友会活動を15年間続け、吃音に対して向き合うことができているようであった。O氏の語りの2段落目にも、「下っ端の時やったら、ほんなこと考えてもな

かった」という言葉があり、自身の認識としても顕れている。この語りにおける吃音問題とは、本人の吃音症状が悪化したために起きたものではない。むしろ、O氏自身の感覚として吃音自体は改善してきたように思われていたからである。しかし、身体的要因とは別に、社会的要因の変化から吃音スティグマに再度悩むようになったのである。同じような事例は他にもある。次の事例も先程の事例と同じく、「言友会外部でも吃音を気にしているか」という題目での「テーマについての話し合い」において、Z氏の語りである。

[事例 11: アルバイトの面接官]

Z(60 歳代 男性)

Z:俺の場合で言うたら、気にはなるな。気にならん、ほら、人それぞれやけん分からんけど。俺やわ商売しよったけん。ほの、カネ金っていうんですよ。うちわね。ほの、まあ、ほの話しよったら長あなるけんあれやけど。電話とるんが嫌なんよな、まずな。カネ金の力が言えんのよ。(笑) ほれがほんまに、あの、若いときにもう、電話取れるんやけど、力が言えんけん相手は「あ、おらんのや、なんや、聞かんのやな」と思てな、切るわけよ、電話を。ほたら、商売にならんのかな、こっちな。ほんで、皆がよけおったらよけいかなのよな電話ってな、あれな、電話取るときって。誰やほなけん、よお携帯電話になったけん助かったと思てるんよ。自分でこう、コソオって言えるでえ。大きな声で皆の目を気にせんと。ていう風に、やっぱり、職場では、あの、気にしよるな。ほれと、あの、例はよくあるんやけど、ほういう、えーと、えーと、あー、忙しい時？に、えーと、アルバイト雇うんですよ。3~4人ぐらい。ほの、ちょっとの間だけね。あの、お盆と正月。やっぱり、こう、えーと、面接したり挨拶したりするじゃないですか。ほたら、やっぱり、ちょっと、え、えーと、あの、吃音があるっちゅうんは、ごつい、えーと、あの、その時は、えーと、あの、意識しますね。その、あの、自分が上手い事言よらんっていうことが分かるからね、自分自身で。ほたら、相手は、えーと、えーと、あー、えーと、あの一、あのえと、学生さんが大体多いですから、やっぱり、こう、そんな気持ちを分からんわね。笑うわね。やっぱりほんなんは、あの、笑われても、こっちは仕方がないっちゅうか、ほんなそのことに対して怒る訳にはいかんし。ほれと、あの、しゃ・えーと、あ、えーと、えーと、あ、えーと、あの、斜視なんですね、僕はね。こう、えーと、あの、あ、あ、あの、目を見てくれたら分かるように。こっちとこっちと、えーと、あ、両方で見よるんですよ。あの、あの、あの、片一方ずつしか見えないんですよ。あ、あ、あつと、今こっち見てますけど、今はこっち見てます。これが全然違うんですよ。ほなから、ほういう、あの、面接の時には、えー、あの、しゃ、こちら向いて喋ってくれているのかなー？っていう顔をしますよね。ほなけん、ほういう、えーと、えーと、あの、二つのことが、あの、今のほの言う、あの、あの、気にするか気にしないかって言うてもいつでも付いてまわります。はい。

Z氏の語りの前半は過去の語りである。若い時には電話に苦手意識を持っており、特に携帯電話を持つまではそれも続いていたようだ。そして、後半は現在の語りである。お盆

や正月のような書き入れ時には、人手が足りなくなるためにアルバイトを雇っている。しかし、その面接時には自身の吃音と斜視が学生に笑われることもあり、吃音が気になるそうだ。Z氏は生活をしている上で吃音問題と対峙することはないようである。しかし、「職場の、多忙になる前の、アルバイトの面接」という特定の場面において吃音問題に立ち向かわねばならなくなるのである。これを、事例10のO氏で言うならば、「職場で、上の役職に立った時」という特定の立場になった時に吃音問題と対峙するようになったというものだ。2人の状況は異なっているものの、その根本的な問題は変わらない。それは、2人ともが、時として再表出する吃音問題に立ち向かわざるを得ない状況にあるという点だ。

言友会では、吃音を「治す努力」を否定し、「克服、改善する努力」を言友会活動として取り組んできた。それによって吃音者らは、言葉に詰まりながら話すことを、吃音というスティグマではなく、「嚼む」ことという認識を獲得することで吃音と上手く付き合うことができているように見えた。しかし、これらの事例にあるように、吃音とは「嚼む」こととして認識し、それとともに身体要因が改善したとしても、社会要因の変化に伴って再表出するのである。なぜならば、第一節で論じたように、吃音スティグマは長期間を経て身体化されているからである。では、「嚼む」ことという認識はどのようなものであるのか。

第三節 吃音がスティグマ化されるプロセスの特徴

吃音スティグマ化の過程は、以下のようにまとめることができる。多くの吃音者は幼稚園入園前に吃音が発症する。その時点では、家庭での庇護によって、社会からの情報が管制されており、吃音者自身は吃音に気付くという精神的経験から距離を置かれた立場にいる。家庭での庇護について、伊藤(2004:18)の著書で、吃音者の母親達は保健所や児童相談所、かかりつけの医者などから、「育て方が悪い、愛情が不足している、ストレスをかけ過ぎているのではないか」と、指摘を受けてきたと言う相談が寄せられるケースが記されている。周囲から指摘を受けた吃音児の親は、上手く喋ることができない子どもを庇護しようとする。それは、周囲の指摘から逃れるために、子どもを表に出さなったり、喋り方を治そうと発話練習をさせたり、教師に特別措置をとらせるように頼むようなことである。しかし、家族の者たちが吃音者を庇護し得ない事態が起きると、吃音児は自身の発話と非吃音者の発話が異なっていることに気付き、一種の精神的経験をするようになる。それは、言葉の言い淀みを悪いものとして自ら認識するものではなく、周囲から認識させられるものである。小学校入学はしばしばスティグマを自覚する機会であるとされ、嘲笑、揶揄、仲間はずれ、喧嘩という形で精神的経験をするようになる。家庭では極少数の人間としか話す機会がなかったが、入園後、就学後にはそれまでに話すことのなかった多くの他人と、吃音者本人が1人でコミュニケーションを取らねばならなくなる。これによって、自身の話し方が他者とは違っていることに気付かされるのである。自身の話し方が他者と違うという経験と、それに伴う精神的経験を経るなかで、言葉の言い淀みを悪いものとして認識した吃音者は、自分の欠点に関する情報をどう管理／操作するかという問題に直面する。この問題は、吃音の可視性にあると考えられる。可視性とは、「ある人がスティグマを持っていることを〔他人に〕告知する手がかりがスティグマそのものにどの程度備わっているか」(ゴフマン 2001:88)というものである。他人のスティグマが明らかになるのは視覚を通してであることが多い。例えば、車椅子に乗る者がいれば「足が悪いのだろうか？」と思うであろうし、白杖を突いて歩く者がいれば「目が悪いのだろうか。」というように考える。しかしこれらと比べ、吃音とは外見から全く判断することができないスティグマである。それは音から障害が知れるものであって、相互行為の場面に突如として現れるものである。考え方によっては、「吃音とは、吃音者の遣り様によって隠し通すことが可能なものであり、非吃音者と同じように振舞うことができる。」と、思考を転換することもできる。言葉の言い換えや、意識してゆっくり話す、さらには発話の場面を自ら遠ざけることで、情報が露呈する機会を減らそうとするのである。なぜなら、吃音の情報が暴露されてしまえば、嘲笑や揶揄の的になり、自身の信頼が損なわれてしまうからだ。そうすることで、非吃音者と同じように振舞おうとするのである。そしてこれが、吃音者の<パッシング>(ゴフマン 2001:81)である。吃音者のパッシングとは、他者を眼前にした際には非吃音者と同じように振る舞おうとし、その情報を管理／操作することによって、自己のアイデンティティや信頼を保とうとすることだ。つまり、吃音を持つ者達は、「吃音者の語り方」を隠すために「非吃音者の語り方」を目指そうとする。「非吃音者の語り方」を上手く演じることができれば、非吃音者として見られるのだ。吃音者達は「吃音者」と「非吃音者」という2つの境界を絶えず越境しながらコミュニケーションを図っているのである。このような越境を

経験する者は、その状況がいつ崩壊するか分からないという心理的不安を絶えず抱えており、それが非常に大きな負担となる。また、情報を管理／操作する上では、信頼を失う可能性のある社会的場面に敏感でなくてはならないため、その可能性がある行為に対して敏感になる。事例 8 や事例 9 で国語の本読みの話として出ているように、吃音者達は信頼を損なう可能性のある場面を事前に察知し、それに対応しようとした。吃音者達はこのような場面に立ち向かうために、絶え間ない努力によって「非吃音者」を演じようとしてきたのである。しかし、他者とのコミュニケーションは日々行われるものであり、自身の喋り方を悪いものとして見なしながら発話をするということは、心理的に大きな負担である。その中で、吃音スティグマは吃音者の身体に強く、丁寧に塗り重ねられていった。吃音者の滑らかな発話を目指す努力は、同時に吃音が悪いものであるという認識を刷り込むものがあり、それこそが吃音スティグマを身体化させる過程でもあったのである。

このようなプロセスを経て身体に厚く刷り込まれた吃音スティグマをイデオロギー的に払拭することは困難なことである。事例 10 や事例 11 でも見られたものはその例である。社会的立場や環境の変化に伴って吃音問題は再表出する。それは、事例 10 のように、自分自身の認識によって自ら苦しめてしまうものや、事例 11 のように他者から嘲笑をうけることによって起きてしまうものである。その結果、それまで吃音認識を「嚼む」こととして捉えようとしていたにも関わらず、再び吃音をスティグマとして捉えるようになってしまう。これらの事例から読み取れるように、吃音問題とは、言葉の言い淀みの程度という身体的な問題のみで捉えられるものではない。それは、長い時間をかけた社会的要因によって意味付けられ、身体化されていることが分かった。また、「吃音」から「嚼む」ことへの認識転換も可逆的なものであることが明らかになった。それでは、この危うい「嚼む」ことという認識を持つ吃音者達は、時として再表出する吃音問題にどのように立ち向かうのか。

第四章 「嚼む」ことと付き合う

第一節 対処しようと試みる吃音者

本章では、これまでの議論から、言友会に所属する吃音者達がどのようにして再表出した吃音問題と対峙するかという問いを明らかにする。そのために、本節では、徳島言友会に参加する吃音者が現在進行形で吃音を改善しようとする姿を見ていこうと思う。次の事例は4月21日の例会において行われた「吃音の対処法」というテーマについてT氏の語りである。

[事例 12:舌の運動]

T(60歳代 男性) S(40歳代 男性 会長)

T:よく、思います。ほんで、あの、まあ、先日も、テレビを、観ていましたら、この、人間の中で、く・口の中にある一、この、しし・舌がいかに重要であるかということを、テレビで言っていました。ほたら、この舌はね、僕やの、ほの、吃りも関係しとんではないかと、一瞬、思いましたので、まあ、テレビ観もって自分でこう、書いたんですけど、やっぱりこの、舌、舌の動きがよかったら、やっぱり、まあ、言っていましたけど、こう、ま、まあ、ここでいう発声練習やったら「か、た、ぱ」やいう発声があるんです。これが、舌で色々せんと、ほの「か、た、ぱ」は言えんていう話なんですね。舌を、舌をどないかせんなら、ほの、「か、た、ぱ」ていう、発声がでけんという、ほたら、ほう・ほういうんがあったり、この、今もしていましたように発声練習、ほれプラス早口言葉やいうんがありまして、ほれもやっぱり、やっぱり、喋る人とかほういう人はやっぱり早口も、余計話やすい、ほういう話です。ほれで、ほれを聞いてみましたら、全然話せん人は、あかんと。やっぱり、女の人と男の人で比較した場合、年取った場合は、女の人の方が、全く、もう、こういう病気があるんですね、この、舌がおかしいなったら、あの一、まあ、食べもんでも食べる時でも、入ったらいかん、所は、ありまして、この、食道にこう入っていかんと、この、息をする、肺の方へ入ったりしてねえ、病気になるったんよ。ほたら、ここの、この、この、ほこでこう調整する、あの、べん・弁みたいなのがあって、ほの弁がもう、ええ年になったら思うようにい・いかんとか、ほういうんはあ・あったりしてね。やっぱり色々あるんですが、ほなけん、お喋りも、せんなら、・・あかんという、事を言っていました。ほんで、まあ・・このほうの事については、まあ、こう、口をつぐんで、この舌をねえ、こやって、右と左に3回ずつ回転さすとか、ほれかねえ、こう、つぐんで、ほれでベロあんまり大きいないけど、ベロ出して、ベロこうして、左右にこう、はようにこう、動かすとか、ほういうような、あります。まあ、こういう話で、あんまり、(笑)

S:いやいやいや。

T:勉強には、ならんと思うんですけど。あの一、やっぱり、俺やは、もう、こんな聞かんなら、舌やはただ付いとおだけかいなと思てね、

この事例では吃音の症状を改善しようとする姿を「舌の運動」と「早口言葉」という方法において見る事が出来る。特に T 氏が取り入れようとしているのが、「舌の運動」である。テレビで舌のことを聞き、舌を左右に動かすことで舌の動きを良くすることで、より滑らかに発話しようとしているのである。このことに私は違和感を覚えた。なぜなら、これは過去に行われた民間吃音矯正所で行われた吃音矯正と同じと言えるからである。T 氏は滑らかな発話を志向し、それを目指すために吃音症状をおさえようと努力している。言友会が否定してきた活動を現在も行っているのである。同じような事例として次の事例も見ていきたい。以下に記す事例は、7 月 21 日に行われた「近況報告」での、D 氏の語りである。D 氏は 50 歳代の男性であり、職業は公務員である。吃音症状は徳島言友会でも比較的軽度であり、客観的に見れば会話に支障が出ているようには見えなかった。

[事例 13:電話対応]

D(50 歳代 男性)

D:えーっと、こんにちは。えー、御無沙汰しております、えー、D と言います。徳島市の富田町に、から来ております。えー、仕事は公務員をしております。えー、家族は、嫁と、えー、大学 1 年の娘と、えー、高 2 の息子、の、4 人家族です。えー、近況報告はあんまり、あ、えー、娘が、県外の大学に行きまして、今部屋を借って 1 人で生活を 4 月から始めとるんで、家族が 1 人減って、あの、最初はちょっと途惑った、というか寂しかったんですけど、今だ・だいぶ、3 人の生活に慣れてきた、とこです。仕事は、えー、税金の仕事をしております。えー、ま、えーと、私の、吃りは難発で、えーと、難発性の吃音です。えー、さ・最近ていうか、ここ、ここ、1、2 年ちょっと調子が悪うて、えー、え、電話で、鳴門、電話で鳴門市っていうのが言えなくて、あの、「な」っていうんがすごい、もう、どないしょ、どど・どないしょとお・思っ、ほんでまあ、あの一、前、えーっと、それで、車の中で、あの一、まあ、(1)調子が悪うなって、よお、あの一、(2)車の中で、通勤、車で通つとるんで、さ・3、40 分あるんですが、車の中で、あの一、鳴門、「な、なーと」最初の言葉をこう、伸ばすような形、「なー」伸ばすような発声練習をするようにして、それでちょっと今、だいぶ効果が出てきたようで、電話する時もこんまい声でこう「な、なー」あの電話かける時に、「なーと、なーと」って言いながら、電話をかけたら、案外こう、出来、でで・出来るようになって、今ちょっと自信がついた

この事例の D 氏は、電話に出る際に「鳴門」と発声したいものの「な」という言葉が出ない事に苦悩する現在進行形の経験を語っている。D 氏はこれに対処するために、通勤の車内では「なーと」と、発しにくい「な」という言葉をあえて伸ばす発声練習をしている。そして、電話に出る際には「なーと」と、誤魔化しながら発話することで問題に対処している。これが下線部 2 の話である。この対処法は、まさしく過去の民間吃音矯正所において行われていたディストラクション効果による吃音矯正法である。この対処法を続けていけば、同じ対処法の効果が薄くなり、「なーと」という発声法でも声が出なくなる場合がある。また、その時に成功した動作が日常化すれば、現在は「鳴門」が出にくい状

況であるが、「なーると」という方法でしか「鳴門」を発音できなくなる。吃音を対処しようと努力することによって、正確な発音が困難になるという別の苦悩を生み出してしまうのだ。本節で記した事例は、民間吃音矯正所での矯正方法と似た古典的な方法である。しかしながら、現代でも吃音者達はそれと同じような方法を用いて吃音に対処しようとしていることが分かる。

ここで注目すべき点がある。本事例で説明を省略していた下線部 1 である。D 氏は常日頃から「鳴門」を発音するために「なーると」と発声している訳ではなかった。「調子が悪」くなるまでは、何事もなく発声できていたのである。D 氏が吃音を気にするようになったのは、下線部 1 にあるように、吃音の「調子が悪」くなったからである。そして、吃音の調子こそが、言友会活動の目標を達成する上で注目すべき点であると考えられる。

第二節 吃音の特徴

言友会活動を続ける吃音者達の吃音の調子とは何であろうか。吃音の調子について説明する前に、まずは吃音の癖について解説する。なぜなら、第二章第一節で述べた伊藤(2004)の定義に従えば、吃音を1つの疾患として説明することができるが、生物医学的に吃音を一つの「疾患」と見なしたとしても、症状は一括りに説明できるものではないからである。次の事例14と事例15は4月21日の例会の「近況報告」においてK氏とR氏が自身の吃音の癖について話したものである。

[事例14:K氏の吃音の癖]

K(60歳代 男性)

M:はいはいはい。

K:いう風なことで、えー、声がかかって、えー、他におらんのか?ということで、話してはおるものの、またやらなしやあないんかなと、ま、ここで、けんど食べるんが理由で、断るんはみっともないなど。まあ、思うんですが、やはりそういう、タイミング、機会があると、吃らんように上手いこと喋らないかんなど、こうプレッシャーがある。で、えー、私、食べるのは、タ行。ほれと、まあ、ほれ以外にも食べる訳やけど、慌てて言うたらカキクケコ、の行なんかも吃ります。1番苦手なのは、たた・タの行、自分の名前、K、それと住所、高花、それと県外言った時には、徳島っていう、

M:(笑)

[事例15:Rの吃音の癖]

R(筆者 20歳代 男性)

R:それと、まあ僕が苦手なのが、ア行とか、カ行が苦手で、挨拶系とか凄い苦手です。今思い出したのが、やっぱり、しょ・正月が、あの、「あけましておめでとうございます」が凄い嫌いで、正月は嫌いでした。(笑)

M:(笑)

R:でまあ、そうですね、やっぱり、挨拶系とか、そういう、あの、敬語とかで「お」をつけるのが凄い、今苦手で、す。でまあ、克服していけたらいいなあと、思ってます。ま、はい、よろしくお願いします。

事例14では、K氏はタ行の文字から始まる言葉の発声を苦手としており、場合によれば「カ」行の言葉でも吃りやすいと語っている。例えば、「タマゴ」とか、「トクシマ」というようなものである。そして、事例15のRはK氏とは異なり、「ア」行や、「カ」行、その中でも「お」という言葉が発しにくいと語っている。「おめでとうございます」や、「お願いします」というようなものだ。同じ吃音を持っていたとしても、吃音者それぞれの特徴があることが分かる。K氏とRでは、「カ」行の言葉に「嚼む」共通点があるものの、それ以外の苦手意識は異なっている。このように、吃音という疾患には、吃音者それぞれ

に「特定の言葉で吃りやすい」というような癖がある。

そして、次の事例では、省略していた「吃音の調子」について説明する。事例 16 は、4 月 21 日の例会で行われた「吃音の対処法」という題目での「テーマについての話し合い」において T 氏の語りである。

[事例 16: 吃音症状の調子]

T(60 歳代 男性)

T:俺や、ほなけん、みんなとは反対で、なるべく話せんような、しししし・仕事とか。まあ、ほういうんで、で、みな参考には絶対にな・なれえへんと思うんですけどね、やっぱり、ほういうんではやっぱり・・いかなので。あの、一番ええんわね、こう、し・知つとる人とかの場合が多いんですけど、もう、ここで言えんでもええわと、どど・・吃ってもかんまんわという、なにがでけたらね、案外ね、ごっつい自分の気持ちが落ち着いてね、ものすごく言いよい。今これ言いよいでんな、なけん、な。あがってひもて、もう、何言よんか分からんかったら、もう言葉も出えへんし。そういうことがあり・あります。なけんもう、なんかの拍子で、もうここで、もう言えなんでもええわ。ほなけど、話せないかなあと思うことが・あったときあったんですけど、ほんときは妙になんか、シーンとこうなって、落ち着いて、自分がものすごく、もうスラスラもういつもとちゃうなと思うぐらい話で・・でける日も、ちょいちょいやけんあります。ほなけん、じ、いつもかもがほういう風に自分をほなけんもって・・いけたらええんですけど。やっぱり場面場面があるし、ほの日の自分の調子もあったりするんで、い・いろいろ変化すると・思いますけど。やっぱり、ほなけん自分がなんしにあの時は調子がええて、言葉も、ス・スラスラ言えて、ほんな時はなあ、自分の、人の顔を平気でこうみみ・見たり、も、でけるような感じです。あかんときはやっぱり人がおらん所を見たり、ね、下向いたり、こう、するんですけど。妙に言えるときはこう、シ・シーンとこうなるしねえ、心臓もこないなれえへんし・バ・・バクバクなれえへんしね、ほんなときは。ほなけん、ほんなときが一回でも二回でもあったらええと思います。ほなけん、一番ええんわね、自分が言えん、・ど・ど・・吃りじゃというんを皆に・あの・ししししししししし・知ってもうたら案外後は、か・ほない恥ずかしいとか、ほんなん無いように思います。

事例 16 は、60 年という長い時間を吃音と生きてきた T 氏が、自らの吃音の考え方について語っている場面である。焦ってしまえば、どうしても言葉が出にくくなるが、気持ちが落ち着いて話をするのできる日もあることを語った。この中で注目するのは下線部である。先程の事例 13 にも出てきたような、「ほの日の自分（吃音）の調子もあったりする」という言葉が出てくる。吃音とは、人それぞれによって身体的症状に違いがあることは事例 14・15 でも説明した。そして、その吃音症状を変化させる要因として、「吃音の調子」というものが存在するのである。吃音は、その日の身体の調子に左右され、言葉が出易い日と、出にくい日があるのである。そして、それは日々刻々と変化する。いつもならば、「な」という言葉でよく「嚼む」のに今日はスムーズに話せるとか、いつもは「嚼まな

い」言葉に今日は詰まってしまうということである。

吃音とは、吃音症状を一括りに説明できるものではない。人によって吃音の癖があり、それぞれの吃音に特徴がある。そして、その症状は吃音の調子によって日々変化を見せるため、個人の吃音症状を決まった枠で捉えることができないのである。

第三節 吃音に対処する身体技法

第一節で述べたように、徳島言友会では過去の民間吃音矯正所で実施されていた矯正法を用いて吃音を治そうとしているように見えた。それは、ディストラクション効果によるものが大きく、過去の吃音矯正法も徳島言友会で行われている吃音対処法も、吃音を誤魔化すという意味では同じ意味を持つようである。しかし、ここで注目すべき点は、過去の吃音矯正法は一般法則的発想であったということだ。例えば、楽石社における吃音矯正法は吃音者全員に腹式呼吸を徹底させ、発声練習によって声帯を開くように指導するものであった。つまり、「甲さんの吃音が良くなったから、乙さんも効果があるだろうし、当然ながら丙さんにも効果がある。効果がでないのは、その人の努力不足だ。」という考えのもとで矯正が行われていたのだ。その矯正方法に違いはあるが、他の民間吃音矯正所における吃音矯正法も、楽石社の思想と大差はない。過去の吃音矯正とは、吃音者の身体が一様に同じ症状として扱われていたのである。

しかし、徳島言友会で行われる吃音の対処法とは、この考え方が異なっている。徳島言友会では吃音に対処する上で、自己の身体を考慮しているのだ。それは、吃音の癖や、吃音の調子の良し悪しを見極めることである。吃音症状の違いを理解することで、過去の考え方ではなく、新たな認識を持つことができる。それは、「私は、甲さんの吃音対処法でよくなったけれども、人によって身体状況は違うから、それぞれのやり方がある。乙さんに効果はないかもしれないし、当然ながら丙さんにも効果はないかもしれない。」という認識である。自己の吃音認識を他者に強制しないのだ。吃音者は、自らの意思で自己をコントロールする技法を取捨選択している。ここで言う自己をコントロールする技法とは、モース(1976)の論ずる身体技法である。身体技法を獲得する意義とは、「冷静、持久力、真摯、沈着、威厳などを培うことである」(モース 1976:155)。吃音者は、「嚼む」ことによって生じる問題に対して、吃音対処法を用いて矯正する訳ではなく、身体技法を上手く利用して回避しようとするのである。彼らは各々の「嚼み」そうな身体を見極め、それに応じた技法を用いることによって、それぞれの環境で吃音に抗おうとしているのである。

第五章 おわりに

第一節 「嚼む」ことと身体技法

言友会では、1976年に採択された言友会宣言以降、吃音に伴う社会的苦悩に対処するために古典的な吃音矯正思想である「吃音を治す努力」を否定し、「吃音を克服、改善する努力」を目標として活動に取り組んでいる。それは、古典的な吃音矯正法として食べる発話を滑らかな発話へと矯正するものではなく、吃りをただ「嚼む」こととして捉えるように認識を変えるものである。そこでは、吃音に対する討論を中心に活動していると思われたが、筆者が参加した徳島言友会の活動内容は、その目標を達成する活動とは無関係にも見える活動が多かった。吃音に関する語り以上に、吃音に関係のない語りを多く交わっていたのである。それは、「近況報告」で行われるような話者の何気ない日常の会話や、「3分間スピーチ」で行われる発言のことである。これらの語りは、吃音認識を転換するというイデオロギー的な実践をしていないように見えたが、この活動の意義を考えることによって、徳島言友会で行われている活動全体の意義を知ることができた。それは、「嚼みつつ語る」身体を作っているということである。吃ることを恐れる吃音者は、言葉に詰まりそうな時に、ことばを言い換えることや発話を避けることがある。吃音によって「嚼む」ことが悪いことであるという認識を持っているからである。その認識を転換するために、徳島言友会では積極的に「嚼む」活動を行うことによって「嚼む」ことが悪いものではないという認識を作り出している。言友会活動の半分以上の時間を割いて他愛もない会話を行っている意義はそこにある。その、「嚼む」ことという新たな認識は、吃音者が自助組織に参入したその日から獲得できる訳ではないため、「嚼みつつ語る」実践を反復しているのである。

しかし、「嚼みつつ語る」認識を手に入れた吃音者は、時として吃音スティグマに悩むようになる。吃音者にとっての吃音スティグマとは、就学前後の幼い頃から数十年かけて身体化されたものである。そのスティグマは、日々の生活の中で身体に強く刷り込まれたものであり、それによって「嚼むと（あるいは嚼むことを恐れて）語れない身体」が構築されているのである。また、病いの新しい認識とはセルフヘルプグループ内部における認識であり、イデオロギーを変えただけで対処できるような問題ではない。吃音とは、身体的に治療することができないため、言友会外部に出れば「嚼む」認識は意味を成さないのである。つまり、外部の社会において吃音は問題として再表出する可能性を孕んでいる。

そして、第四章では、再表出する吃音問題にどのように対処するのかを見てきた。徳島言友会に参加する吃音者達は再表出した問題に対して、一見すると過去の吃音矯正所で行われていた対処法と同じものを利用しているようであった。「吃音を治す」努力を否定してきた言友会であるが、その中では吃音を治そうと努力する姿も見え、本来の目標とは矛盾した活動を行っていた。だが、それは過去の吃音矯正とは異なる方法であった。民間吃音矯正所における矯正法とは、吃音者を鋳型にはめ込み、一様に同じ矯正をするものであった。しかし、徳島言友会における身体訓練とは個々別々の身体に目を向けたものであり、それを踏まえた上で社会的要因の変化に伴う問題に立ち向かう。そして、吃音者達は吃音矯正ではなく、吃音に対処する方法として身体技法を用いるのである。このような自己ケアの技法の獲得というグループ内部の学習過程について田辺(2008:162)は、「ケアの諸技法

は、個々人の病状、生活上の便宜やスタイルにしたがって選りとられていく」とした。吃音者達は自助組織内で交換される身体技法の知識とは、誰しにも効果のある技法ではないと認識している。吃音には身体的特徴に差があることを理解しているからだ。そして、自己の身体の特徴を理解することで、「嚼む」ような自己の身体を管理する。そうすることによって、それぞれの身体にあった技法を用いることができるのである。

すなわち、吃音とは心身二元論的に考えるべき問題ではないということだ。心身二元論とは身体と精神を分離した考え方のことであり、吃音に関して、身体を治すか思考を転換するか、というそれぞれを個別に考えるべきではないということである。吃音を疾患として見なさず、「嚼む」ことであるという認識を手に入れる言友会活動は、徳島言友会が再興してから16年もの間行われてきた。しかし、吃音スティグマとは、長期間を経て身体化されているためにイデオロギーを変えただけで対処できるものではない。そのため、吃音者達は身体技法を用いて問題に対処しようとする。それは過去の矯正法の失敗を生かし、吃音者それぞれの身体を考慮した技法である。すなわち、徳島言友会において、吃音を「嚼む」こととして認識を転換するとともに、時として問題として表出する吃音に身体技法を用いて対処することによって、吃音という個性と付き合う活動が行われていたのである。

第二節 考察

これまでの議論をもとに、徳島言友会活動における知識の習得と自己アイデンティティ再編の意味をレイヴとウェンガー(1993)が提唱した実践コミュニティの概念を用いて検討する。彼らが実践コミュニティの事例として挙げた仕立屋コミュニティにおいて、徒弟は仕立ての知識や技術を習得する過程を経て、コミュニティ内でのアイデンティティもその集団における社会的な中心へ移行していく。仕立屋コミュニティでは、コミュニティの中心に「親方」というアイデンティティが存在する。徒弟は、コミュニティに入った当初は簡単な仕事をこなし、熟練するにつれて困難な仕事をこなすようになり、いずれは自身が親方となる。コミュニティでの活動を通して、周辺の参加から十全的参加への進行がプロセス化されている。しかし、徳島言友会の活動において吃音に関する知識や、吃音に対処する技法は交換・習得されているものの、そのことと集団内におけるアイデンティティの移行との間に関係性は無いように思われる。なぜなら慢性病患者による自助組織においては「集団への参加に情報交換や新たな知識の獲得という目的が部分的にあるにせよ、技術の習得や熟練メンバーとなること、つまり社会の十全なる主体的な参加者になることを目指しているわけではないからである」(浮ヶ谷 2007a:27)。では、吃音者達が自助組織に集う意義とは何であるか。

浮ヶ谷(2007b)は糖尿病患者会<Yの会>を、経済的・社会的に構造化された「他者の場」として例に挙げた。<Yの会>は、院長やナースというような医療専門家によって用意されたものであり、そこでは患者が主体的に活動に参加する「自主的」な患者像が構築されている。このようにして形成された<Yの会>は、社会(医療的言説)によって認識が構造化されているため、「他者の場」という性格を持つ。糖尿病を持つ患者は、日常生活の場における治療実践として、食事療法や運動療法、インスリン注射など、身体に働きかける実践を個人単位でおこなってきた。糖尿病自助組織においては、そのような個人単位の治療実践をおこなってきた患者が集うことによって、個人の実践が集合的実践として再編される。例えば、<Yの会>では、ウォークラリーとして、一定時間同じコースを歩いたり、血糖値を測ったり、お弁当を食べるといった集合的実践を経験する。その過程において、「他者の場」の性格を持つ糖尿病自助組織が、「生きられる場」という性格を持って日常生活に接続する可能性を持つ。

「生きられる場」とは、患者会活動に参加する人たちの集合的実践によって生起する身体化された空間であり、「他者の場」と「生きられる場」との関係は同一空間で「ときと場合」に応じて変容しうる関係にあるといえる。ここでは参加者の集合的実践を介して共同性の感覚が生起したり、日常生活での<顔>のみえる関係が現れることによって、「他者の場」としての患者会が「生きられる場」へと変容しているのである。(浮ヶ谷 2007b:168)

<Yの会>には医療専門家が参与しており、そこには医者と患者という関係が存在している。他方、<顔>のみえる関係とは、医者・患者関係ではなく、仕事の話や趣味の話を通じ、患者会に参加する一個人・一個人として、社会的立場を排除した関係にもなり得る関係のことである。徳島言友会では、どの参加者との関係においても患者同士の<顔>のみえる関

係であり、<Yの会>において見られた医者・患者関係は存在しなかった。なぜなら、ここでは吃音に関する専門知の熟練度が患者間の関係に作用しえないからである。このような徳島言友会は、これまでの生物医療の専門家によって創られた訓練の場といった「他者の場」を、「生きられる場」に変えることを目的とした自助組織であると言える。そこでは、吃音に関する語り以上に、他愛もない会話が多く行われていた。徳島言友会の活動においては、<Yの会>において医者・患者関係で行われた<顔>のみえる関係づくりに重きがおかれていた。そこで話者は「嚼む」ことを恐れず発話し、聴者は「嚼む」ことを嘲笑しない。こうした作業を反復することで、それぞれのアイデンティティを互いに承認・確立しているのだと考えられる。

このように徳島言友会の活動においては、おもに<顔>のみえる関係作りが行われている。それは一見すると、「吃音を克服、改善」する言友会の目標を達成する活動とは無関係にも思えるものであった。しかしその活動は、吃音という鎧を脱ぎ捨て、「嚼む」身体をもつ者として「生きられる場」を形成するためには欠かせないものであった。そして吃音に伴う日常生活の苦悩にかかわる他者の語りを媒介にして、参加者達は自己の身体と向き合うことで、自己のアイデンティティを再編する活動を行っているのだと考えられる。

参考文献

- Arthur, Kleinman, 1988, *THE ILLNESS NARRATIVES: Suffering Healing and the Human Condition*, Basic Books. (=1996, 江口重行, 五木田紳, 上野豪志(訳)『病いの語り——慢性の病いをめぐる臨床人類学』誠信書房.)
- 藤島省太, 1987, 「吃音児の交信行動場面における不全態解消の試みについて」『国立特殊教育総合研究所研究紀要』14:83-90.
- , 1997, 「吃音者のセルフ・ヘルプ・グループの現状と課題」『宮城教育大学紀要』32:255-268.
- , 2006, 「調整特性からみた吃音問題の諸相について」『宮城教育大学紀要』宮城教育大学, 41:147-162.
- Goffman, Erving, 1963, *Stigma: Notes on the Management of Spoiled Identity*, New York: Simon & Schuster. (=2001, 石黒毅(訳)『スティグマの社会学——烙印を押されたアイデンティティ』せりか書房.)
- , 1967, *Interaction Ritual: Essays on Face-to-Face Behavior*, Anchor Books. (=2002, 浅野敏夫(訳)『儀礼としての相互行為——体面行動の社会学』法政大学出版社.)
- 呉宏明, 2004, 「伊沢修二と視話法——楽石社の吃音矯正事業を中心に」『京都精華大学紀要』京都精華大学, 26:145-161.
- 伊藤伸二(編), 1976, 「吃音者宣言——言友会運動十年」たいまつ社<新書>.
- 伊藤伸二, 1999, 「吃音と上手につきあうための吃音相談室」芳賀書店.
- , 2004, 「知っていますか? どもりと向き合う一問一答」解放出版社.
- 池田邦彦, 2000, 「どもるあなたによろこそ言友会」全国言友会連絡協議会出版委員会.
- James Mark Baldwin, 1902, *Social and Ethical Interpretations in Mental Development*, London.
- Jean, Lave.・Etienne, Wenger, 1991, *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge University Press. (=1993, 佐伯胖(訳)『状況に埋め込まれた学習——正統的周辺参加』産業図書.)
- 小林宏明, 2008, 「セルフヘルプグループによる吃音がある人への支援の現状と展望: 言友会を中心に」『コミュニケーション障害学』25:164-171.
- 倉島哲, 2005, 「身体技法への視角——モース「身体技法論」の再読と武術教室の事例研究を通して」『文化人類学』70(2):206-225.
- Marcel, Mauss, 1968, *Sociologie et Anthropologie*, Presses Universitaires de France. (=1976, 有地亭, 山口俊夫(訳)『社会学と人類学』弘文堂.)
- 奥村隆, 1997, 「儀礼論になにができるか——小さな秩序・大きな秩序」奥村隆(編)『社会学になにができるか』八千代出版, 77-113.
- 大橋佳子, 2008, 「日本の吃音治療の現状: 直面する課題と未来への展望」『コミュニケーション障害学』25:111-120.
- Pierre, Bourdieu, 1979, *La Distinction: Critique Sociale du Jugement*, Editions de Minuit. (=1990, 石井洋二郎(訳)『ディスタクシオン I ——社会的判断力批判』藤原書

店.)

田辺繁治,2008,「ケアのコミュニティ——北タイのエイズ自助グループが切り開くもの」
岩波書店.

氏平明,2008,「言語学的分析からの吃音治療の展望」『コミュニケーション障害学』
25:129-136.

——,2001,「発話の非流暢性の分節について」『福岡教育大学障害児治療教育センター-年
報』14:73-80.

浮ヶ谷幸代,2007a,「病いと<つながり>の場——民族誌的研究の方向性」井口高志編『病
いと<つながり>の場の民族誌』明石書店, 13-46.

——,2007b,「『他者の場』に集う人たち——糖尿病患者会<Yの会>を例に」井口高
志編『病いと<つながり>の場の民族誌』明石書店, 155-180.

渡辺克典,2003,「相互行為儀礼と言語障害——<気詰まり>を生きる吃音者」『現代社会理論
研究』13:177-189.

——,2004,「吃音矯正の歴史社会学——明治・大正期における伊沢修二の言語矯正を
めぐって」『年報社会学論集』17: 25-35.

謝辞

本論文を作成するにあたり、内藤直樹准教授に熱心なご指導を賜りました。ご自身の調査や研究にもお忙しい中でも、懇切丁寧にご指導をしていただいたおかげで卒業論文として形にすることができました。この場を借りて深く感謝の意を表したいと思います。また、徳島言友会の皆様には快く調査の実施に協力していただいたき、大変お世話になりました。最後になりましたが、的確な助言を下さいました研究室の同期の皆様には感謝しております。ありがとうございました。

資料 徳島言友会例会における会話事例

徳島言友会の活動内容を筆者が文字として書き起こしたものは、4月21日例会の「近況報告」と「テーマを決めた話し合い」、5月日例会の「近況報告」と「テーマを決めた話し合い」、6月例会の「3分間スピーチ」、7月例会の「3分間スピーチ」である。会話中に出てくる黒点・は本文同様、話者が嚙んだことを表している。黒点が1つ・は、言葉に詰まったものの、すぐに次の言葉が出てきた時。世間一般で言われる、「嚙む」というものだ。黒点2つ・・は、約1秒間次の言葉が出なかった時。黒点3つ・・・は、約2秒間次の言葉が出なかった時を表している。その時間は、正確に計ったものではないため、あくまで参考程度に読み進めていただきたい。そして、文字が連続している箇所、例えば「あああ・あ」となっている箇所は、話者が「嚙んだ」ことを示している。

各例会参加者の名前を表すアルファベットについても本文同様統一してある。また、筆者の客観的な視点のため、簡単ではあるが、各参加者の発話の特徴を以下に記載しておく。その説明は黒枠内の通りである。

名前(年齢：性別：例会に参加した月)

吃音症状の特徴

D(50歳代：男性：7)

連発性の吃音を持つ。症状は軽度であるが、意識的にゆっくり話しているようである。

H(60歳代：男性：4)

非吃音者である、言語聴覚士を名乗る男性。4月の例会にのみ顔を出した。

K(60歳代：男性：4,7)

連発性の吃音を持つ。症状は徳島言友会の中でも比較的軽度。徳島言友会では最高齢。

L(40歳代：女性：7)

連発性の吃音を持つ。症状は比較的軽度であった。

M(60歳代：男性：4,5,6,7,9)

徳島言友会で事務局長を務める。連発性の吃音を持っており、その程度は徳島言友会の中でも比較的重い症状。「あの」、「えーと」という言葉を用いることが多い。

N(20歳代：女性：4,5,6,7,9)

難発性の吃音を持つ。言葉がでてこないために、会話が一時的に中断することがあった。

O(50歳代：男性：4,5)

連発性の吃音を持つ。症状は軽度であるが、D氏に近い話し方をしており、意識的にゆっくり話しているようである。

R(20歳代：男性：4,5,6,7,9)

観察者。連発性の吃音を持つ。その症状は徳島言友会の中では中程度。

S(40歳代：男性：4)

徳島言友会の会長を務める。吃音症状は、吃音者の筆者から見ても見てとれず、徳島言友会の中で最も軽度である。

T(60歳代：男性：4,5,6,7,9)

連発性と難発性の吃音を併せ持っており、その症状は徳島言友会の中でも最も重い。

W(20 歳代：男性：5,6)

難発性の吃音を持つ。D 氏や O 氏と同じように、意識的にゆっくり話しているようである。

Y(20 歳代：女性：4)

4 月の例会に参加した。言葉を選びながら発話しているようであり、吃音症状として吃音

を持っているようには見えなかった。

Z(60 歳代：男性：5,6,7,9)

難発性の吃音を持つ。「嚼む」ことはほとんどないが、発話が難しそうであり、「あ」や「えーっと」という言葉を会話に挟むことが多い。

F/G/I/B

会話に登場したものの、その詳細については未確認。

4月21日 近況報告(参加者：H,K,M,O,R,S,T,Y)

M:次に、初めての方もおいでですんで、自己紹介と、簡単な近況報告を、やっていきたいと思います。ほなけん、あの一、終わったら次の方を指名していくような感じで。ほな、1番T君からお願いします。

T:徳島市、国府町から参りました、Tと言います。現在あの、まあ、60歳を越え、あの、ししししし・仕事もなにも、していません。ほなけんまあ、働つきよる、人、いや、勉強しよる人からしたら、ええなあと一瞬思うかもし・・しれませんが、ほないたいして、実際、実際こうなってみたら、ほないも、え・暇があるってあんまりええことではないなど、

M:(笑)

T:よく、思います。ほんで、あの、まあ。先日も、テレビを、観ていましたら、この、人間の中で、く・口の中にある一、この、しし・舌がいかに重要であるかということ、テレビで言ってました。ほたら、この舌はね、僕やの、ほの、吃りも関係しとんではないかと、一瞬、思いましたので、まあ、テレビ観もって自分でこう、書いたんですけど、やっぱりこの、舌、舌の動きがよかったら、やっぱり、まあ、言ってましたけど、こう、、ま、まあ、ここでいう発声練習やったら「か、た、ぱ」やいう発声があるんです。これが、舌で色々せんと、ほの「か、た、ぱ」は言えていう話なんですね。舌を、舌をどないかせなんだら、ほの、「か、た、ぱ」ていう、発声がでけんという、ほたら、ほう・ほういうんがあったり、この、今もしてましたように発声練習、ほれプラス早口言葉やいうんがありまして、ほれもやっぱり、やっぱり、喋る人とかほういう人はやっぱり早口も、余計話やすい、ほういう話です。ほれで、ほれを聞いてみましたら、全然話せん人は、あかんと。やっぱり、女の人と男の人で比較した場合、年取った場合は、女の人の方が、全く、もう、こういう病気があるんですね、この、舌がおかしいなったら、あの一、まあ、食べもんでも食べる時でも、入ったらいかん、所は、ありまして、この、食道にこう入っていかんと、この、息をする、肺の方へ入ったりしてねえ、病気になったんよ。ほたら、ここの、この、この、ほこでこう調整する、あの、べん・弁みたいなのがあって、ほの弁がもう、ええ年になったら思うようにい・いかんとか、ほういうんはあ・あったりしてね。やっぱり色々あるんですが、ほなけん、お喋りも、せなんだら、・・あかんという、事を言ってました。ほんで、まあ・・このほうの事については、まあ、こう、口をつぐんで、この舌をねえ、こやって、右と左に3回ずつ回転さすとか、ほれかねえ、こう、つぐんで、ほれでベロあんまり大きいないけど、ベロ出して、ベロこうして、左右にこう、はようにこう、動かすとか、ほういうような、あります。まあ、こういう話で、あんまり、(笑)

S:いやいやいや。

T:勉強には、ならんと思うんですけど。あの一、やっぱり、俺やは、もう、こんな聞かんなんだら、舌やはただ付いとおだけかいなと思てね、

M:(笑)

T:とても、重要です。食べ物舌に置いて、ほれからこう、右に歯とか噛むんに、舌が無かったら、もうほれがでけんというような、ほれは、重要に思います。ほれで、こういう

ことして、1日、なけん、朝昼晩、3回して、ちょっとずつ効果が、あるかないか、また、何ヶ月後か、1年後ぐらいに、また発表、したいと、お・思います。以上です。

M:はい、ありがとうございました。あの一、T君に何か質問事項。

S:ベロ、ベロの体操は、こう、回したりとか。

T:回したり。

S:横にしたりとか、ていうぐらいですか？

T:はい。

S:あ一、他に、

T:他になあ、ほなけん、なんちゅうんで、俺聞いたんはね、いい加減なけんど、ほなけん、ほんなんしよったら、ほなけん、老人なった場合、ほなけん、もう、50代ぐらいまでは心配ないらしいんやけど、はや60、70になってきたら、食べもん食べよったら、もういらんところに入るって、特に、

S:ベロと、ここの、ほの一、肺に入る所の切り替えっていうんは、ほのベロに、

T:いや、ベロと関係しとるらしいな。

S:ほんなところで？

T:うん。ほんで、ほれも、こう、

M:あれ、電話かかった。S君。もしもし〜(電話に出る)

T:ほれで、俺、まあ、話変わるんやけんど、鍋した後必ず、なに、どうすると思いますか？どうするんが、(M氏からS氏に電話を替わる)よう1番、ほの、変なところへ入らんと思う？雑炊炊いて、ほれと、うどん、蕎麦か、ああいうんがあるわな。噛まんとほのまま、1番、入りやすいんは、肺に入ってしまう、俺、入ったことないけん、ほの、どないなるんかいなど、やっぱり、入ったらいかんらしいな。

K:ほら、気管支に入ったらあれ、苦しいでえな。

T:ばい菌ちよるな、ほんで、食うもんやは、

K:あ一。

T:ほんなところ入っていたら。(S氏電話を切る)

S:誤解があったようで。

M:行てきて。

S:すいません、話の途中で。(S氏退出)

T:ししし・しまいのように、ほんで、俺もこう、言葉が非常にで・出にくいんやけんど、ほういうことしよったら、ちょっとでも、ええようなる可能性もあるように思いますので、これからちょっとずつでも、色んな、あの一、舌の体操とかほかにも色々体操あるわねえ。ほなけん、人間て色々自分でしたほうがええんやな、じーっとおらんと、口は発声して、手も動かして、足もして、頭もこやって、

K:今日だけ言うたんではいかんでよ？

T:いやいやいや、

M・R:(笑)

T:ほれをほなけん、1回でも2回でも、

K:1回や2回ではいかんぞ、

T:したいと、思います。はい。まずは、何ヶ月後か1年後に、また、ほの、今日の発表し

たことを、また発表したいと、お・思います。さっきも言いましたけど、はい。

M:はい、どうもありがとうございました。

一同:(拍手)

T:Kさん、ほな。

K:ああ、私。

T:お願いします。

K:自己紹介と、近況報告、ね。

M:はい。

K:えーっと、石井町、高花のKと申します。えーと、68歳になったところでございます。

68歳ということは、まあ一応、人生、お務めも終わり、ほの一、孫が大きくなって、え一、元気に育つことを願うばかりでございます。仕事は済んだものの、また声がかかって、最近、仕事に行っております。それ以外にも色々とボランティアとか、そういう活動を、しよる訳でございますが、ここい来て、やっかいなことに、さあどうだろという出来事。1つは、6月15日か。え一、石井町有線放送ちゅうんがあつて、これ、総会は、え一、ああ・あの6月15日にある訳なんです、出席者総代500人ぐらい寄ってくる。

M:うん。

K:そこで、議長をしてくれと、

M:はいはいはい。

K:いう風なことで、え一、声がかかって、え一、他におらんのか？ということで、話してはおるものの、またやらなしやあないんかなと、ま、ここで、けんど吃るんが理由で、断るんはみっともないなと。まあ、思うんですが、やはりそういう、タイミング、機会があると、吃らんように上手いこと喋らないかんなど、こうプレッシャーがある。で、え一、私、吃るのは、夕行。ほれと、まあ、ほれ以外にも吃る訳やけど、慌てて言うたらカキクケコ、の行なんかも吃ります。1番苦手なのは、たた・タの行、自分の名前、K、それと住所、高花、それと県外言った時には、徳島っていう、

M:(笑)

K:絶対付いて回るんよな。(笑) ほれが非常に困ったもんだなあ。で、この度も、議長席ちゅうんも、決算書の報告等も、ありますんで、あの一、定款に基づいて、え一、議事進める訳なんです、その中にも、貸借対照表、通期計算書の説明、必ず吃る言葉があるんですよ。ほなけんど、貸借対照表、さあ、困ったなあ、そんな心配もしております。それともう1点、え一、もう1点、5月10日、これわしの大学のほうの、お一、これも、年次総会なる訳です。これは、1000人ぐらいおります。で、この席でこの度、私、徳島支部長6年間しとって、ほんでこの度、引退ということで、え一、替わったんですが。この度、懇談会、OB会やいう会の、功労賞を、あの、ひび・表彰したいと、いう風なことで文章が来ております。で、3名、功労賞で表彰してくれる人がおる訳なんです、その内2名が、もう故人、しん・死んでしもとります。東京事務所長、あの、支部長、東京支部長。ほれともう1人ほの、副支部長、ほの2名、それと私と3名になります。で、1人だから、あの一、う、なんちゅうん、健康な人1人ということで、謝辞を言ってくれと。

M:でや一。

K:こういう話も貰いました。これも、また、徳島支部の K というのを言わないかん、これまた苦手やなど、上手くやれたらええなあと、これもちょっと重荷になっておる次第でございます。とは言いながら、そう、なんちゅうんか、悩んでもしょうがないし、うん。ほれも、挑戦しようかなあと、意地でも挑戦しようかなあと、こんな気持ちであります。まあ、この会で、えー、もし、今度の機会はもう間に合わんのやな、5月10日っちゅうたら。6月は間に合うんか。なんだったら、ここの席でスピーチの練習でもしたいなあと。

M:ああ、

K:こう思うんやけど、

M:参加者募らないかんな。

K:残念ながら、ちょっと日程が合わないと思いますので、まあ、そんな日常でございます。以上でございます。

一同:(拍手)

M:えーっと、Kさんに何か、聞きたいこととか、あったら。あの一、2年前に、石井町の花見ウォークで僕とT君が参加させていただいたんやけど、

K:うんうん。

M:あの時も、主催者代表で挨拶された時に、

K:はいはい。

M:衆議、参議院、衆議院か。国会議員、民主党の国会議員前に置いて石井の、町長、それから並びに、町会議員がズラ一と並ぶ中で、あれだけ立派な挨拶をされたけん、

K:よお、まあ。

M:やっぱりほの、500人ていうのも1000人ていうのも、そなに変わらないと思うんですけど、人数、あの時でも、あの一、100人以上おったと思うんやけど、うん。もう、

K:いや、やっぱりねえ、喋るっちゅうんは、出だしが、スムーズにいけばいいなあと。挨拶なんかでも、まあ、朝早くから、「おはようございます。」で、まあ、ほなけど、ほの「おはようございます。」が、スーっと出るか出ないかが勝負じゃな。

M:うーん。

K:ほしたらあとほどおっちゅうことないじゃけん、うん。

M:母音は、あの、別に言いにくいことないですけどね。

K:うん？うん？

M:母音。「あいうえお」母音。

K:いや、ほれも、ほら、今まで吃ったこともあるし、なんかタイミングによって言いにくい時もあるわな。

M:僕の知ってる人に、母音「あいうえお」が言いにくいから、「ありがとうございます」言えんかって、「どうも」で済ます人もおるし、

K:そこ一、えー、吃るとかいうんは、あんまり考えん方がええんかも分からん。ほれと、特定して吃る吃りかたと、こう慌てて喋るときに吃る吃りかた、これはもう全然違うように思うんよな、うん。「おはようございます」、「お・お・お・」というんが吃りか分からん、

S:お待たせしました。Yさん、連れてきました。

M:あ、いらっしやい。もう、あの、赤になれへんかいなと心配しよった。いけた？

S:ああ、いけましたいけました。

M:いけたいけた。

S:あ、ほな、こっちへどうぞ。

K:食べるも色んなケースがあるように思うなあ。ほの単純に、この場合だけ吃るとかいうんが、必ずしも、まあ、タイミング次第と、まあ、ほんなところでございます。あ、ほな、すみません、自己紹介お願いします。

S:突然すみません、自己紹介からになりますけど。

R:(笑) えっと、はじめまして。

M:こんにちはー。

R:こんにちは。えっと、今日から来ました、えー、Rと申します。今、あの、徳島大学の4年生、で、あの一、そこの常三島の総合科学部というところの学生です。はい。で、なんだろ、まあ、今日来たのは、えと、まあ、1つ目が、あの一、今4年生なんで、来年から社会人になります。で、それで、すごい、社会に出てから、やっぱ不安がすごいあって、ちゃんとやっていけるのかな？とか、思ってた、今まで、バイトとか、も、やらずに、やらずに

4年間過ごしてきて、でももう次は、逃げられないな、と、はい思ってた、ちょっとまあ、なんか、そういう皆さんの話とかも聞けたらいいなあと思って、まあ、今日、来ました。それと、あと、あとまあ、もう1つが、まあ、4年生なので卒業論文というのが、か・書かないといけなくて、それで一、あの一、まあ、なんか、文化人類学ってのを、まあ、先行してまして。あの一、吃音の研究、ま、全然テーマとかも決まってないんですけど、まあ、吃音を持ってる人が、まあ、どういう風に、こう、社会となんか、向き合っていくのか、全然決まってないんですけど、そういう、のをテーマとして、まあ、みなさんの話を聞けたらいいなあと思って、ちょっとSさんに電話、

S:は一。

R:しました。それと、まあ僕が苦手なのが、ア行とか、カ行が苦手で、挨拶系とか凄く苦手です。今思い出したのが、やっぱり、しょ・正月が、あの、「あけましておめでとうございます」が凄く嫌いで、正月は嫌いでした。(笑)

M:(笑)

R:でまあ、そうですね、やっぱり、挨拶系とか、そういう、あの、敬語とかで「お」をつけるのが凄く、今苦手で、す。でまあ、克服していったらいいなあと、思ってます。ま、はい、よろしくをお願いします。

一同:(拍手)

M:あの一、今日、初めて、えっと、来られたRさんに、何か、えっと、聞きたいこと、え、質問あれば、ええ・えっと、どうぞ。

K:Rさん、今日出席、ここでこういう会をしよるやいうんは、

R:はい。

K:なんで？

R:あの、Sさんに、電話して、

S:ホームページかなんか。
R:はい、ホームページ見て、そこから電話して、はい。
S:全言連の、
K:ああ、ホームページ、
S:ですかね？
R:はいはいはい。
K:卒論で書こかつちゅうぐらいやけん、ほなもうあらゆる勉強をしたんやな、ほら。
R:そうです。(笑) まあ、ちょっとだけ、はい。
K:もう、仕上げたん？
R:いや、まだ、まだ、今からです、はい。(笑) 今からちょっと頑張ろうかなと。去年は全然、なんか違うテーマでやって、はい。でも、ちょっと変えて、みようか、ちょっと自分のも・もっと興味のある分野でしてみようかなあって。
K:は一。
M:あの、あ。
R:はい。
K:うん。ほなけんど、今の話、えーと、お伺いしたらほとんど吃ってないし、
R:・ ・
K:どうしてほない、あれかなーと感もするけんど。
R:(言葉を)え・選びながら。(笑)
K:うーん？
R:選びながら。
K:選びながら言ようで？
R:今は、まだ、まだあんまりき・緊張してないの。
K:うん。ほなけんど、吃りってやっぱり、私やこの齡がきて、一生の付き合いや思うな。うん。完璧に、ちゅうんは難しいななあ。全然無意識で、っていうんは、うん、出来んな。うーん、どっかでほなけん、なんちゅうんかな、誤魔化しながら。(笑) ほれと、さっき、ああ・あの、挨拶の言葉、
R:はい。
K:喋り辛いと、
R:はい。
K:仰ってましたけど。喋り辛かったら、こう、姿勢悪うなったり、こう、顔を俯けたり、
R:はい。
K:し・出んから俯くのか、
R:はい。
K:そういう風な経験ないで？ほんなことはないで？
R:し・あ、多分、して・してます。してます。(笑) ちょっと下向いたり。
K:ほれを、真正面向いたら、
R:はい。
K:言えるんやけんど、こう、ちょっと、消極的になって、
R:はい、はい。

K:前かがみになって、ついつい、こう、なんちゅうんかな。積極性に欠けるような、発言も、喋ろうと思うて、小さな声で、喋ろうかなあとか。そういう風に思ったりしたらな、完全に吃るな。

R:はい。

K:うん。いつもほなけん、姿勢真っ直ぐで、視線もな、むしろ上向くぐらいで、うん。ほんで発言したほうが、こう、出やすいように思う。上手に喋ろうや思て、こう、スラーっと、スラーっと喋ろうと思て、あの一、マイクや持って、人前で喋る時な。こう、小さめに屈んで、しゃべ・え一、喋ろうと思たら、声が出んのよ、なんぼしても。うん。ほなけんど、あの一、むしろマイクや外すぐらいでおっけな声で、言うたらわりと出る。と、私の経験上は、うん。ほれで、上手に喋ろうと思て、え一、工夫したら、むしろ駄目やから、うん。ほなけん、前、W君にも言うたことがあるんやけど、W君やも就職の試験行って、うん、始めの挨拶が苦手や言うて言よったけど、やっぱり、正面向いて、物よう言わんのよな、うん。こういうのは、直したら、すっと出るような気がする。はい。私はほんなもんです。

M:あの一、吃音持っている人が、

R:はい。

M:どうやって社会と向き合っていくかっていうのは、この会の例会とかに参加、されたら、大体こう雰囲気か掴めてくると思うんですけど、い・今まで一、あの一、Rさんの周りに、あの一、吃音ていうか、吃りの方、いました？

R:一人だけ、中学校の友達に、はい、いました。

M:うんうん。

R:今はいないですね。

M:今いないんですか、周りに。

R:はい。

M:ええ・えっと、大学、の中では。

R:はい。

M:あの一、今まで、会社訪問とか、いかれまして？

R:今、あの、公務員試験の勉強をしてて、今まま・まだ、試験が、まだこの5月ぐらいからなので、全然会社せせ・とかでは、めめ・面接とか、してもらってないんですけど。

M:あ一、そうですか。えっと、えっと、去年は一、あの一、就活やってるかか・方の、え、面接練習をここで、え・えっと、えっと一、あの一、え一、ノックしたりとか、やりました。それで、試験官には、え一っと、えっと、Kさんとか、海上自衛隊の、えっと、えっと、隊員さんとか、え、えっと、え一っと、市役所にいかれる公務員の方とか、3名、こう、座ってもろて、それで、面接までしたことありますけど。

S:ほら、ええわね。模擬的にね。

M:ほなけん、ほんなんで、えっと、その人なんかで、就職も決まって、今、えっと、休日出勤で、今日も来ませんということで。まあ、ほら、例会はえ、えっと、仕事の休みの日で、ほらこっち、こっち来いよて言うて。あ、え一と、同じ、なんか、Rさんと、

S:Rさんと言うのは、どの、どんな漢字書くんですか。

M:R。

R:あー、ごん・ごんべんに、京都の京って書いて、
M:ごんべんに、
R:はい。
S:はー。
M:京都の、あー。
S:チャゲ、チャゲアスの、
R:そうなんですか。(笑)
S:飛鳥リョウってこんな字でなかった？あー、ほうですか。いいですねえ。
R:ありがとうございます。(笑)
M:ありがとうございます。えっと、次の、
K:指名してください。
M:指名してください。
M:あと一、してないのは一、会長と、俺と、えっと、
S:Yさん。
M:あ、Yさん。
R:じゃ、お願いしても？(笑)
M:(笑)
Y:Yです。えっと、初めて参加させていただきましてのに、遅れてすみません。
S:いえいえ。
Y:えーっと、私も、小学校の低学年から、なんか、言いにくい言葉があるなあとか思て、
悩んでたんですけど。なんか、色々、こう、なんか、通信販売みたいなんで、吃音を治
すやいうんがあって、そういうのもやってみたんですけど、中々、上手い事いかななくて
ずっと悩んどって。ちょっと、歯科衛生士やってるんですけども、うーん、なんか、
上手いこと患者さんに伝えれんなあとと思って、すごい悩んでて、なんか、どうしたら
いいかなあって、行き詰ってまして。で、そういう時に、なんか、あの、「吃音ドク
ター」っていう本を、
M:うんうん。
Y:楽天のほうで買わせてもらって。で、言友会のことを知って、同じ悩みを持つてる人
って、私の周りにいないので、悩み持とう人と、一緒に話ができれば、なんかこう、自
信が付いたりとか、はい、こう、受け止められるのかあっていう。受け止めて、付き合
っていかないかていうのは頭で分かっただけですけど、気持ち的に、何十年経っても受
け止められないっていうのがあるんで、今日みなさんの意見を聞いて、上手に付き合っ
ていきたいなあとと思って、参加させてもらいました。お願いします。
一同:(拍手)
M:えーっと、Yさんに、何か、
K:Yさんも、上手に喋られて、
Y:いえいえ。
K:今、私聞きよったら、うん、ほの、吃りで悩んでいるや言う風なことは一切分からん
訳やけど。
Y:あ、いえいえ。

K:いや、どういうあれが、苦手ですか、どんな時に、吃る。

Y:電話とか、大勢の前で喋るんとか、なんか、気心知れた友達とかやったら全然、吃りません。

K:ああ、ほうか。今日、ほなけど、初めての人ばかりやけど、

Y:いや、あの、自分でも何でか、よう、分からないです。

K:雰囲気さええんかな。いや、この会っちゅんは、ほんまに、安心して、吃りながら喋ってもええわ、と。いう風な気持ちで、こういう会っちゅんかな、うん。鎧着なくても、話が出る。そういう会だろうと、私思っ、出てきよんやけどな、うん。ほなけん、ほんまに今の話だったら、全く分からんでえな。な・何で悩まないかんのだろうと。

Y:うーん。

K:Rさんも然り、うん。

S:やっぱり、こう、あの一、まあ、ああ・あいうえお、とかね。母音とか、ほういう何か、こう、これは言いにくいとかいうんが、決まってあるんですか？

Y:えーっと、カ行とハ行と私、Yなんですけど、ヤ行も言いにくい。

M:(笑)

S:ハ行と、カ行とか。

Y:はい。

M:やっぱり、あの一、さっきTさんが言よった、ベロ。えーと、しししし・舌を、えっと、使う言葉やな。はは・破裂音。ハ行なんかどうですか、破裂音。

Y:あ一、言いにくいです。

M:言いにくいですか。カやもね。

S:やっぱり、意識したら余計にね、なってくるけんね。それなりにあるけんね。

K:言いにくいのは。

S:ほなけど、ほの一、大勢の前で喋る事があるんですか？朝礼とか、そういう何か。

Y:ああ、あります。

S:ああ、あるんですか。

Y:昔のこととかも、フラッシュバックして。

S:電話は電話で、まあ言うたら、こう、あ、患者さんに、話したりとか。

Y:そうなんです。上手い事言いたい、上手い事とか、こう、伝えたい言葉を選んで選んで、

S:はいはいはい。

Y:言うから、

S:言い換えるねえ。

Y:余計に、訳が分からんように、

S:なっけて。私何言よんかいなあというか。

Y:そうなんです。やから、何言ってるか分からないってよく言われる。(笑)

M・S:(笑)

S:患者さんにそういう風に言われたら、

K:ほなけん、言いたい肝心な言葉が出ないから、ほの周辺の言葉を、

S:はいはいはい。

K:言おうとするんよな。

Y:そうなんです。

K:ほなけん、相手に伝わらない。

S:纏めてないということやもんね。

K:歯がゆいんやけんどな、歯がゆいんやけんど、

S:まあ、いっつも一呼吸おいても、ちょっとなかなか？

Y:なんか、もう、意識したら、

S:ああ、いかんと思て、

Y:ゆっくり喋って、一呼吸おいても、もう駄目、

S:ほういう時は。

Y:ですね。そうやねえ。

M:患者さんの、え・よよ・呼び出しとかありますか？

Y:呼び出し、あります。(笑) こう、言いにくい苗字やったらどうしようかなあと思いな
がら。とりあえず、なんとか頑張る言うたりしてますけど。

M:うん。

Y:まあ、別に周りそんなに気にしてないんでしょうけど、私は物凄く苦痛なんですよ。
はい。なんか、

S:今は、まあ、年齢のほう聞くんですけど、えっと、おい・あの一、お幾つでいらっしや
いますか？

Y:いや、あの一、24です。

S:24? はいはい。まあ、確かにねえ、色んな。もう、ほなけん、就職されて、また、

Y:就職、あ、最近、また新しいところへ入るんで、ほれから、あの一、新規の歯医者の方に
行くんですよお。

S:はあはあ。これから？

Y:これから。

S:はいはいはい。

Y:だから、余計不安でして。

S:なるほどね。

Y:はい。

S:今まで、どこ、聞くんもあれやけど。喋るんが、でとかで変わるとかではなくて？

Y:喋るんもあるし、なんか合わんなあっていう。

S:病院が。

Y:体力と、精神的にかなりきてまして、辞めて、次の新規のところへ、行くんですけど。

S:はいはいはい。

Y:どうしよう、みたいな。

S:なるほどねえ。難しいねえ。やっぱ、うちやわ、解決する訳ではないんやけど、色々話
を聞いてもうて、ちょっとでもね、なんか参考になればという。た、あの一、あの人も
そうやね、あの一、眼医者のね、受付されよる、

M:そうそう。あの一、えっと、あの一、あの一、眼科のお医者さんに行かれてる方が、やっぱ
し、その、患者さんの呼び出しで、固有名詞が言いにくい人の名前だったら、あ・え、
えっと、苦労してるみたい。

Y:はい。

S:まあ、ただあの、最後はもう、開き直りっていうかねえ。まあ、それが、それがどしたんになっていう感じでね。(笑)

M:ほんで、やっぱし、ほの一、あの一。ここ・・・えっと、えっと、言葉もそうやけど、その一、場面が苦手っていうか、あの、えー・愛媛言友会の女性会員なんですけど、あの、西條のフジグランに、えっと、勤めてる方で、もう、カラオケはもう、あの、抜群に上手にえ・NHK の喉自慢にも三回ほど、もう出場で、カンカンカン鐘三つ鳴らされた方なんやけど。あの一、フジグランの、えっと、館内放送が全然できないんですって。それで、まあ、あの人、あの、なに、ほれの件は、館内放送が出来るようになったら、言友会に来んようになるけん、もう、館内放送失敗してもええけん、言友会にだけは参加して下さいよ一、や言うて。(笑) それで、中四国大会っていうんがあるんですよ。毎年持ち回りで。去年も、あの一、愛媛の今治で、えっと、やった時に、あの一、えっと、余興でカラオケを歌ってましたわ。

S:上手いんよねえ。

M:大阪のほうでも、関西のコンクールで、なんか、入賞したんやって。

S:聞き惚れてまうね。

M:うーん。

S:あと、ほんまに、目の前で歌手、歌ったらやっぱりほういう気になるんやろね。やっぱり、テレビで見よるとかね、ラジオで聞くとはまた違うけんね。

M:それで、あの一、去年、お父さんが亡くなった時にね、あの一、お棺を送り・送り出すときに、お父さんが、え、えっと好きだった、あの一、なんかこう、え、えっと、弔辞に、えっと、えーっと、何とかって言うのを、歌いながら、

S:歌とたんですか。

M:うん。出棺で、もう涙流しながら、うん。それで、せ・せせ・・・せせせせ・せ・セリフ付きやんか、あれ、な。すごい上手い。

S:すごいなあ、でも、ほういうねえ。葬式の時に出来るっていうんが。

K:吃りの人って歌上手いんやって。私やあかんけんど。(笑)

S:僕やもそうだったんですよ、吃るんやけんど、歌は上手かったんですよ。

K:(笑)

S:いやいや、ほれはええんやけんど。(笑)

M:なんか、えっと T 君、なんか

T:いやあ。

M:Y さんか。

T:ほなってねえ、こやって、今日、来た 2 人と、見て、話して、もう、話しても・もらったんけどな、

M:うん。

T:ほんけ、普通の人やね。

M:(笑)

T:俺やから見たら。

M:(笑)

T:自分としたらな、言えん時は顔がいがんどったんよな。もう、なんて言うん、俺やはタイプなんよ。ほたら、ほんな人が見たらな、もう、ほこまで言えたら、ほない、もう、いけるんちゃうんていう感じになるんよな。自分があかんけん。ほなけど、ほういう人に対してな、こまい事で、こう、ひどおなるっていう人も中にはおるけん。ほういうんかなあと思うねえ。ちょっと言えんことが、ほの人の、こうねえ、ほこに集中してひもて、まあ、あかんとか、自分やの場合は初めから、この人言えんなあと。

M:(笑)

T:吃りやなあと、もう、

M:周りが？

T:話っしょったら思ってくれるけん、いっそ、俺やみたいなんも、ほの点は、ええんかいなとは、思うわね。ほんで、あとはほなけん、思ってくれたら、俺の事知ってくれたら、もう、話しよいしね。初めての人はやっぱり、あかんでしょ、ほらあ、こうしたいわねえ。

K:中途半端な人は、隠しとおせないかんと思て、

T:ほうじゃほなけん、

K:なあ、完璧を、

T:上手な人はほなけん、

K:隠しとおそうと思うけん、苦しまないかんのんだろうな。Tさんが言よんわ。

M:はい、どうもありがとうございました。えっと、ほな、あと一、2人と、どっちか、し・指名してください。ほな、会長、先に言うわな。

S:はいはいはい。

M:えー、皆さんこんにちは。

一同:こんにちは。

M:えっと、徳島市庄町、にすすす・住んでいます、えー、えー、えー、Mと申します。あの、この会で、一応、事務局長を、えーと、やらさ・やらさせていただきます。あの一、年齢は、あまり言いたくないんですけど、66歳です。もう、定年になって、いつの間にか6年になって、えーと、しまいました。ほれでもまだ、現役で一、あの一、クレーン車のオペレーターやっています。今は、藍住町の体育館で、あの一、入ってます。うん。また一、そこと、川内の四国自動車横断道で、あの一、工事やっています。あの一、最近、ものすごくこう、感じるの、現場で、えっと、中国人の労働者っちゅうか、研修生、えーっと、まあ、ていう感じの青年。もう、う・上の、えっと、責任者とか、合図マンとか、えーっと、えーと、玉かけっていうんですけど、あの一、し・品物を上手にワイヤーかけて斜めにならんように、そのまま吊ったりすることを、えっと、えっと、玉かけっていうんですけど。上の無線の合図とか、責任者。あと、それ以外は全員が中国人っていう感じで。今、屋根の、えっと、乗せ板あげてるんですけど、あの一。藍住町の、えっと、体育館が、80メートルの40メートルっていう、お・規模で、う・上が、屋根がドーム型になってるんですね。ほんで、また、中国人がほとんど上に上がってるんです。ほの、日本人と中国人を見分ける方法、えっと、分かる方が居たら教えてほしいんですけど。顔は、もう、全部一緒なんですよ。それで、ヘルメットの後ろ見て、あの一、王(ワン)さんとか、シャーとか、リとか書いて、ああ、この人中国、だったんやなっていう感じで。あとは、安全带とかしてるのも、全然おんなしなんで、朝、休憩所

入って行って、「おはよう。」て入っていて、こう、向こうからは絶対に、は・話かけ
んていうか、え・えっと、声掛けはないんですけど、こっちからこう、言ったら、ニコ
ーっと笑って話したり。日本に来る前に、1ヶ月間の、まあ、教育っていうか、えーと、
特訓を受けてくるらしいんで、あの一、「おはよう、ありがとう」まあ、そういう、あ
れ、は、大体してるんですけど。えっと、えっと、鳶さんで、1年という方はもう、日
本語言うことが全部分かって、向こうからも受け答えが出来て、「シャー、お前頭がえ
えなあ。」て言うたら、『えー。』っと、こう、えーっと、する(謙遜する)んやけど。「あ
と、まだ、えーと、2年おれるなあ。」、『はい。』ってまあ、研修生やから、えーと、3
年間おって、ほれから中国へ、えっと、帰るんやけど、うん。結構、向こうでも100万
円で、家が建つらしいんで、あの一、送金も、してるみたいで、そんで、始末して、煙
草とかは、「お前、日本の煙草持って。」、『いえいえ、中国から送ってもらってます。』
て言うて、中国の煙草持ったりして、ほれでもう、あの一、やっぱし、小泉が、えー、
えーと、日本をぶっ潰すって言うて、あの一、きき・えっと、規制緩和して、ほれ以来、
もう、あの一、派遣業もどんどん改正されて、まあ、建設業と公安と、警備は、派遣社
員送り込むことが出来るので。やっぱし、労働力が安い、安い賃金で、え、使える中国
人が入ってきてるんでないかなと思うんですけど。もう、皆もう、あの一、日本人がこ
れ、仕事無いんも、領けるっていうような感じで、もう、ほんまに、もう、乗っ取られ
るんでないかなっていうような感じ、感じになってます。中国の人は集団で行動するん
で、もう、すごい賑やかです。5人でおったら、もう、中国語でワーワーワー言っ
てますねえ。一応、まあ、近況っていう、現場はそういう風な状態なんですが。えーっ
と、私事のほうでは、あの一、2年前から、詩吟をは・始めて、始めてて、あの一、発声
練習にいいなあっていうんで、これ、あの一、上手いへへへ・下手はともかく、週に1
回だけ、あの一、2時間練習に通ってます。それで、まあ、その、あの一、石井の中
央公民館でこないだ、昇段試験があって、2段に受かりまして、あの一、えっと、えっ
と、雅号っていうんですか、雅に号って書いて、その一、頂いて、「俊堂」っていう名
前を頂きました。あの一、励みにしてます。以上、ま、こんな所なんですけど、終わ
ります。

一同:(拍手)

M:えー、次、えーと、最後、

S:質問ないですか？

K:Mさん事務局ってけど、いつから、何年からならっとな。

S:もうずうっとやね。(笑)

M:僕は一、この言友会が、え、出来たのが、あの一、えっと、2回目なんですよね。ほな
けん、これ、あの一、えーと、ミレニアムの、あの一、2000年の1年前やから、

K:1999年？

M:うん、あの一、1998年。ほなけん、今年で、15年目になるんかな。

K:うーん。お世話になっております。

M:ほの前も、やってたです。若い時に。

K:言友会。

S:しょ・初代じゃな。

M:昭和 41 年から 53 年まで。

K:は一、言友会が。

M:うん。ほの時の会員さんが、G さん、T 君、えっと、B さん、I さん、

K:あー、ほうですか。

M:今でも、ほなけん、先ほど一、えっと、K さんが仰ったような、これ、一生付き合っ
ていけないかん、っていう人がようけおるんよ。

K:ほうやなあ。ほなけん、それだけ長いこと続いとるもんじゃな。ほなけど、ええんじ
ゃ、いや、M さんが言うんも、あるけん、会員の、T さんにしてもな、そういう人達
がずうっと続けてこの回に出席するっちゅうことが、なあ。

S:そうですね。

M:ほんで、雰囲気が格別やけんね。

S:ほうでないと来えへん。(笑)

M:あの一、お子さんとか、友達とか、みんな誘ってくるやないですか、

S:ほうやねえ。

M:ほなけん、ほういう、ふ・雰囲気がいいんだろな。

T:他にないけんよな。

K:ふーん？

T:他にないけんよ。

K:うん、うん。

M:交流の行事もあるんで、また遊びに来てください。

T:ほなけん、同じ、なにが、おるんじゃと思たら、同朋がおつたら全然ちゃうな。1 人と
ちゃうと。

M:女性会員もけっこう、イベントには来られるんでね。

K:ほな、会長さんお願いします。

S:はい。初めまして、え一、S と申します。徳島県阿南市黒津地町戎野という所から来て
まして、まあ、王子製紙が近くにあるんですけどね。そこから、あの一、お邪魔させて
いただいております。え一、まあ、会長やけど、ほとんど、あの一、幽霊会員みたいな
もんで、あの、出てこない時も多いんですけど、また出来る限り、まああの時間があつ
たら出てきております。あの、仕事は、四国電気保安協会て言いまして、あの一、ま、
ま・前で言うたら市役所とか、そういう大きい工場とかね、あの会社と、まあ契約をし
て、電気の保守、あの一、銀行の点検に行ったりとか、うちは電気が主なんで。ま、そ
れの保守なんで、話すこと多いんです。あ、ましてや、あの、そういう支店長さんとか、
ま、会社で言う代表取締役の方とお話することが多いので、確かに緊張するんはもう分
かります。もう、まして、僕はもう入って、44 なんですけど。まあ、ハタチの頃でした
か、入った当初もそういう方とお話するっていうと、もう大変緊張して、本当に言い換
え言い換えで、何が言いたいんか僕も分からんようになってきて、「僕は何を言いたいん
でしょう？」って逆に聞いてしまいそうになるぐらいの。(笑) 気がしました。ま、た
だあの一、なんかで、仕事って、あの一、吃音のね、僕もねカミングアウトしたんです
よ。あの一、皆その経験はあると思うんですけど、大体どうするかって迷うときがある
んですよ。もう、昔、ね、携帯やないので、ポケットベルとかで呼び出しがあって、

電話をしなくちゃいけない、会社に電話しても、な・名前が出てけえへんからね。ほれで、ずうっと、「なんや、こいつほんまに。」いうて切られるでしょ。ベルで呼ばれた訳ですから、用事があるんでね、ほら、電話せないかんのやけど、もう出えへんけん、公衆電話の前で何回跳ねて跳ねてしながら声を、やっぱ絞り出して、出した思い出はあります。で、やっぱ、あの一、そういう風にしながらも、まあ、どうしょっかなって思った時に、まあ、もう、カミングアウトしたんですよね、もう、実は僕は吃音だと。で、吃音で皆知らんのですよね、言葉は。ほんで、あの一、ねえ、吃りじゃということで、色々知って、ただねえ、あんまりピンときません、まあ、「あ、そうなんや。」っていうぐらいの、「ほうなんや。」って、環境は変わらんのですけどね。ただでも、自分が言うたっていうことでね、自分の中で安心感が出てくるんですよ。僕は、まあこういう人間なんだということが分かってもらえている、一緒ですね、この会も自分が吃音者っていうことが皆知っとる、それって自己満足の世界なんで、あの一、相手は変わらんのですけどね、自分が、なんか知ってくれてる安心感が出てきて、結構喋れるようになってきたような、気はします。やっぱねえ、呼吸をね、喋るときのなんか、結構、この人の、なんか喋り方がええなとか、好きやなっていうような方の、けっこう真似がね、真似をしてなんとなく、結局やっぱあの一、息遣いが下手なんかなって感じがするんです。なんかある人は、漫才師でもなんでもいいんですけど、あんな人の真似したりとか、ああいう喋り方好きやなあと思たらあの一、人の真似してみたりするような口調の、も・物真似みたいなね、したりしたら、なんか、結構なんか、あの一、けっこうツーツと喋りが出来たり、とかいう、ほれも経験になってくると思うんですけど、まああんまり周りには気にしてないっていうことが、まあ実情でした。ほれもまた経験する時もあるだろうし、あの一、あると思います。で、僕のねえ、初めてでもカミングアウトしたの嫁さんなんです。僕が、結婚する時に、嫁さんに、ほの、カミングアウトしたっていう。ほれまで、誰えも、親にも一言も言えなかったし。で、それから、ちょっとまあ、会社でもカミングアウトをしたんですけど。初めは、もう、あの一、嫁さんでした。ほれからずうっときて、ほんでまあ、今はまあ、ねえ、吃音でいうんが知っとる後輩もいっぱいおりますんで、まあ、あの一、それなりのことは。でもまあ、一番この齢になってくるとね、吃音よりはやっぱ内容が大事なんで、喋る内容もね、気遣わないかなっていうんは思うようにはなっております。やっぱ、こう、何か自分が、会社の為とか、なんかこう、やってたらね、何かしらちょっと変な自信が出てくるんですよ。縁の下の力持ち的な、見えんようなことを、見えないんですけど、会社の、まあ、役に立ってるような、ような影の仕事みたいなんに目が向いてくると、けっこうなんか自分の中でこう、人間でこう、必要、だってこう人に思われると、なんかこう、やる気が出るんですよ。そんなもんで、なんか、私もなんかね、吃音関係ないんですよ？関係ないんですけど、ほんなことすると、人間、自信が出てきて、なんか喋る言動もちょっと変わってきたりするんかなあと思いますんで。まあ、喋ることにはばかり気を取られずに、まあ、けっこう役に立つようなことに、取り組んでくると、けっこう喋りにも影響してくるような、よな気がします。はい、以上です、はい。

一同:(拍手)

M:えっと、会長に何か、しし・質問ありませんか？あの一、あない流暢に話すんですけど、

ものすごい隠しとったんですよね。それで、この言友会の立ち上げの時に、えっと、シビックセンターで、ああいらっしやーい。

(Oさんが遅れてやってくる)

S:ああ、いらっしやいませ。寄ろうか。

M:Oさんこっちくる？何(パソコン)持ってきとる？

O:すいませーん。

M:ほんで、話の続きなんですけど、あの一、えっと、四国に言友会がなかったんです。

K:ふんふん。

M:ほれで一、全言連と、全国言友会連絡協議会が中心になって、し・四国に、えっと、徳島に言友会立ち上げようでないかということで、ちょうどその、京都言友会の会員さんで、E君、あの、えっと、生協、コープ、コープっていうのかな、えっと、自然派コープ、川内に工場があるんですけど、そこへ転勤に来て、来て、E君を中心に、じゃあ、あの一、今まで、あの吃音者が、え、え、えっと徳島に、あの一、言友会に関係しとる人がいないかっていうことで、あの一、東京言友会で僕初めやってたことがあるから、それで僕の方に連絡が入って、それで、あの一、広報活動というんに全言の方から、何人かやってきて、新聞社回りとか放送局回りして、あの一、3月にシビックセンターでやって、初めて、え、え、えっと立ち上がったんですけど、ほの時に参加者が60何人おったんですよ。ほれで、あ、えっと、Sさんは一、あの一、結婚前で交際中の彼女が来たんです。あの一、自分は仕事で行けんからって言うて、あのそういう人も2人いました。日垂化学の一、本社工場の設計科におる、方もちょうど交際中で、彼女の方が吃音ってどんなんかいいうことで来て、それで、帰って、あの一、えっとS君に言うて、ほれから来るようになって。最初、もう、カミングアウトするどころか、隠しまわるんですよ。ここへ、あの、音楽療法っていうか、えーと、女性がキーボード持って、皆さんで歌う時に、四国、徳島新聞から取材にみえた時に、あの一、顔を写ったんですよ、新聞に出たんに、夕刊におおけな、これ、あの一、

S:(笑)

M:これ一、あの一、もう、職場の人に、気付かれたらいかんて言うて、慌てて帰って郵便受けから新聞引き抜いて、そういうことしたっていうぐらいの吃音の、気にしいだったんよ。

S:実際は、あの、ほの、場所だけね。(笑) 全部なくなったら、ほら、お前、夕刊が来ないでないか、いうてなるから。(笑)

M:ほれで、もう、あの一、会長職になって、就いて、もう、そんないつまでも隠し、ねえ、おおせる訳ないからっていうんで、もう、職場も皆カミングアウトして、うん。

S:ほんとに、テレビ出たんです。

M:うん。

S:四国放送、おはよう、おはよう徳島やいうて、今もうないんですけどね、

M:生番組で、

S:生番組でね、Mさんが話つけてきて、「テレビ出れるようになった！」や言うて、もう、否応なしやね。(笑) 出な、しゃあないって、ほれからOさん、ね、取材ですよ、病院、病院なんですよ。働いてますんで、取材とか、で、またZさんていう人は、市場へ行っ

きょんで、市場へも取材。ほんで M さんとこね、
M: うん。
S: 会社も、クレーンの会社のほうまでまた取材。
M: それで、例会風景もカメラクルー、カメラと照明と、あの一、ディレクターが 3 人やってきて、もうそこで入口から撮るんやけど、参加者が 10 人おって、あの、こう(カメラの方を)向いとる人が 5 人、そっちから背中向けとる人が 5 人。もう、絶対顔出しノーや言うて、帽子被って、
S: (笑)
M: マスクして、サングラスまでやって、それで、あの一、そういうのが、あの一、編集して、18 分か 20 分、え、えっと、弱の、
K: どんな感じですか？
M: おさまって、
K: どんな見出しの放送だったん？
M: うーん、
K: 言友会っていう風な感じで。
S: そうそうそう。
M: そうそう、吃音で、
K: 吃音で、
M: あの一、
K: 悩んでいる？
M: なんとかしてるのとか、今度 DVD 持ってきますよ。
S: あ、撮ってますんでね。
K: ああ、ほんま。
O: 時間にしたら 15 分ぐらいですね。
M: 15 分ぐらいかねえ。ほれで、前日から、何日か前から、ほれ、宣伝やってるからね。
S: うんうんうん、そうやね。
M: 金曜日の放送です、っていうて朝晩やってる。
S: 生、生出演してきたんです、2 人でね。テレビで。もう、そんな恥ずかしい、
M: ほれで一、T 君がさっきも言よったように、普通のひ・人と変わらんやいうて言よったやないですか？ほら、もう、全然でしょう？こういう感じで、2 人が出てるやないですか、テレビで。ほれは、もう、パパパパパパ・パクってパクってしてるや、こっちがこう、ほたら、親戚の人や兄弟や、「あの芸が上手い。」や言うて。(笑) 芸や、芸でやったわけでないんやけど。(笑)
S: M さん上手いなあと思て、わざとこう、演技してくれよんかなあ。(笑)
M: ほういう、
S: 話し合いだった。はい。
M: あ！あの、今、あの、簡単な自己紹介と近況報告をやって、いよいよ最後になりました。うん。
O: えー、皆さんこんにちは。
一同: こんにちは。

O: えー、先ほども、ちょっと出たんですけど、えっと、那賀町っていう田舎から来ました、えーっと、O と言います。で、まあ、言友会、言友会を知ったのは M さん、の、に・25 年以上前に、当時は休止状態だったんですけど、あの一、言友会っていうのが徳島にあると、ほんでまあ、吃音が悩んでいる人の自助グループであるっていうのを、ある本でね、僕も、ほの、僕が 20、まだ、あの一、独身の頃に、まあ、吃音ですごく悩んで、22、3 の頃だったと思うんですけどね。ほの頃に、ある本、読んだんですよ。えーと、確か、えー、えーと、なんとか言う、なんとか療法とか言う、ちょっと名前を

S: 森田療法の話？

O: あ！

S: 森田療法の話？

O: 森田療法の、あの一、森田療法っていうんがあるって、ほの、えー、森田療法っていうんは、今の自分を、えーと、うーん、あるがままに、えー、受け入れるっていうんが基本の考え方なんですけど、まあ、ほの本の中に、吃りで悩んでいる人が、えーと、こう、全国言友会連絡協議会っていうんがあるって、徳島にもあると。で、そこに M さんの連絡先があったので、そこに手紙を書いて、出したのがきっかけなんです。で、その当時は言友会ってもう、休止状態だって、えーっと、活動してなかったんです。で、まあ、年に 1 回、忘年会っていう、それに顔出してたんですね。それから、えーと、先ほど M さんが仰られたように、えーと、まあ、今から 15 年ぐらい前ですかね。もう一度、徳島で言友会を復活させるっていう集いがあるって、それに参加してまあ、現在に至っているんですけど。でまあ、私は、あの一、小学校の、もう、低学年の頃から自分が吃りっていうのを意識して、まあ、国語の朗読の時間とかは、とにかくもう嫌だったんですよ。こう、順番にこう、朗読の順番が回ってくるんですけど、こう他の生徒が読んでいるっていうことは全然頭に入らなくて、次自分が、あの一、当たるだろうっていうとこばかりに集中して、全然周りの、はな・喋っている、朗読してるっていうのが頭に入らなくて、そこばかり気にしてるっていうような状態で。本当にこう、なんて言うんですかね、こう、暗い、えー、少年時代、青年時代、まあ今でも非常にこう、悩んでいる事には変わらな・変わりなくて、あの一、まあ、改善、というには至ってないんですけど、まあ、あの一、吃りっていうことに対してはもの凄くこう、ほの一、自分の中では、そのことについては触れてほしくない。こう、子どもの時代のこう、友達と遊んどっても、自分の、吃りに関しては触れてほしくないっていう感じで、まあ、禁句みたいな感じの状態だったんですけど、まあ今は、まあ、カミングアウトというか、自分から、まあ、そういうことも、吃音に対する、こう、話題に関しても、まあ、喋れるようになってきたっていうのは、まあ、多少の進歩とは、まあ思うんですけど。でもやっぱり、人前で喋るっていうこと自体に関しては、基本的にやはり緊張しますね。あの一、まあなんていうか、あの一、えー、対人恐怖症っていうんですかね、ひひ・人に会うというのがに・苦手というか、社会的に、こう、社会的な、しゃ・社交的ではないっていうか、あの一、なかなかこう、対人関係を上手いこと、こう、うーん、作れないっていうんですかね。やっぱり、自分一、自身に、こう、自分にこう自信がないからこう、なかなか自分からこう、打ち解けていけないというか、まあ、そういう所は基本的に変わってないかなあって思います。でまあ、あの一、ちょっと長いこと話すぎてますね。

S:いやいや、いいですよ。

O:今日は。(笑)

S:いいですよ、はい。

O:まあ、

S:いつまででも、あと1時間でも。

O:そういう状態で、きてますという。はい。えー、以上、以上です。この辺で、

S:急に。(笑)

O:この辺で辞めときます。

S:急に切るなあ。(笑)

M:(笑)

S:まだ1時間ぐらい。(笑) はい。

O:いいですか?(笑) これでちょっと辞めときます。

S:ありがとうございました。

M:ありがとうございました。

一同:(拍手)

M:えーっと、あと1人、Nさんがみえる予定なんですけど、まだ、今日、もうちょっとかかるかも分かん、と。どうしますか?休憩、

S:ほうやね。

M:ちょっとして、うん。ずっと、前半連動して、このあ・後、えっと、3分間スピーチをしようと思とんですよ。

S:あー。

M:ほんで一、えっと、えっと、えっと、サイコロトークっていうか、

S:はいはいはい。

M:これ、持って、まあ転がして出た目を話すとか、まあ、色々ある。ほなまあ、休憩しましょう。

(休憩)

4月21日 テーマを決めた話し合い「吃音の対処法について」

(参加者：H,K,M,N,O,R,S,T,Y)

K:ほなもう、後半のテーマ、なんですが。テーマを決めて話し合いと、こう、書いてはあるものの、このテーマっちゅうんは、あれ、どういう風に決めたらいいんかしら。なんのテーマで。

S:なんかせつかく、ねえ、新しい方がこられとおけん、なんか。

K:何いきますか？

S:こんなことを聞きたいとか。なんか、そんなんが、ま、詳しい事はこっち入ってますけどね。(笑)

K:(笑)

S:生の声があれば。

K:みなさん、ほな、ほな私が勝手に言うけど。みなさん、これ、吃りを自覚してこの会にも出席していただいた訳やけど、今まで吃りに対する、対処方法あるいは、えー、どういう風に自分なりに分析した、してきたかと。その辺はどうですかみなさんそれぞれ。今までの経験の中で喋っていたら。

M:困ったときの対しよ処法？

K:うん、そうそうそうそう。

M:危機を回避。

K:いかにクリアするか、どういう場面でいかにクリアするか。あるいはどういう風な喋り方することによって、あの、吃らずに上手くしゃべれるかとか。そういう風なんを自分で持つとるもんがあれば、それを発表していただいて。もし、いい話で、自分が、参考になるんであれば参考にしていただいたらいいと思うし。という風なことで、会長さんからほなどうぞ。

S:えー、はじめましてSです。まあ、ほれはええんじゃけどね。あの、名前を言いにくいっていうのがね、あの、結構あると思うんですよ。まあ、みんなそう思うんですけど。やっぱ、ほのときに、えー、そうやねえ、名前ねえ。やっぱ、自分の呼吸があるでしょなんや。その呼吸をやっぱり整えるっていうんが、まあ、その場の空気があるんでね、こう、やっぱり周りの空気があるじゃないですか。いっぱいおったら、もう運に任せなしゃあないね。

一同:(笑)

S:ある程度。ある程度運に任す、あかんかったないう時もあるけど。ただちょっとね。こう、やっぱこう下っ腹ね。よう、こう、丹田や言うてね、こう、へその下ぐらい。その辺を意識してちょっとこう気持ちグワーって高ぶっとおでしょ。ほれをこう、こうやって腹の底にちょっと落とした感じで喋り出したら結構第一声が出たりやいうことも。なんか、こう落ち着いたっていうことも今まで経験の中であるんですよ。言えんなあいう時に、こう、意識をこう下のほうに、こうね丹田へ落とした時に結構リラックスして喋れたっていう経験はあります。で、ま、ちょっとした回避を、こうね、こう、随伴運動ですけど。まあ、ちょっとこう、ちょっと跳んでみたりとか、っていうもありますけどあんまりそれしたらねえ、あの、あんま、Tさんともようね。ま、人の事言うんも

あれやけど、べろ、べろ出したりとかね、っていうんも随伴運動で腕回したりとか。まあ、そんなんで一時期は乗り越えれる時があるんですけど、ほれしよったらね、次第におっきょうなってきたね。愛媛の人だったかな、ほんまに走り回って喋りょうっていう人もおるらしいんで。

一同:(笑)

S:あんまりひどおなってくる随伴運動はいかんで、やっぱり極力こう・気持ちをこうね整え、て、喋れる方がなんかええんかなと思たり。あんまり随伴運動に頼ってきたら、あの、そればかりやりだしてきて、もう次第に手の振りが大きくなってきたりとかしたりしますけど。そんなんで回避したことはあります。随伴運動で回避したことがありますし、やっぱりこう落ち着いて、ちょっとこう、一呼吸置く、置くぐらいの余裕を持つっていうことで回避したことはあるかなと思いました。あんまり参考にならんかもわかりませんが、はい。やってみな分からんけんね。以上です。Tさんどうぞ。

T:いやあ。

S:(笑)

T:俺や、ほなけん、みんなとは反対で、なるべく話せんような、しししし・仕事とか。まあ、ほういうんで、で、みな参考には絶対にな・なれえへんと思うんですけどね、やっぱり、ほういうんではやっぱり・・いかなので。あの、一番ええんわね、こう、し・知っとる人とかの場合が多いんですけど、もう、ここで言えんでもええわと、どど・・吃ってもかんまんわという、なにがでけたらね、案外ね、ごっつい自分の気持ちが落ち着いてね、ものすごく言いよい。今これ言いよいでんな、なけん、な。あがってひもて、もう、何言よんか分からんかったら、もう言葉も出えへんし。そういうことがあります。なけんもう、なんかの拍子で、もうここで、もう言えなんでもええわ。ほなけど、話せないかなあと思うことが・あったときあったんですけど、ほんときは妙になんか、シーンとこうなって、落ち着いて、自分がものすごく、もうスラスラもういつもとちゃうなと思うぐらい話で・・でける日も、ちょいちょいやけんあります。ほなけん、じ、いつもかもがほういう風に自分をほなけんもって・・いけたらええんですけど。やっぱり場面場面があるし、ほの日の自分の調子もあったりするんで、い・いろいろ変化すると・思いますけど。やっぱり、ほなけん自分がなんしにあの時は調子がええて、言葉も、ス・スラスラ言えて、ほんな時はなあ、自分の、人の顔を平気でこうみみ・見たり、も、でけるような感じです。あかんときはやっぱり人がおらん所を見たり、ね、下向いたり、こう、するんですけど。妙に言えるときはこう、シ・シーンとこうなるしねえ、心臓もこないなれえへんし・バ・・バクバクなれえへんしね、ほんなときは。ほなけん、ほんなときが一回でも二回でもあったらええと思います。ほなけん、一番ええんわね、自分が言えん、・ど・ど・・吃りじゃというんを皆に・あの・ししししししししし・知ってもうたら案外後は、か・ほない恥ずかしいとか、ほんなん無いように思います。なけん、まあ、働きに行きよったら自分の上司とか、ほんなんがおるけん、ええ・ええ印象は思てくれんか知らんけど、まあ、ほの上司の人も同じ、ににに・・に・にいんげんだから、ほなけん、ほない、いかん・いかん印象ばかりで・思てくれんと思うんで、やっぱり、少々・・言えなんでも、明るに話したら一番、いいと思います。自分は、そういう風に、あの、しとらんのよ。なるべく、ほなけん話せんように話せん

ようにしてきたけん。で・電話かけるんでも、俺、電話かけえへなんだ、ほなけん。はっきり言うて。なけん、電話賃や言うたらな、たいていのあれ、お金よ、いつもくるんは。自分から・あの、かけえへんけん。ほなけん、そう言うんでも、ほんまは・・・いかなのであって。やっぱり、自分がどんな人間かを、はように他の人に、ちゃんとしししし・知っても・もらうっていうのは一番ええと思います。特にこう、ひどくない人ほど自分がこういう、なけん、・ど・吃りっていう・・・くくく・癖があるんじゃない人にい・言うたらええように思います。吃りでは、あの、ほの、なんであって、吃りは・・・癖じゃと思ったらそない人に、

S:(笑)

T:恥ずかしいないと、お・思うんですけど。ちょいちょい・・・言えないと。ただほなけん、ほいたら、今日の、まあ、は・初めての人やったら、もう、ほんけ俺やから見たら普通やな。

M:(笑)

T:ほんまに、なんも言わなんだら普通の人であって、ほない・な・・・悩んでもええように思います。俺やな、もう、こまい時からもうこんなよ。ほんで、矯正しとれへん。もう、こまい時から矯正もせえへん。自分からほない、うまゑに話したろおや、ほんないもしてません。ほなけん、・・・Mさんみたいに、俺やの10代の頃はね、本や雑誌にね、・・・ようあったんです。東京の生成客員小池って。んで、吃りやいうてね、よう本のあれに、広告にあったんよ。ほなら、一応本は買うたんやけん、ほこまで行って、ほんな、矯正や一切してません。ほんで、この状態でずうとしたんやな。20年30年40年。ほなけん、俺やみたいなんが一番あかん・パ・パターンやね。

M:(笑)

T:なるべく話せんとこと、話せなんだらあかんわな。今の時代はね、また。だけん、これからの人にはもっと話を・してください。

M・S:(笑)

T:してください。

S:訴えます。

T:嫌な目にもおうてください。すまんけん。

M:(笑)

T:俺はほの、何できたけん。反対してきたけん、反対してきたらいかなのよ。結局は。

S:反面教師やね。

T:ほの反対、皆さんいってください。ほなけどな、・困ったときはこういう所へ来てな、話して。自分1人とちゃうんやけん。そういうことです。

K:勇気を持って話すことがええんやな。ほれがええんやな。

ほかにごさいませんか？

M:えっ・えっと、Yさんも、あのお、Rさんも、えっと・き・あのお・・・聞きたいことあったらどどん聞いてくださいよ？こういうときはどのように、まあ、ほの・、なんて言う、なるべく逃げないように。

K:いや、自分がほなけん今までやってきたことで上手く避ける、避けるためにどんなことをしてきましたかっちゃうことを。

M:私はね、今でもトラウマになって残っとなは、これはほんま一生しし・死ぬまでと思うんやけど。あの、僕、あの、結婚式に、えっと、友達、えっとえっと・二人呼んだんですよ。あの、友人というか新郎側の。そんで、あの、今度その、二人の内の一人が結婚式挙げるんで、今度反対に僕を呼んでくれたんですよ。うん、ほんで、ほなけん絶対ほれは行ってからおめでとうって、向こうの親族にも顔合わせて、こう、えっとえっとえっとえっとえっと・せないかんのやけど、友人としての、なんか、話してくれって言われるのがもう、怖くて、よう行かなんだんですよ。あの、口実つけて、仕事どうしても、あの、抜けれん仕事があるって言って、その招待受けたにも関わらず、よう出席せなんだ。そしたら、その人がこないだ亡くなったんよ。ほなけん、やっぱし、ずうっとそういうのが、えっと・トラウマになって、あの、告別式にもよう行つたらんよ。向こうの親と顔も合わせれんし。っていうんで、それはもうずうっとこれから俺がもう、棺桶に入るまでに、こう、引きずっていくんでないかなと思うんで。吃音で後悔してるのはもう、それ一点だけです。後はもう、うちの両親も亡くなったんやけど、両方父の時もは・母の時も、まあ、親族代表して、俺の、あの、挨拶もししし・したんですけど。それで、こないだ姪の結婚式で、あの、えっと、し・ししし、えっ、えっと、詩吟を一所懸命練習して、余興で披露してあげようと思て。それで、その、親族の、親族ってその、花嫁、花婿の名前が両方言いにくい名前で、「夕」・「夕」がつくんですよね。それで、ええっと、「誰々君、えっとえっとえっと夕エちゃん、本日おめで・とうございます。」それが言えるかどうか不安だって、姉貴はもう「ほんなん詩吟や、やめ」っていう風に言ったんやけど、まあ、これは、絶対っていう感じで。まあ、あの、上手いこといったんですけど、大成功収めて。ほなけん、もう、あの、不安になってもう生きれんなあ、と後一ヶ月後一週間後、段々こう、あの、高うなってくるんじやけどほれを回避して、こう、あの、えー、えっと・、逃げていけば、やっぱし、後々ずうっと後悔してくるようになりますね。失敗しても、えっとえっえっとえっと・挑戦すれば、えっえっえっえっえっ・その時だけで終わるんですけどね。

K:し・失敗しても挑戦せな駄目ですよと言うこっちゃな、ほんでないと、

H:あい、相手は分かってくれるもんね。

K:ほういうこっちゃろうな、ほら。

S:はい。

M:自分で何言よるか分からんようになってしもうた。

S:いえいえいえ、分かります分かります。

M:分かった？

S:はい。

M:それで、僕のまあ、あの、吃音の矯正っていうんは、歴史はすごい長いんですけど。あの・、YさんもR君この会に何を求めて来たのか、あの、まあ、吃りを治そうと思て来られたのか、言友会ってどんなことやってるのだから、まず、それが一番やと思うんですけど、あの、さっきもKさんが仰ったように、完全に治るということは無いと思うんですけど、ある程度改善、えっと、されて、あの、ふ・不便を感じなくなるようにはなると思いますがねえ。

K:基本的には、あの、なんちゅうんかな。な・悩まないこと。うん、ほれを苦しめないよ

うにどうするかっちゅうんが一番大事だろうと思うな。うん。完璧に治すそう言うてもこら治らんわ。嘶家みたいに上手に喋れんわ、はっきり言うてな。うん。ほなけど、必要以上に苦しむ場合が多いんじゃない。人によってほの比重が大きい人と小さい人、当然あるだろうけど、うん。もっとほなけん、大事なことで悩んで、少々食べる位の事は、悩むことは無しと。

H:喋れん言葉もあるしね。ほれがたまたま、自分が喋れん言葉がたまたま、頭文字につく場合もあるしね。

K:あと本当に。Oさんなんかはどうですか？ほういう、今までの吃音に対して自分がしてきたこと。上手く話す方法として、しゅ・自分が取得した事柄。

O:あの、いや、上手く話す方法というか、まあ、僕はい・今現在をもっても吃音一をうまく・うまく克服できてないっていうのが、あの、現状なんで、あの、なかなか、ほの、こうすれば、あの、食べる、・ことを減らせるとかいうんが、なかなかこう、いい・未だに分かってないんですよ。だから、さっきあの、Tさんが、あの、ええっと、まあ、喋らん、こう、自分、自分は・ま、ほの、は反対としては喋らんことっていう、し・喋る事から、まあ、ちょっとにげ・逃げるとするか、まあ、ほういうことを仰ってましたが。ま、自分自身も、出来たらそういう場面に遭いたくないとか、人前で喋れんで済むんだったらそうしたいとか、人と喋れんで済むんだったらそうしたいという風な、まあ言うたら逃げ・逃げてきたというんですかね。現在はほういう気持ちがあるんで、やっぱりほういう気持ちがある、ある内はやっぱり、あの、吃音を克服できんのではないかなど。でも、いざどうしてもしし・喋らなし・しゃあないっていう時は、あの、こう、文章に書いて、ま、例えば人前で何かこう挨拶をするとか、こう言うてくれとか言う場合は、自分でまずほの言う事を、こう、文章化して、まあ、何回も何回も練習して、もう、そらで言えるぐらい練習して、

H:自分で書いても読めるもんね。

O:そらで言えるぐらい練習し・たら、ま、ほれだけ、こんだけやったんやから、もう吃つてもしゃあないと。ぐ・ぐらい、ま・まあ、ひら、何て言うかなあ、ほこまでなったら、あの、開き直れるっていうか。まあ、そうしたら、あの、結果として上手く、まあ、自分より、自分が最初思ってたよりは、あの、喋れるっていうことが、まあ、多いとか。だから、あの、最初からこういうことを言うっていうんが分かっとった場合はそういう対処法があるんやけど。例えばなんか、こう、なんかこう、会議でこう、議論と言うか、議論みたいにこう、なった場合に、つ・次にこういうことを言って、次にこういうことを言うて中々こう、想定できんから、あの、そういう場は苦手なんやね。最初から言う事がこれって、自分はこれとこれとこっだけ言うって決まっとったら、それに対して準備ができるんやけど、準備が出来んような、な内容ね、会議とか、こう、人と対話するとかいうんだったら、あの、それに対して、次、頭の中で考えてこういうことを喋らないかんって、考えて言わないかんの。ほの、あの、そういう時は中々やっぱり、それが、その人が、まあ、自分より目上の人みたいな感じだったら、特にプレッシャー感じて見えますよね。自分が対等な立場とかいうんだったらまだしもね。だから、あの、特に苦手なのは、交渉事やね。ほなけん、相手に自分の考えを伝えて、相手を納得させて、ほ、そのように、なんていうんかな、動いてもらうとかいうか、そうい

う風に、きき・、こう、物事を変えてもらうというか、こう、交渉事で相手を納得す・さ・させる、説得させるっていうのが、あの、そういう、うーん、場面っていうのがものすごく苦手なんやね。挨拶でこう、決まりきったスピーチ、こういう、ま、例えばここで、う・上手いこと喋れんでも失敗してもそれっきりで終わりますからね、例えだけでは上手いこといかなでも。ただ、あの、交渉事みたいなんだったら、相手に自分の思いを伝えて、納得させて、あの、ほのほの、いう風に、決めていく。その為には自分の考えを上手いこと伝えて、っていうんが、やっぱりプレッシャー感じるんで、う・上手いこといかなかった場合に相手が反発してきた場合どうしようとかね、ほういう不安をまず感じてしまうんで、ほういう場面はに苦手なんですよね。

K:うんうんうん。

S:ほういう場面ってあんまり、き・、あの一、逆に、あれじゃないですか。吃らんというか、こう、考えもって喋りよる時ってこう、ほんなこともないですか？

O:ほういう場面だったらね。まず、ほの、ななんて言うかな、吃る吃らんっていうんより、まず、ほ・ほの心配より、まずどうやって相手に分かってもらおうかっていうほっちのほうを気になるんよね。

S:ほうやね。内容やからね。うん。

O:どうやって、ほの、上手いこと、ほの、話をす・進めれるだろうかと、吃る吃らんっていうよりもまずほっちのほう心配やね。

S:内容のほうかね。

O:内容のほうか。

S:ほの時って結構ねえ、スラスラと喋れたり、する。

K:対話はしよるけど、対話しよる時に、やっぱりさっき申し上げたように、「タ」が苦手とかなんとか、言うとりながら、対話しよる時に、そ・それ以外の言葉で、結構吃るんじゃな、これが。急にポツと言えんようになるんな。

H:大体ね、「パ」とか「ラ」が吃るんね。

K:いやあ、ほなけんね、ほら、勿論対話っちゅうことは色々な話の組み立てを考えながら喋りよるから吃りよるやいう意識は無いんじゃないけど、急にポツと言えんようになる。それはやっぱりある、私やでも。うん。ほなけん、これはやっぱり吃りよるんだらうなと思うけど。やっぱり、けん、私やも吃りやいうことには東京まで学生の時に行ったことある。そこで教わったことは、やっぱり呼吸が大いに問題にしよるんじゃな。呼吸方法。喋る時っちゅうんは、息を吐きながら喋りよるんじゃけん、ほれを、意識せん、するせんに関わらず、急に、この、吐く、吐くんを止めてしまうんよな。うん、吃つとる状況っちゅうんは、その、何て言うん、つかえた状態？息吐くんが、止まってしもた状態。「と」つとと言う・言うのが、ここで舌で、さっき T さん言よったけん、舌の使い方が下手なんかも分からんけん。「と」とがあったら、この下顎に、下顎か、に、舌をちょっと上へくっつけてふつうは喋るわな。ほの時に、息吹きながらだったら、「と」と言えるのに、ほれが、舌が下顎にくっついてしもうて、ほんで、こうなってしまうんやな。うん。ほなけん、ほんなが、意識する、せんに関わらず、ある時に突然に起こったり、うん。ほなけん、ワシ、吃りの原因って、そういう所にあるんかなと、やっぱりほの物理的に、T さんが今、舌を、こない回す練習とか、いうて言よ

ったけど、舌の使い方が下手なんじゃ。でないかいなと思うな。

S:(笑)

H:ほの、舌のあれが、使い方やったら発音が出来んからね。

K:ども・吃る人はな。吃る人は、ほなけん、

H:あのね、

K:二枚舌よう使わんのじゃ。舌が短いかな。なんか分らんけど。

H:あのね、空気をね、全部吐いてしもうてから声出そうとする、

K:そうそうそう。ほうなんよ。ほなけん、少しずつ、

H:例えば、ボクシングでね、これ(右手を半分伸ばした)くらいで止めて、あつ向こうも打ってきよんな、これくらいで止めとったらええんやけど、もうこうやって(右手を完全に伸ばして)もうたら引込めなな次打てん。これまで、これ(右手を半分伸ばした)くらいでやったらこっちからでもこういける(左手からでも打てる)。これと一緒にやから。

K:ほなけん、呼吸を残して、徐々にスーッと吐き出していったら吃らずに出来るんじゃけど。今言よったように、もう吐いてしもうて、後が出んのよ。ほなけん、挨拶の時に「おはよう」が、「おはよう」と言いな、言ようと思いつながら、息をもう「お」って言うべき息を吐き出してしもとんよな。ほなけん、後の言葉が、流れる息無いから、声に出ないと。うん。ほんな所が物理的にはな、物理的にはワシ、そんな所が原因だろうと思うんじゃよ。理解はしとんじゃけど、これを治そうったって、これまた治るものでもない。それを今言よったけど、あの、会長が言よった、やっぱり腹式呼吸っちゅうんかな、ゆっくりとお腹で吐き出すっちゅうんが、これが、物理的には、

S:落ち着くっていうことでは、うん。

K:物理的には大事なけど、ほれが、中々出来んのな。

S:色んな、こう、絡みがあるもんね。ほなけん、ゆっくり喋りだしたらね。

K:ほなけん、ほこでワシやが誤魔化すんが、Mさんもほうやけど、よう、やっぱり吃るなあと思たら、「えーと」が前に付くんよな。

S・M:うん。

K:「えーと」、「ええええーと」ほたら、「えーと」前に置いて、吃る言葉がスツと。

S:「あの一」とかね。うん。

K:「えーと」や言うて考える必要無いのにも関わらず、「えーと」っちゅうんを置いて、次の言葉が出ていくと。うん。ほういう風なやり方、私やもすることが多いな。うん。ほれもまあ、一つの方法かなあと思うけどな。ほれとやっぱり、今みな言よったんそれぞれ大事なこと言よるんでないかいなと思う。うん。Oさんが言よったように、文章を書いて、その文章を頭ん中へ入れて、文章を読むような感じ?さっき訓練しよった時に文章読んだら、みなスムーズに読めるよな。うん。ほなけん、やっぱり、文章に書いて頭に入れて、読むように喋るっちゅうんも一つの要領でないかと思う。うん。ほなけん、あれじゃわ、Yさん言よったように、なんちゅうん、言いたいこと、肝心なことが言えずに周りの言葉ばかり喋る場合も、なんぞちよつとメモっというて。メモっというて、ここでこれ言うつもりで読む感じで、電話で、言うっちゅうんも、一つの方法かなあと思たりするけどな。うん。ほんでその時に、呼吸整えて肝心な言葉を使う時がある。ほれ意識して呼吸整えて、喋れば役に立つ。役に立つっちゅうんか、そうすることで出やす

いと。うん。こんな気もするし、ほういう、絶対に必要な一つの単語言ようと思った場合、にな？うん。ほういう風な喋り方とか、まあ、いずれにしても、なんちゅうん、誤魔化しみたいなの、小手先みたいなの感じがするけど、その場をクリアする方法とすれば、そういう風なもんで、うん、完璧に治らんと仮定すればよ？そういう方法を身につけていくちゅうんも一つの方法の、誤魔化す方法。

S:うん。ほうやね、誤魔化し、なんですわ。(笑)

K:(笑)

H:極端に言うたらね？腹話術やそうでしょ？口を動かさずに喋るで。例えば、あの、「あ」という言葉を喋るにはこういう形っていうのがあるで、ほなけど、同じ大きさと横も一緒、縦も一緒なのに、別の言葉も喋れる。あれ、プロの人はね。あれも一応、誤魔化しよんと一緒やからね。大体、腹話術ちゅうんは、「まみむめも」が言えんのよ。

M:今、あの、なんか、あの、えーと、テクニ・テテテ・テクニクっていうか、技術のほればっかり、あれ、言ようけど、まだ吃音のに認知度が低いもんで、まあ、あの、自分、身の回りの人家族とか親族のひ・人には吃音ってこんなんやっていうことを知ってもらいたいと思うんじゃけどな、ほれは家で話しよって、うちの嫁なんかは、よう笑うんよ。ま、顔見て。また吃んよるやいうよな感じで、ほなけん俺言うんじゃけど、あの、言友会の会員さんで、うちのえっ・えーと、携帯でなしに、家の・えっと、固定電話にかかってきたらうちのえっと嫁が出るんよ。ほなけん、T君やGさんやほんでIさん(他の会員)とか、ほれ、ほの人たちは声で「あ、Iさん。」ってすぐに分かるんやけど、T君の場合も言うてしまうんよ。「あつ、あ、Tさんやな。」って、ほなけん、ほれ待てえよ今電話口の向こうで一所懸命言おうとしよるんな。なんですぐに声だけで「Tさん、ちょっと替わる。」や言うて、ほういう、以前、Oさんもおっしゃったけど、一所懸命「お・お・O」の「お」を言よる時に「あ、Oさん？」って向こうから言われると、一所懸命、こう、頑張って名前を言ようとしよるのに先言わんとったげって。

K:内心喜んどのや分からんで。

M:T君の場合やな、向こうが「Tです。」って言うまで待っとれ。って言うんよ。うちの嫁はんに。この頃は、「国府町のTです。」って言うてきよる。

T:あのな、Mさん、ほれは、ほんなんもあるけどな、俺はこういう人間じゃっていうんをな、もう、ほの、もう知っとるんよ。すごい、言えんていうことはな。ほなけん、俺はもうほれはおかしいに思えへん。ああ、知ってくれとおけん、い・言うてくれたんやな、と思てな。ほれはほんでええんよ。ほら、おかしいに思わんけん。ほれ、せつかく言いたいのにっていう、ほ・ほれは無いんよな。

K:ほなけん、Tさんな。「あ、Tさんで」って言われたら、スッと自分で「Tです。」って言えるでえ。向こうが分かってくれとったら、なあ、あれ不思議やな。

T:いやいやいや、ほなけん、知っとる人はいいんやけどな全然知らん人がな。こんな人やったら「え？なんで？え？」ってこう、せられてな、はよう言いないって、こうな「え？なんで？何が言いたいんで？」って言われたらな、ほたら、また言えんのな。

K:ほしたら、余計言えんのな。

H:本人もね、こら障害あるんかいなと思てしまうんよね。

T:ほなけん、もう、自分の話す人には皆にし・知ってもうて、ほれからしたら一番え

えと思うな。初めての人にほれは通用せんけんどな。

S:でも、Mさんさっきのんでもね、やっぱり内容が大事なけん、あの、まあ言うたら「Tです。」って、ただ、こう、「Tです。」って言いたいのために電話しよる訳でなしに、後々内容が大事、理由、なんで電話しよるかってい言うたら、ほの後が大事なもんやけん、ほこは「あ、Tさんで？」って言うてくれて、僕はええんちゃうのかなと、ほなって、ほこで労力つこたら「ワシ何言うために電話したんだろか？」思て、逆になんか、「ワシ何言おうと思たんかいな」って、ほれよりは、やっぱり内容を聞いてあげるほうがええけん、やっぱり、僕やでも言いにくい人には逆に、

M:言ってくれたらね。

S:ちょっと、こう、誘い言葉、ちらっと言うてくれたほうが「ああ、それぞれ。」っていう感じとか、「ああ、その事です。」とか、で、いいんちゃうのかなと、内容が大事なっていうのが、やっぱり言友会のね、一番大事な所でね。ほなけん、そこはもうねえ、サッと言うたげたら。

K:まあ、あれやな。はよう理解してくれたら。

S:そうそう、次にいけるでえ。(笑)

K:安心やしな。

S:そうそう。「ところで、こんな話やけどな。」って、ほの後は皆流暢に喋るんよな。(笑) 初めの一言だけ、名前はもう、ごっついもたついとんやけど、これクリアしたらスラスラスラって、そうですねっていうね、不思議なねえ。なんか、なんか無いですか？何でも言うてくださいよー。

M:あの、面接でね、あの、昔は1対1とか、ま、面接官が2人おって1人いう場合があったけど、集団面接って受ける側が、あの5人ぐらい一斉に入って行くじゃないですか。ほたら、皆スムーズに、こう言ってきて自己紹介がやってきて、そういう不安ていうの無いですか？

R:僕も、この大学に・の入学試験で集団面接だったんですけど、その時はもうぎゃ・逆に緊張しすぎちゃうとちよっと喋・なんかもうぎゃ・逆に喋れるみたいなのが。

M:ほー、ほなええなあ。うん。

R:で、喋れるなーと思ったら、喋るなあと思って「よし！」と思ったら、すぐ吃・吃っちゃって、なんか、「あ、あ・・・」ってなっちゃうんですけど、やっぱりこう、なんか、さ・さっきもOさんが喋ってたのが、すごい、自分の事を話されてるみたいで、なんか、すごい、あの、国語の話とかも、自分の回ってくる順番を、「1,2,3,4,5」みたいに数えて、こここ・この行は自分が読むっていうのを。

M:(笑) それを先。

K:皆、同じような経験してきとんじゃ、ほら、な。いや、ほら、緊張しすぎて、しすぎてっっちゃうかな、ほら、就職の面接、ほの、あれ、面接の時なんかでも、やっぱり、初めて行ったら「K(名前)」って、非常に言いにくいはずやけん、ほの時は言えたりしたこともあるわよ。うん。

S:まあ、テキトーやな。(笑) いや、ほんまに。

K:ほなけん、残念ながら、ほの、詰まるころばっかりに集中して、さっき言よった、言いよるように、ああ・後の内容の組み立てが、うん、からっぽになっとるケースもあ

るんよなあ。ほれが勿体ないわよ。ほら、同じようなこと皆経験してきとんじや。

S:Yさん、なにか。ああ、他になにか、どうぞどうぞ。

R:あ、いいですか？あと、ほの、ぎ・議論するみたいのがすごい苦手、で。ま、こう、今もすごい順番が時間があったんで、ちょっとまあ、考えてたんですけど、考えてたんで喋れるんですけど、パツて振られると、やっぱり何も喋れなくなるのが・すごい、うん。なんか、喋ろ・喋る内容よりも、吃らんようにみたいなのがずっと頭の・でかくて、そういうのが。

S:議論する時にな、喋る内容を考えるよりも、喋らない方法を、努力しすぎてな。

R:そう、いつも、無口になっちゃう。(笑)

K:うん、内容かか・内容の方に頭がいかんケースがある。うん。ほら、ワシやでもこの年がきて、そそ・そんま苦労しよるけんな。皆一緒やけんな。

S:なんか、な・無いですか？なんか、こう、ちょっと感じたことでもいいですけど。ちょっと聞いてみたいようなこととか。

Y:うーんと、なんか、前、なんか、カミングアウトとか、前向きにとか、分かってるんですけど、色んな人の本とか読んでみて、あ、いっぱい、自分だけじゃないんだ、っていうのはもう分かってるんだけど、前に進めない。どうしても怖くて、あの、こうしたほうがいい、ああしたほうがいい、カミングアウトしたほうがいい、とか色々分かってるんですけど、結局、どっかで気にしてる自分がおって、これ以上怖くて前に進めないっていうのが、もう、ちっちゃい頃からの悩みなんですよ。一回、友達に軽く言ったことがあるんですけど、「だから、どしたん？」みたいな、感じで、そんなに別に話すことと、吃ることが、なんか、通信講座みたいなんに書いとったんは、「他人はそこまで意識していない。自分たちほど。別に話していても、吃っていようと。話すことと、吃ったりするのは一緒のこと。」みたいなことを書いとったりとか、あと、なんか、「あえて練習するな。」って書いとったんですよ。練習すると、「あ、ここが言えん。あそこも言えん。」

H:ほれが分かってしまうから。ショック受けるんね。ほの言葉が喋らんようになってしまいうから。

Y:もうなんか、それによって、なんか吃りのスパイラルじゃないけど、よけ喋れんっていうのを脳にインプットしてる、みたいなことも書いてあったりとか。だから、あえて、練習しない。今まで散々練習いっぱいしてきて、吃ってきたんだから、もう、あえて練習しないで、色々書いとんですけど、色々試したんですけど。

K:それもおうとんじやな、ほなけんど。それもおうとんじや、ほら。意識しないことがいいんか知らんけんど。

S:意識せんようになってきたらねえ。ま、ええスパイラルやねんけどねえ。

K:意識しなくても食べる人は食べるんよな。

S:いや、この、吃ることが、悪い事っていう意識。

Y:そう、それを持つとる人が吃音、なんですよ。

S:で、まあ、文章で言えばね。

Y:そうなんです。なんか、吃とつても、それを別にそれを気にしてな、吃りだ、吃っちゃ駄目だとか、そんな人は別に吃音じゃないって書いとったんですよ。

K:ほなけどなあ、私やも子どもの頃小学生の頃じゃ、小学生、幼稚園からかな、親が、進級して、学校の先生が変わる度に「うちの子ども、あの、食べるけん、うん、気いつけて下さい。」とか。なんとか言うんを、親が言よったわよ。

S:うーん。ほれ知っとんですか？

K:ほら知っとる。

S:うん、親が言よったことを？

K:そうそうそうそうそう。ほなけど、ほの時は、まあ、あんまり苦しんと、自分も、そうだからそうやなと言う、ことな。うーん、ほなけん、学芸会や主役にしてくれなんだ、中々な。(笑)

S:うーん、あえて、ね。

K:うん。ほれでやっぱり、同級生から冷やかされるんを、せせせせ・あの、せせ・先生から守ってほしいと。うん。いう風なつもりだったんか知らんけんどな。うん、ワシらもうほんまに、ちっちゃい頃幼稚園しし・小学生2年生ぐらいまでかなあ、吃り出したら話がでけんけん、「言えんわ！」や言うて、自分で。うん。か・家族の前で飯食いながら、ご飯粒飛ばしもって「言えんわ！」や言うて。

S:言う・言うたんですか？

K:うん、自分で言よったわだ。

S:ほれはもう開けてますね。

M:ほら、凄いでなあ。

S:言えんもんねえ。

K:言い出したら言えん・言えん、詰まって言えんでえな。

S:言えんっていうことを言えるっちゅうことがね。

M:ほれは凄いでえ。

S:ほれは凄いで。

K:ほれがほなけん、小学校に上がって段々と、なんちゅうん、誤魔化すようになってきたんだろな。うん。ほら、ほの替わり、国語の教科書やは、明日ここや言うたら、母親に読まされよったわだ。

S:うん、まあ、読んみよったねえ。

M:学級、が・学級い・委員長とかなって号令、かけたりとか。

K:「起立」は言えるんじゃけんどな。

M:「礼」まで言えて。

K:「着席」やがしんどかった。言えんでよ。

M:皆立ったままで。

K:「ちゃ」がやっぱり、「ち」やろ？ここで。

M:皆立ったままで、「は・はよ言わんか、こら。」って。

K:「着席」が言えんけん、ほんなんしよったんかな。なんか、こう、弾みつけて。いいい・言うた記憶はある。うん。

S:ほうやねえ、言えん言葉はねえ。

K:うん、ほなけん、どんなんかな、意識せんのがいいんか悪いんか、ほれも、済んでみ・済んでみても分からんし。

S:すぐ忘れる癖っていうんもいいかも分らんね。(笑) あの、やっぱり、ごっつい、悩むんよね。

K:ほなけん、ほの、悩みをいかに。

S:ずうっと、引きずらんような

K:そうそうそうそう、軽く悩んで、いきましようだ。(笑)

S:ある意味まあ、言い方としては、まあ、Tさんみたいなね、こう、Tさんのように、まあ、こう、言うたら、ひどい人がおったら、まあ、ある意味、こう、対処、自分の中で、ほこまでいってないなとか、まあ、人と比べるんはいかんことなんやけど。けど、ある意味どっかで切っていくような術を知っておかんことには、いつまでも引っぱっても、得するんは、誰も得せえへんけんね。自分が損するばかりやし。機嫌をとるんは自分にしかできんけんね。相手に機嫌とってもらっても、結局はやっぱり自分でやっぱり機嫌悪くするだけやけん。やっぱり、どっかでね。これ、た・断ち切るような、大したことないはと、思えるようなね、そういう癖付けっていうんですかね、明るく、言よったように明るく喋るとか言うんも、やっぱりね、暗あにおったらね、僕の経験上あの、結構吃音って結構出てくるんよね。やっぱり、き・気持ちが乗ってないとね、乗ってない時って、やっぱり、こう、あの、吃音ひどいかなあと思ったりするんやけど。やっぱり、いつもこう、明るくするよな、やっぱりこう、考え方、考え方いっちょで、ちょっと改善はしてくるんちゃうかなとねえ。うん。全然悩むことない。やけど、悩んでもええんやけど、すぐ・すぐ切り替えれるよな、そんな事も、よくある事と。食べる事、よくある事。それによって神様っていうかねえ、神様、まあ、宗教的な話や無いんやけど、まあ、ほら、与えてくれとおっていう事にね、感謝、皆するんですよ。僕やの会員の人ってね。大概、最後言いますよね。あの、吃音にしてくれたことをね、感謝するんですよ。結果的にね。なんかのきっかけが、あの、吃音のおかげでっていう。おかげでっていう風になってくるんでね。ほれは、それ思う時がきたらいいと思うんですけど。皆やっぱりね、吃音めちゃくちゃ、もうマイナス、ばっかりに思てないですよ？吃音のおかげで色んな人と知り合う訳やし、吃音のおかげでひ、色んなところが見えてくる、っていうんもあるでしょ？細かい、人が見えんとこまで見えていたり、吃音の悩みもすぐ分かる。人のこう、顔色だけでもすぐ、こう、ねえ、分かる。吃音って、ちょっと、あの人吃音じゃっていうんもすぐ分かるし、吃音の人は。人の顔色がすぐ読めるし。なけん、すごい、こう、吃音ってね、プラスのところがね、あるんですよ。それを見つめたほうがいいかなと、マイナスよりもプラスの方をね。

H:ほら、あの、やっぱり、他の障害でもね、やっぱり障害者の人でなかったらできんことがあるしね。

S:まあ、考え方だけの話やけどね。でも、そんな感じでね、うーん、まあなんか、引きずらんほうがええね。明るく、明るさが一番です。

Y:あ、ありがとうございます。

H:ほれと、一番ええんわね、歌歌う事なんよ。歌歌うときは絶対ど、吃らんから。例えばね、のど自慢出てね、一番初めってね、あがるでしょ、みな。「1番誰々さんどうぞ。」っていうたら、ぱっと、大体100点とれんで。どんな人でも。かなり上手な人でなかったら。ほれと一緒なんよ。

K:一応、ほなら、これ後半のテーマを決めての話し合いということで、話はしてきた訳ですが、他に、今ちょっと方向変えて。

M:まとめ、今の。

K:まとめというよりも、他にテーマあれば。今の所は、なんちゅうんかな、経験の中での、この、吃る事に対するしょ・処置かたを話してきた訳やけど。他にテーマございませんか？こんなことで話しておきたいとか。無ければ、一応もうこれ、時間も。

M:あ、後半。

K:段々、あれやけん、後半の行事はもうこれでお・終わらせていただきます。

M:はい、ありがとうございました。

一同:(拍手)

M:今日、えっと、えっと、えっと、えっと、えっと、来られての、

R:はい。

M:さ・参加してみての、感想でないけど、感じとか、なんか、自分がここへ来る前に考えてたイメージとちょっと違うなあとか、自分の求める、自分がこういうことを、言友会にまあ、えっと、

S:まあ、何でも出来る、会ではあるんやけど、こんな話し合いばかりでなしに、

M:うん、話し合いばかりでないけん。まあ、イベントっていうか、もう、花見は、えっと、今月の第一日曜日にお花見終わったけん、次は、7月の言友会終了後に、え、えっと、ビアガーデン行くんですよ、飲み会に。ほなけん、ほの一、5時に終わって皆でザーっと押しかける感じで、こういう時は、例会出席者以外に、直接、あの、そういう、え、えっと、え、えっと、求めてる方がいるんで、14、5人になるんですけどね。あとは、去年は、えっと、え、山登り、えーと、登ったんです、一昨年は剣山まで、山へ行行って、それで一、あとは、えーと、忘年会か。ほういう、あの、行事もあるんで、

T:中四国大会。

M:あー、そうそうそう、えーと、中四国大会を、えー、持ち回りで、四国に愛媛、徳島、中国地方は広島、岡山、ほの、えー、えーと、4県が順番に、あ、あの、持ち回りで開いとるんです。それで、今年は、えー、広島言友会の回りなんですよ。それで、来年、徳島で、あの一、えっと、やるんで、今まで徳島には、えー、え、えーと、えーと、3回ぐらいきてるんです。1回目はかんぼの宿で、2回目は、あ・穴吹の、え、えっと、ブルーヴィラ穴吹で、ほれで3回目は、おおうち町のベッセルおおうちか。あそこで、こう、1泊2日か。大体、30名以上になって、えーと、賑やかで、いい会なんで、そういうのも一緒に行きませんか。

S:なんかいいですか？(笑)

M:会員の人数は、今、27、8名か。

R:徳島だけで？

M:言友会、徳島で。

S:ほなけん、結局、若い、ね、方とか、別にほの、まあ、よその県で言うと、若い方が多いんですよ。ただ、徳島はまあ、ご覧のようにねえ、けっこうまあまあ年配の方も多いいんですよ。ほなけん、まあ、出来たらまあ、若い人と、年配、年配って言うたらあれやけど、まあ、その辺のこう、まあ、ええバランスの取れた会がええんやけど、これ、

なかなか徳島って、こうキープが出来んのがどういう原因があるんだろうっていう、
M:あの一、若い方、
S:都会は多いんやけどね、大学生とか。
M:N さんていう方が、ハタチの方と、鴨島で、W 君という方がおるんですよ。その方が
30 歳か。ほんで一、八万に、J さんていうて、その人も 27、8 から、女性で。
S:ほなけど、やっぱり、よそ、というか、岡山がやっぱり若いんですかね、男の、大学生、
M:B 君知らんだろ？あ、教育大学の大学院生、
S:知らん。
M:25 か 6 ぐらいの、
S:ああ、そうですか。
M:一回だけみえたんやけどな。
S:一回だけでもうね、やめたっていう、まあね。(笑) 思うかどうかは分からんけど。な
んか、魅力のあるね、ま、魅力というても、まあ、いつでも来れるっていうのがね、一
つの、この会の、あれなんで、まあ自分がちょっと、こう言い辛いなあとか、思う、ま
あ、悩んでるなあと思った時に、たまたま、第三日曜日が空いとったら寄ってくれるって
いう、気軽なこと考えてもろとったらええんやけどね。あまり、もう、「せないかー
ん！」とかいう会でないんで。ただ、何かしたいっていうんがあったら協力はするんや
けど、そんな感じですね。
K:なんかな、若い子が、
H:あの、この会で、バーベキューはできませんか？
S:あ、バーベキューは、あの一、色々やったりもしてるん
H:僕が魚介類採りょんやけど。
S:あ一、ほうなんですか。(笑) 採りに行っきょんですか？
H:はい。漁師ではないんじゃけどね。
S:あ一。え、鳴門のほう？
H:津田のほう。僕、津田の木工団地で採りょう。ほたら、今ね、ワタリガニが 300 キロ
ぐらい採れる。
S:ほんまですか。
H:はい。ほなけど、ちっちゃいけんね。ほなけど、僕はどんな小さいんでもよう罾るけん。
S:まあ、またほれも、まあまた。検討させていただいてのことやけど。
H:ほの、なんていうん、魚介類だけやから。後は、誰か持ち込んで、調味料とか、酒とか
みりんとか。
M:今日は、あの、欠席の連絡が、え一、3 名入りました。
K:あ一、はいはい。もっと、あれやなあ、若い子っちゅうか、一番悩みでも大つきい世代
っちゅうかなあ、我々もう、もう、人生半分、半分でない、ほとんど過ぎてしもうけ
ど。
S:いえいえいえ。
K:ほのいう、悩みの重たい人、重たい時っちゅうたらやっぱり、青春時代、なあ、吃らず
に、スムーズに、ほら、就職の問題もほうやし、色々、そういう、あの一、人生を決め
るような、大事な時、ほなけん、ほの人たちがほんとは一番悩んで、え一、話し合いの

場が、ひょっとしたら欲しいかも分らんけど、勇気、ここへ、こんなところへ出てくる勇気が、まず、一番だろうと思うし、ほれとこういう会があるんも、うーん、知っとうかどうか、ほの辺の問題もあるだろうし、若い子やったら自分が、もし、そういう悩みがあったりしたらインターネットとかで、こんな会があるやいうん、すぐに認識しとんかな。

R:どうなんでしょうねえ。たぶん、自分で解決策は調べて、

K:調べて。

R:調べて、それを、たぶん、う・鶴呑みにするか分からないんですけど、一人で悩んでるんじゃないかな、と思いますけど。

K:ああ、なあ、ほこで、ほなけん一押しして、

S:でも、電話しよっかなって思たんは、

R:はい。

S:勇気、やっぱいったでしょ？

R:電話嫌いです。(笑)

S:嫌いなところをねえ。電話いただいて。

K:ほら、ほうだろうと思いますなあ。かといって、ほの、若い子がいないということは、ほれ、踏ん切りが付かない部分も思ってるって、

S:まあその、

K:人口に比例して、該当者はおる訳だろ、おそらく。

S:まあ、おるでしょうね。

K:うん。

S:勇気、勇気が要るわね。

K:若い子の悩みが顕在化、し、するんかどうか、

S:ほら、悩んどる人は多いでしょうほら。ほなけどまあ、どうせ治らんのかなあとかね。

まあ、言うてもしやあない、言うてどないなんねんと。ていう思いでもあるわね、まあ自分なりに、

K:そこはほなけん、ちゃうでえ。

S:いえいえ、思うよねえ、

K:若い子は。

S:言うてもほんな、しやあない、治る訳ないんだったら別にこんな会来てもしやあないわ、とかいうて思いながら、でも、なんか違うんよね、この会は。一步出ると、まあ、口では言えんのやけどね。

K:みんなこの会に入って、話も、少しはよくなるんちゃうかなとか、そういう期待感も、あ・あって出席しとんじゃないかと、

Y:ほれも少しは。

K:ほれも少しはあるだろ？やっぱ、ほら、まだ諦める気持ちではないと思うんよ。うん、少しでも、

S:諦めてないけん、ほら確かにね。

K:少しでもほなけん、快弁できるようにと、

M:あの、えっと、えっと、今、広島、あの、えっと、海上自衛隊にいる、名前なんて言

よった？

S:F さん。

M:あー、F さんっていう、徳島に帰ってきたら、例会だったら、例会に参加するんですよ。

うん、ほんで、えー、え、えっと、今日また広島に帰りますーっていう感じで、ほなけんやっぱし、こう、あの、ここへ来ると、気持ちがおおお・落ち着くっちゃうか。

K:そうそうそうそう、ほなけんな、

M:吃音者は。

K:少しでも、改善できるんでなかろうか、ほれと、同じ、あの一、食べる人たちと、

S:なるほどね。

K:一緒に、ほの、あの、あれじゃ、鎧を脱ぎ捨てて、気楽に話せる会だと。その 2 つあると思うんやな。出席しよる理由は。うん。

M:ほなけど、K さんやったら、もう、雲の上の存在っちゃうか、

K:よう言うわ。(笑)

(N 氏入室)

N:失礼します。

M:ああ、いらっしやい、いらっしやい、いらっしやい。待つとったんよ。(笑)

N:こんにちは。

K:若い子が来たけん。

S:ご無沙汰してます。

M:駆けつけやけんど、もう、ずうっと順番終わっとうし、久しぶりやけん、初めての方もおいでるし、え、簡単な自己紹介と、きん・近況報告。

N:近況報告。(笑)

M:(笑)

N:えっとー、

K:はい、早速ほな。

M:さっそくー、頑張っってー。

N:はいー。えっと、あの、那珂川町の N と申します。えっとー、えっと、言友会に参加してからもう、1 年以上は経ってるんですけど。(笑) なんか、あの、今日がすごい、ひひひひひ・久しぶりなんで、なんかあの、楽しみにしよったんですけど、ちょうどあの、会社の、あの、掃除の日と被ってしまって。(笑) それで、ダッシュで来たんですけど、うーん、そうで、最近の近況報告は、あの、もうちょっとしたら、あの、姉ちゃんの子供が出来るんですけど、

M:うん。

N:はい、あの、あの、お・お・

M:うん。

N:お・男の子で、

M:お！

S:ほー。

N:はい、はい、ほんであの、もう現段階で 3000 グラム超えとおみたいなんですよ。(笑) はい。なんか、あの、今月中にはできるんで、もう、それがあの、すごい楽しみで、は

い。

K:自分で産まんでええけん。

N:はい。(笑)

M:(笑)

N:はい、うーん、そうですねえ、まあ、仕事のほうは、最近なんか、あの、新入社員の指導とかも任せてもらえて、

S:ほー、すごいねえ。

N:ちょっと、まあ、ス・ムーズにできよおかなって感じです、はい。

K:自信が出てきたんや、ほら。

N:そうですね、はい。(笑) ほんで、あの、最・まあ、2ヶ月か3ヶ月ぐらい前から Facebook 始めたんですけど、あれまあ、あの、そこに、あの、撮った写真を、あのなんか投稿するようになって、なんかあの、前のあの同級生の子とか友達とか、けっこうあの褒めてくれて、

M:うんうん。

N:はい、なんか、あのそういうんも楽しんでます、はい。そういう感じです。(笑)

一同:(拍手)

M:なんか随分、声が大きくなったみたい。

N:そうですね。(笑)

M:うん。

K:ほら、もう自信ができた感じやな。

N:はい。(笑)

K:はい、今日の新しい人、ほなら、Y さんな、

N:あ、はい。

K:それと、R さん。

R:R です。

N:R さん、はい。

S:仕事はあれでしょ? ケーキの、

N:はい。

S:ほうやね。

K:今、工場でおるん?

N:あの、工場ですね、はい。はい。

S:忙しいんですか?

N:最近は、暇ですね。

S:あー。でも、もうねえ、指導役っていうたら、また大変ですね。

N:はい。

T:ほな、管理栄養士?

N:そうですか?

M:(笑)

N:いえ、なんか、あのケーキとか、あの、ロールの包装の仕方とか、材料をどこに片付けるとか、

S:ほういいう感じですか。
N:掃除とか、はい。
S:なるほどねえ。慌てて来ていただきまして。(笑)
N:(笑)
M:ダッシュで来たやいうて、事故されたら困るわ。(笑)
N:あ、あ、そうですね、あのね、事故したんですよ、私。
M:嘘お？
N:あ・あ・・・あのね、
M:今日ちゃうんだろ？
N:いいえ、違います、3ヶ月ぐらい前に、あれなんか、小松島のところで、ほんでなんか追突されて、前にもぶつかって。(笑)
M:サンドイッチや。
N:そうなんです、でもなんか、あ・あの、その車、あの乗り始めた頃に付けた傷のどこmへこんどったんで、あの、そこも直してもらえてラッキーだった。(笑)
一同:(笑)
S:体はいけたんですか？
N:はい、大丈夫です。
S:はいはい。ほな、もう、後ろも前も、綺麗に直ったんや。
N:はい、綺麗に。(笑)
M:もう、あの、成人式終わって、なにやから、今年はビアガーデン行けますね。
N:行けますね。(笑) はい。
S:すごいねえ。吃音のほうとか、どんなんですか、まあ、あんまり気にならんように。
N:今、あの、き・・・気にはなるんですけど、まあやっぱり、しゃあないんで。(笑)
S:(笑)
N:はい、あのなんか、先月に、あの、お・・・お・送ってもらった、どっかの、あの、言友会ニュースに載った、あの、漫画？なんか、『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』って漫画が、どっかの言友会のニュースのに載ったと思うんですけど、
M:あー、うんうん。
N:あの、ちょうど、あの一、それが届いた日にその漫画を買うとって、はい。でなんか、あの、その漫画書つきよる人が吃音で。
S:ほうですか。
N:はい、なんか、それもなんか吃音の漫画なんで、どうなんだろうって、買って読んでみたら、けっこう、けっこうおお・面白かったです。はい。
S:なんていう、なんて、え？
N:えっと、
S:さや、さやちゃんちゃうわ。
N:あ・・・
S:漫画の題名が、
N:あ・・・
S:志乃ちゃん？

N:『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』

S:という題名ですか？

N:はい。

S:はえー。

M:もう、ずっと長いこと出してないんやけど、

R:はい。

M:140 何号まで出してるんですよ、会報。あの一、言友会に参加し・しての、あの一、えっと感想みたいなんがあれば送ってほしいんですけど。

R:はい。

M:えっと、パソコンで原稿出したら B5 サイズに、

R:パソコン、B5、はい。

M:うん。あの一、普通手書きでも構いませんけど、また、打ち込むんで。今まで、余分なやつ、こういう感じで、中四国大会って、こんな感じですね。第 10 回が広島で、2009 年のやつですけどね。このぐらいの参加者で、えっろ、全国大会だったら、えっと、100 人ぐらいで、

R:そんなに。

M:うん、あんまり、話が、ねえ、し辛かったりするけど、中四国大会とか、いいですよ。

R:すごいですねえ。

M:ずっと出してたんですけど、今は。

R:毎月だ・出してた、毎月・

M:大体、毎月今まで出してきたんやけど、ここまでこの会場が、去年の 10 月から耐震工事に入って、今年の 3 月まで使えなかったんですよ。その間、会報、えっと止まっていた、ストップしてた。

R:今月から、え？今月から、今月からスタートしたんですか？

M:そうです。

R:あ、そうなんですか。(笑)

M:うん。これ(会報の余り)、もらってくれる？

R:い・いいんですか？もら・貰えるんなら、貰います。

M:これ、もう余分にあるし、溜まりまわって、

R:いいんですか？

M:読んで、なんだったら、処分してください。

R:はい。

S:どうしたんですか？

M:古い会報が余ってたんよ。

S:ああ。ようけあるよね。はい。

M:今、140 何号。

S:ああ、ほんまですか。

M:今度、原稿送ってもらって、何を、ニュースまた発行せないかな。原稿送って？(N さんを見ながら)

N:はい。(笑)

M:あの、漫画の、あの号からいっちょも出してないもんね。一番最後だったね、140 何号が。

N:あー、そうですね、たぶん。

M:あれから。

N:はい。

M:Y さんも、今月参加しての、感想ような原稿送ってくださいよ？

Y:あ、はい。郵便でもいいんですか？

M:郵便でもいいです。普通原稿でもいいです。

Y:はい。

M:それで、あれで、打ち込んでくれるんやったら、B5 サイズがありがたい。

Y:B5。

M:A4 より。

Y:あ、はい。分かりました。

M:お願いします。

Y:はい。

M:ほしたらな、また、あれがは・発行できるで。ほれを、O さんがほなって、今日帰ったら例会報告送ってくれるやないですか。これだけで会報出せれんもんな。

N:あー。

M:皆の原稿が無かったら。

S:Y さんもう、パソコンとかはかなり。

Y:いえ、あの一、あまり。

S:あー、でも、あるんはある？

Y:あるんですけど、プリンターが、

S:あー、プリンターの方がね。あー、ほな、余計にメールがええんちゃん？メールの方が。

Y:普通に、はい。

S:そうですね、メールのね、なんか、ね、えーと、

M:メールの、あ・アドレスに、また入れといて。

Y:はい。

S:メールのソフトは何がええか、僕も分からんのやけど。なんかね、あると思うんやけど。

Y:はい。

M:えー、今日はよかったですねえ。新人さんもようけ、N さんも、

O:今日初めて来た人はどうやって知ったんですか？ここ、この言友会の例会。あの、新聞になんか、

M:新聞、昨日新聞の、あの、情報出して、いっちょも反響無し。電話 1 本もかかってけえへん。

O:どないしてここに。

M:昨日、情報徳島にね、

R:僕は、あの、インターネットで調べてなんか、前、大学というか、1 年か 2 年ぐらいの頃に 1 回、あの、すごい悩んでた時期があって、

M:あー。

R:1回調べてみたんですけど、ちょっと電話する勇気がなくて、
O:あー、ほな全言連のホームページから、こう、
R:はい、はい。
O:見つけたんやね。
R:で、まあ、もっかい思い出して、そんなんあったなあと思って、ちゃんと電話。
O:あー、ほうなんじゃ。ほんでSさん、でないわMさんの方へ。
R:Sさんの方へ、はい。
S:勇気出してください。
O:あー、ほうですか。
M:(全言連)脱退せんでよかった。
O:どうやって調べたんですか？
Y:なんか、食べることにする本みたいなんを読んでたら、
O:あー。
Y:『吃音ドクターです』っていう
O:はいはいはい。
M:菊池さんの。
Y:本を、ちょっと読んで。
O:あー。
M:うちの会のホームページが閉鎖されとおけんなあ。作とったんよな。(笑)
O:こう・更新がね。
M・N:(笑)
O:作ったんはええけど。
S:Nさんやできるんちゃうですか？なんか、ホームページ作ったりとか。
N:なんか、えー、
S:Facebookがどうのこうの、
N:あの、ホームページ、一時やとったんですけどね、あれごっついめんどくさいんですよ。
S:そうなんですか。
M:(笑)
S:ほないめんどくさいんですか。
N:はい、なんか、あの、リンクやら何やら訳分からんようになって。(笑)
S:あー。ほないリンクするんは、あれから、全言連とか、
N:はい、なんかね、ページ毎に全部がリンクで、あの、・・あ・あれなんかここをクリックしたら、あのこのページに繋がるようにってあの、全部繋げていかないかんので、
S:あー。
N:それがもう、
S:大変なんですか？
N:はい、もう。
S:はー。
M:(笑)

S:管理、管理者とかしてくれたら、ホームページを作っていたら。やっぱり、インターネットとか多いでえねえ。

R:最近流行ってる、あの、

S:はい。

R:Facebook とかにもう、徳島言友会みたいなん作ったりも、なんか。他の会社とかもなんか、色々そんなん、

S:ほー。

R:かい・会社の Facebook ページみたいなん作ったり。

S:あー、ほうですか。

R:はい。

S:ほー。

M:やってもらおか。

N:おー。

S:ほら、ほんなん、もしね、できるんであればねえ。

K:就活で忙しいのに。

R:(笑)

M:県外に就職せんときよ？徳島に。

R:県内に。(笑)

O:もともと徳島？

R:はい、徳島。

S:心強いね。うちやは、こんなんが、

M:優秀な子やは、皆県外へ逃げてしもて、なあ。

R:(笑)

K:Facebook を皆が作ったらどうですか？皆が開設して、グループの。

S:ああ、自分の Facebook を。

K:そうそうそうそう。

S:Facebook ねえ。

N:(笑)

S:何のことか、僕や、よう分かってないけんねえ。(笑)

O:パソコンでするん？それともスマホでするんですか？

N:スマホですね、私は。

K:スマホで出来るけんじゃな。快適やわ。

O:スマホって、あれって、こう、前の携帯に比べて、こう、毎月の使用料っていうんですか、あれ高いんだろ？ちょちょちょ・ちょっと上がるんでしょ？

N:いや、そんなに変わらないですよ。はい。あの一、あの、iPhone の 4S 使ってるんですけど、5500 円ぐらい、

O:毎月？

N:ですね。

K:スマホで 5500 円か。安いなあ、ほれやったら。

O:ほれをこう、あえてネットに繋ぎ放題、なんちゅうん、パケ放題っていうか、あれにし

とくから、ほの分こう、基本料金が高いんじゃないん？ま・前の、携帯に比べたら。ほんなことないんですか？

N:そうですね、あの、なんか、あの、電話のプランも付けて、それぐらいですね。

O:ほうなんじゃ。

N:はい。

S:あれ、若干は高あなるけどね。

O:若干ですか。

S:うーん。まあどうしてもね、使える内容が全然変わってくるし、

O:S君もスマホなんですね。

S:僕もスマホで、iPhone4S なんですよ。一緒なんやけどね。(笑)

O:ほたら、一月どれくらい要るんですか？

S:ほんなもんちゃうかなあ。

O:ほんなもんですか。

S:うん。まあ、5500 円だったら、わしも、ピカラと、ピカラ入とったらちょっとや・安いんやね。基本料金が 1480 円とか、

N:はい。

S:まあなんか、ほういうね、なんせ上手いことしてますわ、ねえ。携帯ってね。これとこれを一緒にしたら安いじゃのね。まあ、上手いこと、

O:ピカラっていうんはインターネット？

S:インターネット、そうそう。

O:光ファイバーのやつ？

S:そうそう。

O:ほれに入るとる人は、安い？

S:ほれと、電話で光電話とかね、あんなんをセットにしとったら安いとか。

O:あー。

S:なんせ、こういう、やっとなですわ、上手いこと。

M:もう、そのうち変わってくるわな、スマホに。

S:もう、皆スマホやんねえ。便利。ほら便利ですわ、つこたらね。

M:ほなって、あの一、携帯でも、アンテナピッて出っしよったら。アンテナがあつたでえ。

S:もう便利です。車のナビでもねえ、全部スマホでいけるしね。前にパツと携帯置いてね、車走れるし、もうあの、ナビや要らんです。

M:ああ、もうそろそろ終わります。

S:ほんまにね、これに懲りずにまた参加していただいたら。(笑)

R:はい、はい。

S:有効が感じられたか分かんなんですけど、自分でまあ、こう、あの一、やりたいことを考えてきていただいて、それをしてもうたら十分ええと思うんで。

M:あの、もしよかったら連絡先や交換しとったらええんで。

N:はい。

M:今度は例会来ますかとか、ビアガーデン一緒に行きませんかとかね、

N:はい。

M:な。ほんで、集い、長いこと開催してないけど、
S:はい。そうですねえ。
M:誰か、講師呼んで、ほんだけのエネルギーが無くなったな。(笑)
S:どうしょうか。
M:おはよう徳、うん？
S:この本とか、どうしょうか。本とか、もしよかったら。
R:あ、すいません、ありがとうございます。
S:もし、読むなら。(笑)
M:2冊あったらな。1冊づつでも。
S:子供のほうがメインかも分かんね、この辺やわな。
M:ほれは子供さんのんちゃうん？
S:ちゃうかも分かんないな。
M:うん、ほなけん、なに、参考になるんはあれじゃ、『ようこそ言友会』ってあるやろ？
S:これ、
M:あれがいいと思うんよ。参考に。
S:なんだったら、読んどってもらいます？
R:いいんですか？来月まで。
S:ああ、また、はい。
M:来月まで、
R:これ、借りたかったんですけど。
S:ああ、どうぞどうぞ。
R:いいんですか。
K:ほな、しまいますか？
M:うん。
K:はい、お世話になりました。
M:はい、お疲れさまでしたー。
一同:お疲れさまでした。
R:ありがとうございました。
S:今日は、来ていただいてありがとうございます。また、来てください。
Y:ありがとうございます。
M:5月は、あの、19日ね。
Y:はい、分かりました。
S:だ・第3日曜日です。
M:第3日曜日は、連絡なくてもここでやってますんで。
R・Y:はい。

5月19日 近況報告(参加者:M,N,O,R,T,W,Z)

T:ほな、今からあの一、2013年5月19日、あの一、5月19日で、げ・言友会例会の最初のあの一、まあ、(咳き込む)先月きまして、おおかた、はや一ヶ月経って、多々、あの、俺や早いんよなほなけん一月くらい、うん。なんもせえへんけん、朝きて、すぐに昼がきて晩がきて、はやあ済んだんやなあ言うて、ほ・ほれ、ほんなん1日、2日、月火水木金ほれで、ほないなったら、

M:今から何するんで？

R:(笑)

T:こないなったらもう、げっちょうびも普通の日も、おんなしみたいな感覚になってひもて、やっぱり、このままではちょっと、あ・あかんなどは思とんですけど、ねえ。

M:これからすることを言ってください。

T:これからすることは、ほの、今までと一緒にです。なけん、なに、部屋の整理。

M:ちやうちやうちやうちやう。あの一、みみ・皆に、何するか、

T:これからすること？

M:これからすること、順番に何かやろう、ほれを中心に話せんと。

Z:T君は自分が、

M:いよいよ、あ一。

T:ほれは、いつも、今までな、あったことで、自分が言いたいこと、まあ言うたら、

M:進行やけんな。

T:ああ、進行。

M:司会進行係やけんな。

T:いや、進行やけん、自分が言います。

Z:(笑)

T:言わせてもらいます。

Z:はいはい。

T:日にちが経つと、さっきも言いましたけど、1人になって、色々、あるんですけど、今日は、たまたま、まあ、雨が降りまして、人も来てくれんのかなあと、思っておりますけど。あの一、あまり話すことは、まあ、ないんですけど、先月あの一、言ってみました、し・・・言えんなあ、ししし・舌ね、このベロね、ベロのう・運動っていうんがありまして、ほれをほなけん暇な時、いや、思いついた時に、ちょいちょいしてます。やっぱり、今までよりかは、自分が感じるんか知らんけど、言葉が、出やすうなったようにも思います。やっぱり、話・・・話を1日や2日、全然せえへん時もありまして、やっぱり、そういう人にはこういう運動をした方がええと、思います。その、下のう・運動で言うて、やっぱり、普通の人はずもう、必ず少々は朝晩とちょっとずつ話すんだらうけど、ほたら、ひとりで舌を、ちょっと、使いよる思うんです。ほたら、全然話せ・せえへん人はほとんど、ほの、毎日毎日ほういう状態だったら、やっぱりほの一、舌の方も、関係しとるように思います。特に発声練習、舌のやつね、

Z:あると思うわ。

T:ほんまねえ、今までほれに、この、この、舌に気つかんかったっていうかね、今まで。

Z:いやいや。

T:いや、まあ一番早いんは、あの一、中学になったら、い・英語のね、ようこの、舌の一、動かし方で、ほの一、音を発したらええとか言うて、あつたんはもう、今でも覚えてますけど、ほれに関連してこの一、自分のほの、吃りにもほれは関係一、しとるように、思いまして、ほれからもう、ちょいちょいこういうことで話をしたいと思います。まあ、半年後、1年後経って、「お前、ようほこまで話でけるようになった。」と、みなから言ってもも・もらえるように、話して、いきたいと。やっぱりこれはほんま、ま、話せなあかんわな。ほんな運動ばかりしたって、運動も大切やけど、日頃の、話し合いとか、ほんなんもほれが、両方あって初めてこう、1つにな・なるように思います。まあ、自分やほもう、おたく(筆者)みたいに10代や20代の人でないんやけん、ええ年なんやけん、まあ、恥ずかしいようなるようなもう無いんやけど、ねえ。ほんでもやっぱり、なるべく顔を普通の状態で、顔、いがめたり、目瞑ったりせえへんように、あんまりしないようにし・しながら話したいわねやっぱり。相手の人はやっぱりほれで、この人ちよっと違うんやなと思て、ねえ。普通じゃないなと思ても、ほら、この年になったらもうかんまん、ですけど、やっぱり、ねえ、普通に話したいと。

Z:まあT君は、あの一、あ、前、まあ、まあ、一般的な人はみなそうやけど、ほの一、あらゆる意見を言友会、全国の言友会で聞いたと思うんよ。あの一、本人はもう、1番あることなんやけど、自分はあなたと違う、い・いつも感じてるんよな。自分はあなたと違うからほのようにしたってアカンわって。自分であ・あ、心の中で言い聞かせとんよな。ほなけん、ようやくT君は、ほの一、自分がしようっていう気になったってことだけのことじゃ。ほなけん、喋ったら、あの一、あの一、T君は喋れるんよ。実際に喋れるんよ。ほんとの、ほの、あの一、えーと、あの一、吃音っちゅんは喋れん人でない人なんよ。あの一、前にもは・えーと、阿波弁で喋った時も、すごいスムーズに喋ってただろ？喋ってただろ？ていうことは、喋る能力、器量は持ってるんよ。自分が喋れんと思ひ込みすぎとるけんほうなるだけのことでな。ほなけん、あの阿波弁で喋ったらええんよ。ほなけん、あの一、あの一、前に言うたと思うんよな。「T君はほんなん気にせんと阿波弁で喋ってみたらわ？」って言うて、ほの、標準語で喋ろうとするけんそういう風に詰まってしまうんよ、阿波弁で喋って、「何言よん、こんな時はこうするんよ？」そういう風に話したらな、絶対に喋れる、T君は。ほれは前にも言うたけど、やっぱり受け付けんのよ、ほんなん。もう、なんせ自分は自分じゃちゅうて殻に閉じこもるんが皆なんよな。うん。ほなけん、もうたぶん1年も経ったら、ごつい喋れるようになると思う。ほんだけ分かっとなら。

T:ほんで一、

Z:うん。

T:俺やに、とつたら、やっぱり自分の意見としては、こういうんがな1月にいっぺんでもあつたらな、会って話を聞いてもらえるし、また、他の人の意見も聞けるし、俺やはええんやけんよな。なけん、こういう人間がもっとようけおつてもえ・ええと思うんやけんよな。ほなけん、ほのために、もっと人がようけ来たらええのに。

Z:ほれは、あの一、あ一、あの一、ほなけん、T君以外の人やわな、あなたの1年前とおんなし考え方なんよ。

T: いや、ほら、あんまり話はしたあないんでよ？話せんでもええんならな。ほなけん
どやっぱりな、話しょらなんだら話かけれんわね。もう、自分のはな・話さないかんの
に、ほ・ほれにこう、ものすごいなになが、つ・常からはなさんとこはなさんとこって
うなんでおったら、もう話さないかん時に、ほ・ほの話すまでが、までに、がごっつい
いってしまうように思うんよな。もう簡単に、なけん、「お前要らんこと言いやなあ。」
って言われる時もあ・あるかもしれませんが、やっぱり、やっぱり、ほんでも話せな
いかんと思います。

Z: ほらほうじゃ。

T: まあ言うたら、今、「あんな事言わんでもええのに。」って言われる場合もあるかもしれ
ませんが、ほんな時は、大目にみみ・・みてください。しんたいこと言よるなと思
うても。

Z: ほれはだいぶんな、あのちょっと、うまあなってきた、うん。ほなけん、あの、えー
と、あ、1ヶ月入院してこう、あ、えーと、あ、えーと、あ、足が動かん人がずーと
おったらやな、な、ほんだらなかなか歩けんわ、もう、し・喋ってないんよ。ほら喋り
にくいわ、たしかに。ほなって、アナウンサーやっても一緒に？あの一、あの、10分の
テレビに出るんに何時間も練習しよるけん？あれ。プロがでよ？プロがあんだけしよ
んやけん、俺やが喋れんの、当たり前でええんよ。ほんで喋ろうとしたらええんよ。

T: ほなけん、この一、

Z: ほれが大事大事。

T: この前からほれ、しよんよ、この何(舌)の運動も、

Z: ええと思う。

T: 声の発声練習みたいなもんかもわからんわな、1つやな。

Z: そうそう。

T: ほなけん、これからもうずっとしていこうと思います。

Z: ほらええこっちゃ。

T: ほんで、こやってな、案外な、スラスラ言葉が、・・出るようになった、ほれがやっぱり、
舌のこう、動きが関係しとうとお・思うんです。いや、冗談じゃなしに。こう、こう、
こやってするんですよ、ベロで、ねえ、こう唇の上下こうやって、今度は反対やって、
ほの、前やってねえ、前やって、これを両脇につけてね、これ、思いっきり出したほう
が効果あるって言ってました。

M: ああ、ほういう運動しよんですか。

T: うんうん。こやってな、おもいきり出して、痛いぐらい出したほうが効果があるように、
ほの人はいい・・言ってました。ほれが、

M: ほの人って誰ですか？

T: ほの、ほなけん、ほんなんを、病院関係の、ほういう関係のな。ほれとほのうえに、早
口言葉とかほんなん言うても効果あるとは。

Z: 何、あの、ほの、色んな人が言う意見を、自分で取り入れるとこだけ取り入れたらええ
んよ。ほなけん、T君が、あ、えーと、あ、ほういうしよることが他の人がしたって、
それがええかっていうたらそうでは無いんですよ？あなたが、宗教と一緒にじゃ、ほれは
な。よかったけん、あの人もあの人も入ったら、私とおんなしように幸福になりますよ

って考えはやめてよ？

T:ほなけん、俺以上に話できる人もおるけん、ほんなこと言いたあないしな？

Z:いやいや、そういう意味じゃない、そういう意味じゃない。えーと、あの、他の人もおんなしようにしてもおんなしようにならんよっていうことだけを認識しとってよっていうことを言よん。

T:ほら、ほうじゃ。

Z:あなたもうこうしたらええんちゃうんっていうな？

T:ほうじゃ。

Z:意見としては言うんはええけんどな。ほなけん自分でやろうっていう気になっただけでもえらいわ。

T:お・俺やってな、今までで相当入っとるはずなんやけどな。色んなんがな、うん。電話なんでもな、恐怖でもしてみいって本に書いてある。

Z:ほなけん、できるようになったけんええでない。

T:やっばりな、これは、

(W氏入室)

W:こんにちはー。

T:俺の場合はじよ？会社とかほんなん行っきよつたらな、なるべく、吃らず話すけん、余計嫌な感じは与えたいかんとか、ほんなんあるでえな。会社行っきよつたらお金もうけないかん。ほんで、1年に1回、1年に1回があるんです。グループになってな、「今回のお前発表せえ。」っていうんがあったんよ。ほたらほんな時でも、なんでや知らんけんど。発表、さしてくれる人もおりやあ、いや、「お前はもうかんまんけん。」ちゅうて、ほたら俺もうなんもよう言わんもんな。「かんまんけん」言われたら。ほの時はいじよ？「お前、お前、もう今回はもうかんまんけん。」ちゅわれたらな、ほれ以上の反論ができんもんな。「いいや。」ちゅうて、私は発表したいんですちゅうてもな、ほこまで、ほれが駄目やけ、言えんもん、なって。

Z:ほなけん、今から変わったらええんでえ。変わって。

T:ほんで、まあ、いつやらほなけん、Mさんからも聞いたことがあ・あると思いますけど、しししし・四国放送から、俺やが例会しよるこの部屋になにが来まして、取材が来ましてね。ほなけん、ほれを、取材来て、ほんで、何人か、何日か経って、テレビで放送ひた・したんやな。ほたら、ほの時に、テレビを見よつた人で、自分の会社の人があ、「お前、テレビ出とつたなあ。」と、「出とつたなあ。」と、ほんなんよ。反応な、ほれ以上、相手、気つこうて、言わんのんか知らんけんど、ただ、ほれぐらいの、あれやけんな反応やけんな。ほなけんほない、深あに思うことは無いなあ。あんなんに出て、ほらあ、・・Mさんとか、・・・S君ぐらいだったらな、ちょっとは、その、相当話たけん、ほら、あつこまで話つしよんだったら影響あるんだらうけど、自分の場合、ちょっとやけん、ほなに反応なかったなあ。ほんでも、テレビにで・出とつたなあと言うてくれる人がおつたけん。ほれだけでえな、まあ言うたら。

M:嬉しかった？

T:良かったと思う。ほなけんほないな、がーに追求すること、な・ないと思うんよ。ほない、まあ言うたら自分で、あかんあかんと思うことは、よおないなと、ほのときにはち

よっとしたな。思たな。言えんかっても、自分でほなけんあかんようにしていきよんやな。

Z:していきよっ'た'。(「た」を強調している)

T:していきよった。

Z:していきよっ'た'。(「た」を強調している)

T:ほういうなにながっぱいあるな。

Z:ほなけんもう変わったで。はい。

T:はい。

M:1 つだけ気付いたこと、

T:はい。

M:あの、この前半 T 君にお願いしますっちゅうたんは、この前半 3 時まで時間 T 君が全部し・・仕切るといこと。全部自分のあれで使うんでない、仕切る、皆さんがこう、順番なにしたたり、質問事項あればせんかとか。

(O 氏入室)

O:こんにちは。

一同:こんにちは。

Z:よかったなあ、T 君なあ。頑張りよ、T 君。

T:うん。

Z:誰とでも喋ったらええんじゃ。

T:ほうよ、ほんまよ。

Z:ようよう、ようよう気が付いたんやな。ほの齢になって、いや、あ、え、あ、え一つと、いつでもええと思う。

T:ほなけど、いや、早い方がええなあと、

Z:いやいや、もう済んでしもたんやけん。いや、もう済んでしもたんやけん。ほんなこと考えよって全然、今、あ、今感じたっちゅうことはな、3 年後に感じるよりはええだろ？

T:ほらええと思ったな。

Z:ほうだろ。ほなけん、もう、済んでしまったことは、何考えたって一緒よ、ほんなこと考える必要が無い、うん。ほんな考えて、今からでええわ。

T:後悔したらいかんかいな？

Z:そうそう。

T:いや、もっと早かったらいいことあったかいな、

Z:ほんな、ほんな、ほんなん、

T:(笑)

O:何が？

Z:いや、T 君がな、あの、自分で喋ろうっていうな、気になった。

O:あ、自分で、

Z:自分で喋るって、ほんで、前の、あの、喋れるんじやって言よったで？T 君が。喋れるんよ。ほなけんな、ちょっとあの、えっと、自分、あの一、あの、独自の練習方法考えてな、しよるんやと。

O:へー。あ一、なんかあの、ぼ・、せ・先月途中から来たけん聞いてなかったけど、舌の

一、動きのなんとかかんとか、なんかほんなんをテレビで見て、
Z:自分もしようと思たらしたらええんよ。ええこっちゃわ。
(N氏入室)
T:時間もほなに無いんで、
M:いやいや、ほんなことないよ？
N:(笑)
T:いやいやいや、俺ばかり話してもしゃあないで。次、3分、ほなけん、
M:うそお！？なんで自分が言うんはあれで、自分が、
R・N:(笑)
T:1人3分ぐらい話してほしいと思います。いつもしとるように、あの、今き・近況
報告とか、ほなけん、この1ヶ月で一、起こった、印象的なことでけっこうです。ほな
けん、1人3分ぐらいで、
M:3分や言うたら、少ないでえ、5分にしてくだ！
R・N:(笑)
T:時計で、計りますので、あの一、お・お願いします。ほな、1番最初話したい人？
M:3分じゃ足らんなあ。
T:誰か、
M:5分、5分要るなあ。
T:誰か、あの一、いませんか？いないなら、自分があ・あてます。(笑) いいでしょうか？
一同:はい。
T:ほな、あの一、女の人で1番最初いってもらうのはいかんのんですけど、
N:はい。(笑)
T:お願いします。
N:はい。え一。(笑) え一、えっと一、あの、Nです、こんにちは。
一同:こんにちは。
N:え一と一、うーん、まあ近況報告っていうたらもうあのビッグニュースなんですけど、
Z:結婚するん？
N:はい？
Z:結婚するん？
N:いえいえいえ。(笑) 違います。(笑) いえ、あの、先月のあの、あの、24日に姉ちゃん
の子ができて、
Z:あ一。
N:はい、はい。
Z:どっちができたん？
N:おおおお・男の子です。
Z:ああ、男の子。ふーん。
N:ほんで、ほ・ほんで、あの、樹木の樹って書いてイツキっていうんですけど、
M:1文字？
N:1文字です。
Z:ジュモク？

M:樹木の樹。

Z:あ、木偏の。

N:はい。

Z:口書いて、あの、ほー。ジュっていうん？

N:そうなんで、え？

M:樹と書いて、イツキ君。

N:はい。

Z:イツキ？

N:はい。ほんで、あの、あの、まず最初の方は姉ちゃんも大変なんで、こっちのほうで、あのー、一緒に住んでるんですけど、あれ、なんかあの、あ、よう泣つきよって、でもなんかすごい可愛くて、

M:(笑)

N:(笑) なんかい、やっぱりあの最初の方は慣れなかったんですけど、それっきり、なんか抱っこしたら、ね・・あ・・あの、・・あの、寝てくれるようになったんでちょっと自信が出てきました、はい。で、なんか、子育てってほんまに、・・ほんまあの可愛いだけじゃできんのやなっていうんをすごい、こうなんか、あの、あの、実感しよんですけど。でもなんか、もうなんかとにかくすごい可愛いんで、もう、

Z:よう泣くんじゃ。

N:はい、泣きます。(笑) ほなけん、姉ちゃんはほの分大変そうなんですけど、まあその分、まあ、協力もしていけたらいいなあっていう感じなんですけど、なんか、うーん、まあなんか、あのー、い・・今までだったら、あの、姉ちゃんを心配するっていうことが無かったんですけど、あの、むしろ心配してもらう方だったんで、なんかあの、最近姉ちゃんの、あの、なんかあの、そんなに寝れてないとか、なんかあの、子育ても、あの、なんかあの上手に出来んとかで、ちょっと、

Z:うーん。

N:ちょっとしんどそうなけん、なんかあの、逆に姉ちゃんを心配する立場に、に、なると考えてなくて、なんかそれが不思議な感じですね。

M:(笑)

N:(笑) はい。

Z:大人になったんじゃわ。

N:(笑) そうですねえ、はい。

M:お酒も飲めるし。

N:そうですね、はい。(笑) ビアガーデン楽しみにしてるんで。(笑)

M:(笑)

N:はい。で、なんか、うーん、なんか3月ぐらいに、会社の友達と飲みに行ったんですけど、なんかあの、汽車乗っても全然酔わなかったんで。(笑)

M:ほー。(笑)

N:酒強いかなどか思って、はい。(笑) はい。まあそんな感じです。

一同:(拍手)

Z:お姉さんを助けたげることやな、うん。ほなけん、赤ん坊の面倒が見れる時は見たげた

らな、なるべくな。

N:はい。

Z:まあほなけど、えー、えーっと、えー、あの、あ、飲むんは、何飲むん、母乳？

N:なんか、あの、母乳なんですけど、なんか今日初めて粉ミルク飲みました、はい。

Z:ほたらいけた？

N:はい、いけました。

Z:ほな、離れてもいけるけんな。

N:はい。

Z:何時間か見とったげるよって言うて、遊んできいっちゅう感じで、いけるようになったらな。ほれしたげたらええんじや。なんせ、離れることが大事やけんな、うん。

N:はいー。

M:最近、あのー、吃音の訓練っていうか、ST(言語聴覚士)の先生の所に行ってます？

N:あ、はい、行ってますね。

M:ま、うん、調子はどうですか、ほんで？

N:まあそんなには変わらないですね。(笑)

M:うん。

N:なんかあの、近況報告とか話するだけなんで、はい。

M:あの、授業料とか、月謝とか取られへんの？

N:あ、あの、2000円、あの、月に1回で、

M:1回で2000円？

N:はいー。

M:あのー、公務員でな、言語聴覚士の先生って。ほういうアルバイトで、することもできるんかな？

O:公務員副業いかんのんちゃうん。基本的に、

Z:基本的にはな。

M:言語聴覚士会には加盟してるんよ。

T:ほな、ほな、こんで、いいですか？

M:はいはいはい。

T:ほな、つ・・R君、次、お願いします。

R:はい。えーとまあ、

M:こんにちは一。

R:こんにちは。

一同:こんにちは。

R:まあ、軽く、自己紹介ですけど、まあ、軽く、3分ですかね？

一同:(笑)

T:どんだけしてもかんまん。(笑)

M:オーバーしてもかんまん。

R:あの、4月の例会から参加して今日2回目です。で、Rと申します。あの今、そこの常三島の徳島大学の4年生です。でまあ、まあ自己紹介はまあ、この、ぜ・前回の反省としてちょっと、話すのを、ちょっと、きょね、前回はちょっと逃げ・逃げちゃったんで、

M:え？

R:ちょっとこう、吃りかけたらちょっと違う、

M:うん。

R:文に逃げて、

M:へー。

R:逃げようと、

M:気がつかなんだ。

R:逃げてたんで、ちょっと今日はまあ、そういうのも気にせずに頑張っただろうと思うのと、あとまあ、人の目を見て頑張っただろうと思ってます。(笑) 近況報告なんですけど、まあ昨日考えてて、えっと、あの一、昨日あの一、大学であの、ユースホステル部っていう部活に入ってます、もう引退したんですけど、その一、5月の行事で、キャンプがあって、まあ今の1,2,3年生の人が、まあキャンプしてるのを、4年生が、あの、差し入れを買って、持っていくっていうのが、なんかあの、恒例みたいなのがあって、車で、他の4年生も引き連れて、まあ行ってました。1年生とも、可愛い1年生が、7人ぐらい入ってくれそうで、まあ僕と高校がお・・同じ、徳島北高校の子もいたので、すごい親近感を持ちました。まあ、そうですね、あの、ま、あ楽しかったんですけど、昨日一、結局家に帰ったのが、6時前ぐらいになってしまって、寝たのも、7時ぐらいで、今ものすごい眠たいんですけど、まあ今日はこの2時間ぐらい眠らずにいれたらなあ、と思います。以上です。

一同:(拍手)

M:ユースホステル部？

R:はい。

M:ユースホステルって、今でも日本、あの、各地にあります？

R:あります、あります。今、あの、徳島もあの、大神子海岸、そこにあるのと、

M:うん。

O:へー。

R:もう1個あったのかな。

M:日和佐に一、

R:潰れ・潰れ、残ってるのか分からないですけど、まあ、何個か、

O:ユースホステル部っていうのはどんな活動、具体的に。

R:基本的に、まあ旅行する、

O:ユースホステルを泊まり歩くみたいなの？

R:そうですね。

O:へー。

R:で、まあ、旅行したり、まあ、キャ・旅行以外にもキャンプとか、したりするんですけど。

O:僕、ユースホステルって、泊まったことないんやけど、あれって、なんかこう、けっこうやす・安く泊まれる？

R:そうですね、一応、そう、1泊3000、すす・素泊まりで3000円ぐらいなんですけど、でも、ビジネスホテルとあんま変わらんっちゃ変わらんから。

O:なんか、晩御飯の時に、こう、なんちゅうん、こう・交流会っちゅうか、ほんなんが、
R:あります、あります。なんか、旅、ほかにも1人旅してる人とかもけっこう居たり、するんで、なんかそういうのが目当て、そういう、他の人と交流するのが目当てで、なんか泊まりにくる人とかも居たり。

M:自己紹介でけなんたら困るねえ？

T:あれは、ビールとかお酒は飲んだらいかんのやねえ？ほこで。

M:持ち込み禁止。

R:けっこう、今自由、

T:ほんま？自由に、夕食の時に、飲まんと、部屋で飲むんはかんまんの？

R:けっこう、

T:ほんま。

R:中に自販機とかがたまにあったり、ビールとか売ってたり、はい。

M:開けてきたんじゃな。

Z:民宿っちゅうんと、また全然違うんで？

R:うーん、基本的にみんな相部屋なんですよ、部屋の中に、ま、こんな部屋に、にににに・2段ベッドが、まあ何個かあって、トイレ、風呂は共同、でまあほんまに、ベッドしかない、部屋にベッドしかなくて、まあ、ほかは全部共同っていう。

Z:ふーん。突然行っても泊まれるん？

R:ま、一杯じゃな・なかったら。(笑) 基本的に、そんな一杯になることはない。

Z:ないわなあ。うん。ほな、突然行っても行けるんやな。

R:はい。

Z:管理人さんがおるんじゃ。

R:はい、1人。

Z:は一。

O:ね・年に何回かは、ほういう、こう、各地のユースホステルに行くん？

R:そうですね、ね・年に、3回ですかね。旅行、部活として旅行に。

O:ふーん。

M:もう、そろそろ就活、

R:そうですねえ。

M:始まりますね。

R:今、

Z:来年だろ、卒業するん？

R:はい、そうですね。らい・来月に試験が、公務員の試験ですね。

Z:ああ、ほんま。徳島の人？

R:はい、徳島です。

M:生まれも育ちも。

Z:ああ、ほんま。

R:はい。

Z:ほら、頑張って公務員なあ、いかなんたら。

R:そうですね。(笑) まあ、なれたらいい。

Z:入ったら、なあ。学部は何？

R:総合科学部っていう、文系の所なんです。

Z:ほうか。ほらええわ。うん。

M:学長今だれ？

R:か・香川さん。

M:あー。

R:はい。

T:はい、ほな、

M:いいですか？

R:はい。

T:ほな、お・・Oさんほな、次。

O:えー、こんにちは。

一同:こんにちは。

O:Oです。えーと、私の子供も、先ほどの、えー、R君と一緒に歳の、娘がいまして、大学4年生で、あの一、今就活中です。で、えーと、うちは一、公務員の勉強してなかったの、もう民間の、会社一、を今何社か受けているんですが、まだ、えー、内定を貰ってる所が無いという、ちょっと厳しい状況なんですけど。ま、大学はこっちなんで、長男が県外に行ってしまったので、できたら、あの一、県内に残ってほしいなあと思ってるんですけど、こういう、えっと、こ・・えーと、このご時世なんで、そういう贅沢も言ってもらえないので、まあ、最後は本人に任せるしかないんですけど、本人も、まあ一応、徳島と、ほれと香川を中心に何社か受けているようなんです。まあ、これからも受ける所もあるようなんですけど、まあ、1次、2次みたいな感じで、まあ何次かは面接いくんですけど、えーと、何社か受けて、返事待ち、1次通って、まあ次、2次、3次とかいう感じでいってる所もあるみたいなんですけど、まあどうなることやらという感じで、まあ本人に、任せるしかないの、えー、まあ、できたら、近い所に決まってくれたらええのになあと思っています。えーと、ほな、えー、まあ自分自身のことを言いますと、まあ、えー、まあ最近色々、仕事のストレスが溜まったりとかしているの、えー、ちょっとまあ、えー、体を動かして、えー、何かストレス発散するものは無いかみたいな感じで、えーと、今あの週1回こう、地元の、あの一、とこでこう、卓球をしたり、あと、えーと、昔、あの一、ちょっとこう、テニスをしてたので、何十年か振り、25年振りぐらいに、えー、ちょっとテニスを始めたりとかして、あの一、えー、気分の発散をしてるんですけど、なかなかこう、昔のようにはいなくて、すぐに息があがってしまって、ゼエゼエ言いながら、あ一、やっているというか、次の日になるともう、足が痛くて、なかなか歩き辛いみたいな感じの、状態なんですけどまあ、うーん、しんどいながらもまあ、うーん、たまにほやって体動かすんはいいかなあと思いながらやっています。あと、えーと、うち、子どもが3人いまして、1番下がまだ、えー、中学3年なんですけど、中学3年の、えー、女の子なんですけど、えー、ちょっとまあ、今反抗期というか、あの一、ちょっとむつかしい、あの一、時期になってまして、えー、前は、あの一、小学校の時なんかはけっこう、いろいろ、うーん、話かけてきたりとか、わりと、家でも笑顔だったんですけど、まあここんところ、うーん、非常にこう、むつ

かしくて、あの一、家でも必要最小限のことしか喋らないみたいな感じで、ほんで一、え一、まあ部活、は中学校入ってバレーしよったんですけど、途中で休部になって、途中でたつきゅ・卓球のほうに変わったんですね。ほんで、途中で変わったもんなんで、なかなか他の子に追いつけなくて、部活もあんまり、こう、好きで行ってないっていう、嫌々行ってるって感じの状況で、まあ、そんなこんなで、うーん、なかなかこう、学校でもいろいろこう、人間関係で悩みがあるようで、あの一、学校に来るスクールカウンセラーみたいな人がいまして、まあその人に相談のってもらったりとかして、やってるんですけど、うーん、なかなかむつかしい時期に差し掛かってるなと感じています。うーん、もう5分ぐらいになりましたね。(笑)

M・N:(笑)

O:まあ、終わります、以上です。

一同:(拍手)

Z:難しいなあ。

O:うーん。こう、ガラッと、ちょっとしたことでこう、変わっ・変わってしまったね。

Z:もうなに、え、えーと、おと・あ、え、えーと、あの、お父さんとお母さんとほの子しかおらんっちゃうことだろ？みんな出とおけん。

O:うん、3人。

Z:寂しいんじゃないわな、ほら絶対に。うん。お母さんとは話すんだろ？よお。

O:まあ、話す。僕とも必要最小限のことは話すんやけど。

Z:うん。

O:うーん。

Z:ほら変わるわ、ほら。(笑)

O:前、ほの、まん・真ん中の娘とほれと、家における時は、真ん中の娘が家における時は、わりと仲よかったんよ。わりと話しよったんやけど、この頃は、あの一、電話、まあうちの、真ん中の娘と電話し・して、ほんで、「下に代わって、電話代わって。」って言うても一切話そうとせんのよね。

Z:あー。

O:「嫌。」って、「話たあない。」みたいな感じで。

Z:寂しいんじゃない、絶対。

O:なんかこう、むつかしいね。ほのうちなんかこう、登校拒否なれへんかいなと思て。

Z:うんうん。

O:ちょっと心配なんやけどね。

Z:分からんけど、むつかしいもんな。まあ、まあ、子どもの時や、あ、あの、うちの子どもも、あの、女の子だったけん、とうこ・登校拒否には、やっぱり、なるわな、時期的にな、あれって。なんかこう、あれ、いじめられとるように思うんちゃうん？まあ、実際にほんなんがあるんかも分からん。ほなけん、あの、俺やわ極端な話、「行かんでもええ。」って言うんよなんよな、学校に、わしはだよ。ほない、あの、「行きたあないんだったら止めとけ。」って、「行かんでええわ。」って、あ、どうしても「学校行け行け。」言えへんって言う。ほんで「お前、転校したいんだったら、転校してええわ。」っっちゃうて、うん。俺はほたって言うたけどな。

O:昨日なんかもね、こう、部活でこう、練習試合みたいなんがあつて、まあ、ほの、練習試合の会場に連れて行とって、

Z:うんー。

O:行とったんですよ。ほたらこう、友達同士がまあ、試合、試合が、あの、始まる前に、まああの、集まっとったんですけどね、ほのなかにこう、ほの輪の中にこう、入って行かんと言うか、自分、自分から入っていかんと、ポツとおるみたいなの。

Z:あー、はいはいはい。

O:いじめられようっちゅうんじゃなくて、自ら入っていかんのやな。

Z:入っていかんのか。

O:声か・声か・声を、かけてくれるんやけど、あんまりこう、ほれに対してこう、反応せんちゅうんか、うーん。

Z:何か、何か分かんけどスネとんやな。スネとうっちゅうんか、反抗しよるっちゅうか。

O:むつかしいなあ思て。

Z:はい、女の子おるよ。

N:(笑)

Z:女の子に聞くんが1番ええわ、ほんなんわ。

N:えー。

Z:どうしたらええと思いますか？

N:うーん、でもなんか、しゃあないじゃないですかねえ。(笑)

O:うーん。

N:なんか、もう、中学校の時ってそんな感じでしたよ私も、はい。

O:真ん中、真ん中の娘は、ほんなんで心配したことなかったんやけどねえ。わりと親しい子の、あの友達がおって、

N:はいー。

O:ほんで、あの、1番下の子、ごっついこう、親友っちゅうんがおらんわね。

N:あー。

O:うん。1人でおるんが好きみたいな感じなんよ、1人が好きみたいな感じ。

Z:本読むん？

O:本は、読むんは好き、本読むん好きで、あと、パソコン？パソコンの、ネットで、こう、チャットするんよね。遅っそおまでしよう時があるんよ、

N:(笑)

O:休みの日なんか。

Z:ほんなん分かんなあ、わしやわ。本が好きやったらなあ、ほれはええでえ。

O:本は好きやね。

Z:まあ、なんか、

M:家の中で、荒れるやいうことは無いですか？

O:荒れるやいうことは無い。ほんな、はんこ・反抗して暴力振るうとか、物をぶつけるとか、ほんなんは無いです。

Z:ほらええわ。

O:ほなけんもう、変わってしもたなあと。

T:いや、こんな、ええか分からんけど、俺やみたいなのんは、全然関係ない？

O:あの、吃り？

T:吃りやは、関係ない？

O:ほれは無いねえ。

T:あれやって、中学なってからきゅ・急に何かの衝撃でパツとなる場合もするんでしょう？
まあ言うたら。

O:社交的っちゅうか、わりと人前出るんに抵抗なかったんやけど、ほれがこう、180度
こう、変わってしもた。なんかほんな感じなんよ。こんだけ変わるもんやなあと思て。

T:ほな、ほれで、

O:はい。

T:Zさん、ほな。

Z:えーっと、あの、Zと言います。ちょっとあの、あの、立つとくんもあれなんで、座ります。

M・N:(笑)

M:ヘルニア？腰が痛いん？

Z:頭が、重たいんよな。

M:頭が重たいん？

Z:髪がようけあるけんな。(笑)

N:(笑)

Z:ほれで一、あ、俺はあの、えーっと、あの、市場、あの、中央市場っていう所で働いて
ますけど、まあ、えーっと、あの、M君と一緒に、67になりました。

M:ちゃうわ、ほんだけなってる！

一同:(笑)

Z:67になりまして、ほいで一、あの一、あの、会社の方にも言うて、もうあの、来年にほ
の、あの、あの一、「誕生日がきたら辞めるよ一。」って言うたら、ほたらほの、他の人
にしたら、後の、か・あ、会社、誰がするんでえ？や言うけん、ほんな人は、あ、時代
と共に変わっていくしね？ほれで、まあ今、あの、今やってることは、えーっと、えー
と、あの、四国の道や言うて、えーっと、古い、古い旧道っちゅうんはおかしいな。え
ーと、あの、古い道、えーっと、あの、昔の道やな。ほの、あった道を、えーっと、環
境省が、えーっと、あの一、あの、えーっと、あの、自然保護の道やいうて、えーと、
あの、名目をして、ほれでコース図を作って、こっからほこ行きましようとか、行きま
しようとかいうんを作ってるんですよ。ほんで今、えーと、あ、えー、今現在は、えー
っと、あの一、えーっと、あの、香川編ですね。徳島編は歩いて、みな済んでしもて、
ほんで香川編にいてます。ほんで、今度は愛媛とか、高知行くんですけど、ほの時に、
今ちょっと、あ、えーと、あの一、えーと、ユースホテルっちゅう考えとんですけど、
民宿っちゅんは、ほの、簡単に泊まれるんだらうかと思てね。ほの一、えー、遠おにな
った場合には、その日行って、その日に帰ってくるっていう訳にいかんじゃないです
か？

R:あ一、はいはい。

Z:ほなけん、あの、ほういう、そういう、えーと、あの、古い道の所から、たぶん、よう

けあると思うんです、どこか分かりませんが。ほんでほこ、ほんな所に泊まっ、ちょっと泊まって、ほんで行こうかなあっていう、案っていうかね、計画もしてます。歩いたりしますか？

R:歩いたり。(笑) ラ・ランニングとかはしてます。

Z:あ、ランニングする、あ、えーっと、あの、マラソン。あの一、徳島マラソン、

R:それは行ってないです。そこま・ま・そこま・・までは。

Z:ほなけん、まあ、今現在はそういう所ですね。あとは、あとは一、変わったことは無いわなー。

M:ゴールデンウイークは？

Z:うん？ゴールデンウイークは、ゴールデンウイークは仕事。あと、ほれぐらいかー。あ、うちの、あの、子どもが、えーと、あの一、あれ、えーっと、あれ、えーっと、広島そごうにおったんですけど、あの一、旦那が東京の、変わって。

M:うん。

Z:ほしたら、付いていかなしゃあないでえな。ほなけん、東京におるんよ。えらいなあ、遠なったけど。まあ、あの、旦那の里の方が、あの一、千葉の方って言よったけんな。ほんでほっちのほうにおる。ほのぐらいかな、あとは無いな。ほんなとこです。まあなんでも聞きたかったら聞いてください。終わります。(笑) はい、終わります。

M:はい。

Z:終わります。

M:質問ありませんか？

Z:質問ないだろう。

M:はい、ほな、えっと、えーっと、ご指名に預かりまして、簡単に自己紹介をさせていただきます。えー、名前は、えーと、えーと、M って言います。年齢は、えと、えと、えーと、あの、Z 君が言ったように、同級生なんです。小学校、中学校と同級生で、それで一、中学校、えーと、えーと、えーと、同窓会、40 年ぶりの同窓会ですね、55 歳の時に、初めて参加したんです。ほれまで、3 回か 4 回は、同窓会もあったんですけど、やっぱし、あの、幹事によって声かける、あの、メンバーが違うんですよね。やっぱり、自分の仲のええっていうか、こう、人が順番にいて、まあ、360 名ぐらいの同窓生の内に、80 人ぐらい、ぐらい。それで、40 年振りの時はそんなにも参加しなくて、50 人ぐらいか。で、それで、初めて、あの一、中学校卒業して、会って、それで一、話し・してる時に、びっくりしたんですよ。吃りが治るとるって。うん、もう一、おんなし学級にもなったんですけど、同じ難発性で、きき・こやって出んのやけど、えと、Z の場合も、1 次性吃音っていうか、連発で出よったんですよ。それで一、本読むときでも、こう、随伴運動、顔の表情変えたり、バランスを取ったりして、言いにくいから、もう、おおやけっていうか、もう、ほら一、一見してすぐに分かる。ほれでもう、だいたい、す・スポーツ万能で、それで一、いじめなんかはなかったですね。それでもう一、おんなし親友で、えっと、X 君やいうて、中学の一、全日本記録の棒高跳びで、3 メーター 40 か 50。中学生やからね、新記録出した、子とすぐく仲がよかって、休み時間とか昼休み時間は運動場へ走って行って、そいて、鉄棒です、あの一、今みたいな、ああいう、あ・石灰ですよ、白おい、石灰、あれを手にかこうやってして、掴まって、それで、こ

う一何回か揺ったと思たら、いきなり大車輪！グルグルグルグルーグルグルー、って、そしたらみーんな出てくるんよ。こう、2人が交替でやるんです。かたっぽがまたやって、大車輪であれ、手離したら、どっか飛んでいくのかなあ思うぐらいの、遠心力やね、あれ。ほなけん、そういうスポーツが、じょ・あの一、あれ、万能やったから、もう吃音なんて、全然もう、いじめにもならんし、馬鹿にもされん。そういう感じだったんですよ。それで、話して、「あれ！？普通と違うでえ、今までと。」全然つかえへんのよ。「何して、その一、えーっと、吃り治したか？」って、「どんなあれしたん？」って言うて、ほんで話、こう、いろいろ、まあほの、こういう、あれの話したん。ほんでもうそういう、あの一、芸事っていうん、一生懸命やっとするから、えーっと、えーと、えーと、えっと、えっと、中四国大会なんかで、ほの一、1人1芸なんてあるんですよ。やって、って言うて、皆の前でそういうことを、口上を披露したり、口上って、「口」の「上」と書いて、あの一、えーっと、『蝦蟇の油売り』とか、そういうのを延々と喋る訳ですよ。ほんであの一、『う・いろいろ売り』もそうやね？あれ。

N:ああ、ああ。

M:あんなんでも口上に入ると思うんですけど。バーという訳で、そういう風で、だいたいここまで、え、なんていう、生きて、それが中央市場の、え、えっと、せ・競りとかで生かされとおと思うんよ。ここで落さないかんちゅう時に、いいい・言えんかったら、欲しいもんとか、つ・・落とせんから、競り落とせんから、でしょう？

Z:ほんな時もある。

M:そういう関係で、僕と2人の関係はそういう風なあれなんです、うん。ほんで、あの一、近況報告っていうたら、まあ、僕は、えっと、クレーンのオペレーターやってるんですけど、ゴールデンウィークは半分ぐらい、えっと、僕も、えっと、現場行きました。今、ちょうど、四国一、自動車横断道が、えーっと、鳴門から川内のほうずーっと、北の方から川内を越えて、橋は、こないだ完成したんは、白鷺大橋の東、もう1つ河口へまた新しい橋を、高速道路の橋が架かります。ほの橋は、今全然工事にもかかってないし、ほこまではなかなかいかんと思うんですけど、今、川内の大松工事がだいぶ遅れていて、それで、ほこへ連休も駆り出されました。それで、明日も行くんですけど、あの一、川内の、流通団地？

Z:うーん。

M:突き当たって左、昔の、今、えっと、え、ジャ・ジャストシステムっていうコンピューターの、

Z:ああ、ジャストシステムな。

M:そこの、そこの北側を通るんですよ。

Z:ほ一。

M:ほこをこう、あの一、今、入ってますけど。いろいろそういった感じで、あの一、先月までは藍住町に体育館が今、えーっと、できてます。あの一、おおけな80メートルの、幅が40メートルで、それで大方、ほとんど仕上がってきて、7月引き渡しになってるんですよ。藍住町はどんどん発展して行って、あの一、中学校もできましたし、いいなあと思う、R君、

R:お陰様で。(笑)

Z:藍住？

R:はい、そうですね。

M:お店もよおけあるし、それで、えーっと、若い人が増えてきて。ていう感じですけど、近況報告終わります。何か、質問あったら、お願いします。あ！こないだ嬉しかった。あの、久しぶりに、あの一、えっと、小さなクレーンがあるんですけどね、あの一、大体、えっと、個人の、業者さんがつこてくれるんやけど、久しぶりにあの一、い・家、木造の建て方っていうんか、建て前ですねえ、それに呼ばれて、あの、お昼のお弁当御馳走になって、帰りにビール、

Z:ええでえ。

M:ごつついで、バックに入れて、

Z:ほ一。

M:ほれで、少しですけど、これ一、御祝儀まで入れて、それは嘘じよ？(笑) ほんで、大工の棟梁の、息子さんのうちっていうんで？半分、あれ、もうほれで一、あの一、消費税が上がるっていうんで、なんか、忙しいですね。ほらもう、大工さんは。ほら一、10%上がったら、1000万で100万やもんね。

Z:ふーん。

M:そういうことです。

Z:ほ一い。

M:ほな、次。

W:えーっと、こんにちは。

一同:こんにちは。

W:えっと一、Wです。

Z:ほ一い。

W:えっと一、ま、ちょっと、前は参加できなかったんですけど、えーっと、まあ、3月、まだ、あの一、え、ゴム工場の製造に変わ、ほうで、えっと、働いています。

Z:いけたで、正社員(拍手)。

W:で、まあ、今、まあ、今研修中で、

Z:研修中。ほないけるわ。

W:で、まあ、期間が2か月か3か月なんで、えっと、まあ、ま、こ・今月末までなんですけど、まあ、まだ、どう、何も社長から言われてないのと、まあ僕がやってる仕事が、ほの、まあ、今言った、今、仕事が、農業用のゴムホースに、あの、糸をこう、編んでいくんですけど、まあその、い・糸、をまあ、作って、でまあ、編み機っていう、機械に、あの、ま、セットするのが主な仕事なんですけど。で、まあ、それ今やっているのが、僕入れて3人でしてるんですけど、えーと、1番古い人がまあ、そこで、えっと、8年間、いて、もう1人の人が、僕より先に入って、その人が4か月くらいなんですけど、でまあ、一応主任からも、あの一、まあ、あの、こ・早くこうできるように、まあ、「だいたい、1年くらいかかるから頑張ってみてよ。」って、まあ、まあ、このまま続行なんかなあていう、ま、ま、き・期待というか、あつてまあ、頑張ってます。ただまあ、ほの、しょ・職場っていうか、ま、わりとこう関係もいいとこなんですけど、まあ、唯一悩・悩みっていうか、やっぱりその一、ま、暇な時はいいんですけど、忙しい時になんか

トラブったりして、言わないかん時に、あー、えーとー、なった時に、こう、主任さんとかには、「後で聞くわー。」とか、

M:(笑) 後で聞くわーって。

W:辛いなあっていうのもあるんですけど、

Z:うーん。

W:まあ、なんとか、ま、頑張ってます。でまあ、えーとー、まあ、一応、仕事はゴムの会社の方針というか、基本、残業をしない、結構こう、バタバタ、してて、僕がいるところのことで、機械回すので、ご飯とかも交替でしてます。まあ、11時15分から12時まで、あの一、いつも食堂で、お弁当食べてるんですけど、いつもこう、まあ、多くても3人とか、ま、シーンとしとる、黙々と、食べてるんで、まあ、わりとなんか、その一、うーん、仕事と環境はいいんですけど、あんまり喋ることが、

Z:無いん？

W:無いので、まあ、ちょっと、ま、終わりでーすけど、まあ、なんていうんすかね、ま、

M:もっと喋りたいのに、仕事せないかんけん。

W:仕事自体がこう、ホースに糸を編んでいくんで、基本、まあ、ホースをこう、まあ、編み機でこう編んでいって、で、まあ、あの、ホース、こう巻いてるじゃないですか？で、あの一、ま、ほれをこう、えっとー、ま、編み機の、ほの、ちゃんと編めてるかとか、ここあの、10分、置きっていうか、見にいかないと、ほんまにこう、喋る、まあ、機械を見て、糸をすくってっていうんで、ほんまに、喋ることは、喋らないで、まあ、吃りのほうが、まあ、心配かなあ。

M・R:(笑)

Z:はん？

M:吃りのほうが心配じゃっちゅうて。

Z:(笑)

M:喉の調子がな、喋るとこへいきたかったんよ。

Z:済んでから喋ったらええんでえ。済んでから喋ったらええ、仕事が。ほら仕事はほんなもんじょ？うちやって、パートさんがようけおるけん、喋りりよったら怒るわよ、ほんな、仕事になれへんで、ほんなん。ほらちゃうわよ。(笑) ああ、ほうか。

W:まあ、ま、なんとか通ってますので、

Z:ほら、ええわ。

W:ですかね。まあ、そんなところーです。はい。

Z:はい。

一同:(拍手)

M:ビアガーデンで乾杯やな。

Z:写真、写っしょん？

W:写真、ですか？あの一、

Z:あの、これ今の。(笑)

W:ちょこちょこ。

Z:ちょこちょこしよるんか、うん、うん。

M:カメラで撮り行っしょん？写真を。

Z:いや、なあ、
M:趣味になった？
Z:気に入ったんよ。
M:ほら知らなんだ。
T:ほら、ええなあ。
M:ようけプロがおる。Bさんもプロやけん。
T:ほんまじゃ、ほんまじゃ。
M:新聞に出とったけんど。
T:新聞に、・2回しとった。
M:5月12日までな。
T:うん。
M:先週と、個人展やけん、個人展。
T:以上で近況報告、き・近況報告、終わりたいと思います。今からちょっと、きゅきゅ・休憩でもしししししし・しまししょうか？
M:休憩しまししょう。ほな、ほの前にあの、後半の担当誰かお願いして、
Z:T君がええわ。
T:いや。(笑)
N:(笑)
T:あの一、なんか、ほなけん、ほれも稽古やけん、稽古と思ってくれてかんまんけん、なんか、一言でも、なんか話たろうと思うんだったら、ちょっと、してくれませんか？
R:(笑)
M:いけますか？(笑)
R:ああ、
T:名前、まあ、一応知っとんちゃん？
M:自分だけ言うて(笑)
T:R君は、これから、会社へ入らなあかんでえ。会社へ入る時は、ちゃんと、俺やは、会社もう入れへんのやけんな。
M:(笑)
T:稽古は、稽古はあんましとおないんよ。ほなけん、これから入る人、
M:これから、ほなけど老人会とかなにいでえなあ。ちゃーんとリーダーがあって、
T:いやいや、ほんなんよりかは、この子らが重要と思う。今からの人が、やっぱり重要と思いますけん。
M:まあ、ほなけん、みんな一、テーマ皆さんに、ほれで話し合いを進めていくか、順番にこう、3分間なら3分間決めて、どないか初めて、どれか選んでもらたら。
R:はい。

(休憩)

5月19日 テーマを決めた話し合い「言友会外部で吃音を気にするか」

(参加者：M,N,O,R,T,W,Z)

M:はい。

Z:はい、T君。

T:うん？

M:いま、あの、「吃り」っていう、えっと、えっと、言葉、使われる？

N:いやあ。

M:学生、高校生に聞いて、「何ほれ？」って知らんことない？

R:あんまり、そうですね。

M:うん。うちの息子がもう、今30になるんやけど、東京でプー太郎っていうか、ブラブラ、あれしい、これしい、仕事変えまっしてしよんやけど、ほの子が、高校の時に、「お前、クラスで吃る子おるか？」って聞いた時に、『なにほれ？』、「吃り知らんのか。」っちゅうたら、『ほんなん知らんわ。』っちゅうんよ。ほんな言葉、みな、よう噛むやっちゃなとか、

R:そうですねえ。

M:あの一、ほういう、あの一、噛むとか、かか・噛み噛みするとか、ほういう風に、吃音っていうんでも、昔やわ、一般の人はな、何それ？って、

Z:ほうやな。

M:分からんでえ。ほういうのが、放送用語とかなにいで差別用語に、まあ、

N:うーん。

M:あの一、耳の不自由なひひ・人でも「つんぼ」って言よったでえ、目の不自由な人、「めくら」って言よったやん？ほういうのがもう、放送禁止用語で、やっぱり吃りも、そういう、あの一、中に入るけん、それは使えん、一般に、それはつこたらいかん言葉じゃっちゅうことは、ほな、どやって表現するん、っていう風になるでえ？吃音っていう字、漢字で書いたら、これなんて読むんで、読み方も知らん人おるよ。まあ、ほれは、うん、なにいで、後半、うん。こんなところから突っ込んでええし。

R:そうですねえ、じゃあ、まあ、後半のテーマを、決めたはは・話し合いに、まあ、移りたいと、思います。テーマがあ・あれば、まあ、それでいきたいんですけど。まあ、僕があ、前の例会でちょっと気になったことがあって、ま、そのこ・こともあって質問したいっていうのもあるんですけど。あの一、一応、言友会の場では吃りを、吃りとか吃るのを、ま、ま、気にせずに話す場ということで、まあ、人それぞれ症状も違うんですけど。ま、この場では一応吃りを気にせずに皆話してるってことで、ま、この場以外っていうか、この、普段の生活の中でも、こう、吃りを気にしてないのか。このやっぱ、言友会を出るとやっぱ気にしながら生活してるのかっていうのがすごい気になって。まあ、この、言友会で普段こういうかか・活動を続けていく中で、もう普段の生活でも気にならなくなったのかみたいなのがちょっと気になったんですけど。伝わりました？今の？(笑) どうなのかなってのが気になって。

Z:俺の場合で言うたら、気にはなるな。気にならん、ほら、人それぞれやけん分からんけど。俺やわ商売しよったけん。ほの、カネ金っていうんですよ。うちわね。ほの、ま

あ、ほの話しよったら長あなるけんあれやけど。電話とるんが嫌なんよな、まずな。カネ金の力が言えんのだよ。(笑) ほれがほんまに、あの、若いときにもう、電話取れるんやけど、力が言えんけん相手は「あ、おらんのや、なんや、聞かんのやな」と思てな、切るわけよ、電話を。ほたら、商売にならんのだな、こっちもな。ほんで、皆がよけおったらよけいかなのよな電話つてな、あれな、電話取るときつて。誰やほなけん、よお携帯電話になつたけん助かつたと思てるんよ。自分でこう、コソオつて言えるでえ。大きな声で皆の目を気にせんと。ていう風に、やっぱり、職場では、あの、気にしよるな。ほれと、あの、例はよくあるんやけど、ほういう、えーと、えーと、あー、忙しい時？に、えーと、アルバイト雇うんですよ。3~4人ぐらい。ほの、ちょっとの間だけね。あの、お盆と正月。やっぱり、こう、えーと、面接したり挨拶したりするじゃないですか。ほたら、やっぱり、ちょっと、え、えーと、あの、吃音があるっちゅうんは、ごつい、えーと、あの、その時は、えーつと、あの、意識しますね。その、あの、自分が上手い事言よらんつていうことが分かるからね、自分自身で。ほたら、相手は、えーつと、えーと、あー、えーつと、あの一、あのえつと、学生さんが大体多いですから、やっぱり、こう、そんな気持ちを分からんわね。笑うわね。やっぱりほんなんは、あの、笑われても、こっちは仕方ないっちゅうか、ほんなそのことに対して怒る訳にはいかんし。ほれと、あの、しゃ・えつーつと、あ、えーつと、えーつと、あ、えーつと、あの、斜視なんですね、僕はね。こう、えーつと、あの、あ、あ、あの、目を見てくれたら分かるように。こっちとこっちと、えーつと、あ、両方で見よるんですよね。あの、あの、あの、片一方ずつしか見えないんですよね。あ、あ、あつと、今こっち見てますけど、今はこっち見てます。これが全然違うんですよ。ほなから、ほういう、あの、面接の時には、えー、あの、しゃ、こちら向いて喋ってくれているのかなー？つていう顔をしますよね。ほなけん、ほういう、えーつと、えーつと、あの、二つのことが、あの、今のほの言う、あの、あの、気にするか気にしないかって言うてもいつでも付いてまわってます。はい。あの、気にす、気にするとかいうか、ほの、気にはするけど、悔やんではないですね。うん。ほなけん、あの、最初からほうやって言います僕はね。えーつと、斜視ですけど、あなたの方を向いてますよーちゅうてね。ほれは言います。えー、あの、気にはするけど悔やんでないっちゅうかね。別にほんなことは思つてないです。Rさんやはどうなんですか？

R:そうですね。僕はまだ、ほの言友会・すごい気になります。やっぱり、自分の言いたいことが、やっぱり、ちゃ・ちゃんと伝えられないのがやっぱり一番こう、1~10までちゃんと自分のしゃべ、考えてる文章の通りにちゃんと、こう伝えれたらいいんですけど、やっぱり、そういう風にはいかず、ちょっと、こう、どんどん文が減っていったり。

Z:喋り易い言葉に

R:そうそう、変えていったり、どんどんどんどんへへ・減っていった、なんか、けけけ・結局。

Z:そのことを、えーつと、話してる相手から読み取ることはできますか？

R:どう、えーつと、、、

Z:あの、あー、吃音、あの、この人は吃音やなあつていう風に見えよる態度は見えますか？あなたが。

R:うーん、あんまり、そういうんは無くて、自分がき・吃音っていうのを言っても、「あー、そうなんだ。」みたいな。

Z:あんまり思てないんか。

R:はい、思てはない。ま、たまに、真似する人とかは、たまに。

Z:やっぱりある？あるな。昔はようあったんよ、ほれがな今は少ないんだらうけどな。うん。あの一、ちょっと、これ、いいんかいな。あの一、吃音であることによって、あの一、障害じゃ、えーっと、あの一、障害というか、えーっと、損するばかりではないと思うんですよ。僕は、そうだったんですけど。相手を、えーっと、あえーっと、あ、見る目ができるようになるんですよ。あの一、この人は、障害者に対してとか、えーっと、あ、まあ言えばそういう人に対して、えーっと、あの一、えーっと、えーっと、あ、優しい考え方を持てる、えーっと、か、えーっと、あ、馬鹿にしてるかとか、ほんなんがすごく、すぐに分かるんですよ。喋ったらすぐに。あ、この人はあかんあとか、ほなけん、あの一、バイト、まあ、例えば、雇う時には、もう、ほんまに、あ、ちょっと話するだけで分かります。ほなから、えーっと、あの一、えーっと、あ、えーっと、あの一、あの一、履歴書なんか、えーっ、とりあえず持って来てくれますけど、ほんなんは見ないですね、ほとんど。ほんで、えーっ、えーっと、あ、話して、ほいて、あ、この人はええ人やなあとか、悪い人やなあ、ってそういう見方はしますね。ていうんは、吃音になったけんそんなことが分かるようになったと思てます。はい。損ばかりではないということですね。

R:分かりました。やっぱり、順番に回していったらいいんですか？(笑)

M:ああ、どうぞどうぞ。(笑)

R:自分から喋りたい人とかいらっしゃいますか？(笑) じゃあ、言友会に長いMさん。

M:あのね、あの一、もう座ったままでええね？

R:はい。はい。

M:あのお、今でも僕はやっぱり、えっと、気にし・してます。うん。今日は、あのお、演台の上に乗って、あのお、うちの会社の作業内容を言わないかんっていう時では、えーと、マイク持って、あの一、まあ、簡単な「おはようございます。本日は建設のす・す・作業内容は A 高校において何、B 高校において何。」っていう風に言うんですよ。それで、あの一、危険なことを、まあ、ワイヤーの使用前点検とか、足元の用意をしっかりとって作業を行います。人員何名。っていうことを言うような時あるんよ。こういう時は朝からやっぱり、ほれ、ききき・気にして、今までは発声練習やいよったんですよ、車の中で。会社行く時とか、現場へ行く前に「あえいうえおあお」とか。あの一、「フアイトー、一発！」とか、「フレイ、フレイ、言友会」とか。ほなけども、詩吟に行くようになって、もう、詩吟を歌いながら行くんですよ。大きな声で、ほの、自分の、カラオケで言うたら、えーっと、キーなんですよね。僕の場合は、えーっと、3 本やからだいぶ上がるんやけん。と「とおーかいの一。」とか、こういうん言いながら。行くんですよ。ほいたらもう、声がずーっと 10 分も 15 分も出っしょったら、スムーズにこう、吸うたらあかんけんね。息ももって、「はっ、はっ、はっ」って、こうなってくるけん、吐く息に乗せて、こう、「ハアアアアア」ってなったらそっちのほうが出るって、そういう今訓練をやっています。ま、気にはするんやけどね。で、まあ、言友会の例

会にもう、何年もこういう活動やや・やってたら、ま、ま、年齢っていうか、ある程度年がい・いいくに・いくにつれて軽くなってえ・えと、苦しい、ほんで、自分の要求水準を今までだったら、もうかなり上で 90 何パーセント 100 ぐらいまで置いてちょちょちょちょちょ・ちょっとでもつかえたら、「ああ、あそこでつかえた、ここでつかえた。」って、そう、思うけど、70 パーセントぐらいまで要求をこう落とすとしたら、自分の水準、ああ、もう、いいいいいい・いつものペースやから、このぐらいで、まあ、いいかっていう感じで。ほなけん、だいたい、こう、あの、も・も、T 君もほんなんやけど、言いたいことはどんどん言えるようになってきてるんですよ。あとはもう、こう、なんの、え・えっと、問題で、その、細かい自分のな。ほなけん、言えるようになってきたら水準どんどん上げていってもいいし、もう、目標低うに置いといたらもう、彼は彼でいいし、俺も俺でいいと思うんよ。ほなけど、一番今気にし・してることな、あの、コミュニケーションの 3 大要素っちゅうか、まあ、「話す、聞く、書く」で、一番問題になってるのは、は・話すことでしょ？話せない間は、聞く方が主やから、「うん、うん」相槌うったり、して聞くことには慣れとんよ。ほんで、大体、書くことも、もう、すごく、こないだ皆さんから原稿もろたら上手なんよ。ほんで、あと、話すことやね。ほたら、あの、言友会でこの、何年も活動してきて。話すことがこう、スムーズに言えるようになる面白おて話とおておれんのよ。ほなけん、もう、今日でもう 2 人で車でき・あの、来たんやけど、もう、話すばっかりで、俺のいうこと聞いてくれんのよ。「T、お前聞つきょん？」っちゅうたら、「うーん？」ってほんなん。ほなけん、もう、あの、ボールのキャッチボールと一緒に、言うたことに対して返答が無かったら、「お前聞つきょんか？」ってこう、なるでしょう？ほなけん、やっぱしこう、あのー、平行して、こう、やっていかないかなあと思うんですよ。もう、ほなけん、吃音が軽くなる治るっていうことは話すことにじ・自信が、えーっと、できてくる、え・えーっと、えと、ことやから、もう、人捕まえては、こう、話かけると思うんですけどね、聞くことをこれ疎かにしたらいかんなど、今はそのようにお・思ってます。ま、実際に・・・この中でこう色々話したり活動したりしていくと、軽くなっていくと思います。事実、もう、W 君の場合はもう、何年になるか、えーっと、分からんけど、声がご・ごめんよ？

W: いえいえ、いいです、いいです。

M: あのお、こやって、向かい合ってきて W 君が前におったらこう、自己紹介なんかするでしょ。あああ・あの聞き取れんのよ、全神経集中をせなんだら、そのぐらい小さな声だったんよ。ほれを、あの、え・「うんうん。」って、まあ、聞こえてないのに、聞こえてる振りをするっちゅうことは、すごく、えっと、失礼じゃないですか。うん、ほなけん、この頃は声大けなってきたな、って言うて、実際に感じたことを言よんやけどな。すす・ストレートに。もう、頭の中が白おなるんか分からんけど、ボツと突っ立って、1 分や 2 分、言葉にならんような時間があつた訳なんよ。ほなけど、今だったら、こう、もう、し・就活もどんどんやってきて、こない変わったんやなと思って。ほなけん、やっぱし、・・・うん、いいなと思うんですけどね。

Z: ええこっちゃ。

R: そうですね。やっぱり、9 割ぐらい話そうと思っちゃうんで。

M: うん？

R:頑張ってる9割ぐらいやっぱり自分の中で。

M:ペースをあげて？

R:喋りたいなって思ってた、まあ、ね、やっぱり、あんまり喋れないんで。いつも、ま、家帰ってから、いつも、あの、もっと喋れたらよかったのになあ、とか、いつも後悔しちゃうのが、やっぱ、駄目、駄目というか、そういうのを変えていったほうがやっぱり・こう、な・高い水準を求めすぎないっていうか、そういうのがいいんですかね、やっぱり。

M:ももも・最初からもう水準をあげとったらしんどいや自分が。ま、いいかっていう、その、少々失敗しても、あの、認めるぐらいの一ほうが気持ち的には楽なんちゃう？吃音、

Z:あの一、前えっと、えーっと、Mが、あ、えっと、詩吟をしたりして、えーっと、あの、T君が、あ、えっと、あの、舌のナントカカントカして、やっぱりやっぱり何かをしようとしたら練習せないかんわな。ということじゃわな。じーっとおっではできないっていうことじゃわな。うん。えっと、なんぼするかで悩んでも、うん。なんせ、やらんとできん。やったら必ずできるようになると思うわ。うん、自分がやる気になるかどうかやな。ほなけん、その自分なりの方法論を考えてほんで練習すべきやと。うん、あの、えーっと、わいがよく言うんじゃけど、水泳と一緒になんよな。えーっと、あ、泳げん、あ、動物やおらんのよな。ほなけど、泳ぐ練習をせなんだら泳げんでよな人間て。あの、えーっと、水泳で、水泳ができん動物は人間と猿なんよ。できんやつがおるっちゅうんはわな。ほれは何かっちゅうと恐怖心なんよ。恐怖心がえーっと、人間と猿にはあるんよ。え、えーっとほなけん、えーと、あの、水の中入って息ができん恐怖心が先に立っしてもて、大体できんようになってしまうんよ。最初できるんでよ動物やけんな。ほなけん、あの、吃音も一緒に恐怖心がまずあるんよな。ほなけん、練習するしかないんよ。泳ごうと思たら練習するんとおんなしように。喋ろうと思たら喋る練習をするんよ。ほなけん、練習方法は皆ちゃうと思う。自分にあ・あった練習方法をすべき。じ・じーっと何もせんと喋れるようには絶対ならんと思う。もうほれはな、と思わんの？僕はじよ、あくまでも。ほなけん、あの一、え一、何か、えーっと、あ、えーっと、あの、あ、R君も何を今までしてきたんか僕は知らんけど、そ・その中で何かあると思う、うん。ほたらいけると思う。

M:あの、中学・高校時代、一番こう感受性が強おて一番悩んだ時期や思うんやけど、学校の本読みとか、あの、クラスの役員なんか、え、してると思うんやけど、ほんな時はどうやった？

R:うーん、本読みとかはまあ、ま・く・来る前、順番来る前にすごい練習はいつもしてたんですけど。

M:練習したらいけた？

R:なんとか、ちょっと誤魔化しながらですけどまあ。小がつ、小・中ぐらいはあんまり気にはなかったんですけど、自分が吃りっていうのが分かってなかったんですよ。中学校の頃とかは全然。高校入ったぐらからちょっと、ちょっと気になりだしたんですけど、まあ、別にそこまで大学入ってからだいが今、気になってきてちょっと来た。

M:普通の、あれと反対やなあ。

Z:面白い、ほなけん、恐怖心なんよな。何でもないことを、あの、実際その場でずうっと

いけるのにやな。気にしだすことによって、よ・よけ吃ってしまうんよな、うん。

M:いやらしい先生がおって、ほの、なんていうん、顔と名前をお・覚えるまで自分が読んで「阿部君、岡田君」て言うて顔みてうんうんっていうて、言わすんな。順番に言わしていくんよな、ほたら、Mや言うたら、あいうえお順だから後ろのほうでえ？自分の順番が回ってくるっていうんでやっぱし、こう、立って、一呼吸置くんな。Mですっていうよな感じで。名前言う、ほんなことなかった？

Z:わいらはようあったわ。(笑)

M:ほんで、あの一、「起立、例、ちちち・ちゃ・着席。」が言えんわな。いつまでも座れんでないか。

T:じつと笑いよんな。何をさっさとせんのかいなど、ほら、思うわな。さっさとい・言えと思うわな。あいつはあかんのじゃ、と。

Z:皆ほんなんぼっかり、ま、皆ではないけど。俺やよう学校休んみよったのに、ほなけん。当たるなあ、順番くるで、本読みって。

M:わしあれが一番嫌やった、なにい、あれ、M杯争奪弁論大会。

Z:あ一、お前が言よったな、姉さんが、また、ごついけんな。

M:あれ、うちの長女がな、弁論家なんよ。

T:ほれ困る。

M:ほんで、あの一、えっと、え一っと、昔はあの、青年の主張全国コンクールだったでえ、1月15日の成人の日に全国コンクールだったでえ。1月15日の成人の日にあるんよな。中国代表とか四国代表とか、あの一、九州代表とかが、あの一、なんか東京のどっか武道館かどっかでするんだろ？あれの第一回で優勝してしもうてな。ほんで、トロフィーから賞状からようけもろてな。ほれを中学校で寄付したもんやから、ほれの争奪弁論大会って1年に1回あるんよ。M杯争奪弁論大会。ほの日の、さすがにズル休みして、鮎喰川の河原で歩き回って遊んびまわって家に帰って学校行かなんだもん。比較されるでえ！ほんで、ちゃうわあ、って弁論家はみな言うて。あれは辛かった、辛いっていうか、あの。

Z:ほれがな、コンプレックスがな、もう必ずある。ほれが、おおお・まあ、どこでも一緒じゃわ。あの・あのあの・あ、え一と、あ、え一と、一番上がよおて、ほの次がよおて、一番下が悪かったらやな。私ここの子だろか、とかな。ほな、ほんまに悩むんよ。男の子ってな。

M:ほんで、あの、詩吟始めて、姪の結婚式でな、おめでたいけん、あの、吟やったらろうと思て一生懸命練習しよんののに、姉が、あれで、「M、大丈夫？いける？」ほいたら、新郎新婦の名前があれ、あれで、え、えと、えと・タクロー君とタエちゃんっていう、両方タがつくで。「おめでとうございます。」って言うて、ほれでCDの伴奏がバーっと流れて言うのに、「名前も省略したらわ？」とか言うて。(笑)でもやっぱし、あの一、あれ、い、あれ、やらなかったら後々まで後悔するわな。

R:じゃあ、次。

M:あの一、学校でバンド、しよったバンド活動、「部長、部長。」言われて。

W:じゃ、ま、あれを、ま、部活紹介で、と・時も、ま、一応、原稿を、ま、読みもって終わる、んですけど。まあ、マイクもあるから。

M:言うたん？言わなあかんわな。

W:ですけど、最初はちょっと、逃げてましたね。で、えっと、まあ、あの、生徒会で、なんか、あの、お・応援、応援弁論？

M:うん、応援弁論。

W:あれも、まあ、言えたんすけど。まあ、僕一の場合はまあ、一応、あの、定時制でまあ、てて・定時制高校で、あの、1年の時に、あの、体験発表っていうのを、ま、したんですけど、で、まあ、僕もほの時が、こう、あの、さっきMさんとかが言うた、順番が回ってくるのを、あれが嫌だったんで、もう、1番最初にやります。

M:やりますって？

W:言うたんですけども、あれ、名前呼ばれてから、こう、壇上に行くんですけど、もう、頭真っ白で、すぐにその、名前と一緒に、もう、なんかこう、逆に先生とか生徒とかも、静まり返って、みんながこう、自分をこう、ゆっくりこう、言うたんすけど、まあ、話すというか、逆にこう、真剣に聞いてくれてたから、まあ、もう、どうもなく、こう、言えたから、聞く方も、方にもよるんかなあ、とか思ったり。まだまだ、お・お・店とか、コンビニとかでこう、店員さんに、こう、なんか、こう、あ、変なほう抑えて、ちょっとこう、言いにくかったり。

M:コンビニで話することある？

W:「からあげ君」とかをこう。

一同:(笑)

W:「レッド」とか、こう、色々あるんですよ。

R:Tさんとかは。

T:俺の場合はもう、なんて言うたら、一番い・いかん例やな。まあ言うたら。なるべく話せんと、なるべく話せんと、そういうところで、まあ、ずっとおったんやな。2つの会社行ったけど、す・言えんなあ。す・30、30、32、3年かなあ、おったんやけど、もうあんまり、だけん、話せんと、ここまで来たけん、ほの当時と今とほんなに今と変化がないように思うんやけど、やっぱり、今の方がやっぱり図々しいわな。言えんでも、こう、平気でおれるっていうんが、やっぱりほら、人間10歳や20歳とこの年のお・おっさんがやな、おんなじ状態やったらほれはまたおかしいしな。恥ずかしいや言うてな、こんなとこもけえへんしな。やっぱり、図々しいなってくるわな、やっぱり。あんまり変化せえへんでも。言えん状態であっても、やっぱり20歳、10代、20代と50代のおっさんがほんなんして、あるはずがない。やっぱり今まで、あかんなりに、色々なこと、あんまり経験はしとらんけど、ほれなりに生きてきたつもりやけんね。ほたらやっぱり、俺やは、こんなことは・言えるなんではないんやけど、俺やみたいな人間はなるべく、人前に出て、やっぱり話したほうがええな。自分があかんけん、俺が出来なかったけん、まあ、若い子にほやって言うんやけんとな。ほの時は、嫌で、しんだあて、居たあないわって、もう、こんなとこ嫌じゃって思うだろうけど、ほれが1年経ち、5年経ち、10年経ってきた時にやっぱり、ほれなりに効果があるとおお・思うんよな。このは・話す、話したり、人前でこう、こういう時に、ほの、ほういう経験よおけたら、ほれが普通になってきて、少々言えんかっても、まあ、人が見たら、あの子、ちょっとちやうなと思われても、ほれがだんだん普通になってきて、あんまり

変化せんようになる、なると思う。それはへ・変化せんのがな、ええんかいかんのかほれはししし・知らんでよ。ほなけんど、ほういう風にして、やっぱり話していたら、なんで、この頃はほんで、話せんように、せんように、なんか、ししし・・・社会自体がほういう風にしていきよんか知らんけんどな。ほなけんど、かか・方いっぽでは、は・話でけなんたら、あかんでいう話もあるし、ココ・コミュニ・ニ・コミュニケーションを重要・重要じゃちゅうて、ほの反対にねえ、ほういう話もあるんです。ほれから、このままやったら、なんも物言わんと、み・店入って、欲しいもん取って、パーっと置いたら、あとお金さえ持ったたら、なんも一言も話せんでも、いけますねえ。自分の場合はな、よお、スーパー行んよな。うん。スーパー行くんですよ。ほいて、店員さんがやな、っ・店員さんがやな、店員さんがほなけん、何気なしに、打ってくれるながあるわな。打ってくれるわな、「この品物は、こう、ナンボじゃって。」ほたら、な、いつもと定価が違う場合があるん、ほたら、ほんな時にやな、俺はな、堂々とよう言わんのよ。これ、まあ、俺の友達に聞いたら、下からせなあかんでよって。はっきりあかんでないでや言わんと、ちょっと、これちょっと、ね・値段が違うんやけんど、と。

M: う・打ち込むでいくところをジーっと見よって確認して値段が違うっていうんが分かるん？

T: いやいや、レシート見て、うん。俺の場合はな、ほ・ほ・ほの子に聞いたら、ほの子はジーっと打ちよる時に、はや、見よるっていう人もおるんです。ほの、女の人が打ちよるだろ？それをじっと見よる。ほれをね、ポーっとしとるんよな。ほの間、あの、まあ言うたら、信用しとるもんもあるでえな。いつも行きよったら、信用して、ほっち見んと、ここ見て、レシート見て初めて、ああ、これ料金ちやうでえなと思うてもな、よう行かんのよ。「これちやうでえ。」とは言うてしまうんよ。ほれ言うたらお前やはあかんわって言われるんよ。ほんな言い方しよったらあかんで。ほなけど言いたあいんやな。俺はほれを言いたあ、言いたあい人間じゃ、ほなけんにはに・人間が小さいんやな。

M: ほれはどないする？最終的には？

T: もう言わん。ほのまま行く。

M: あー。ほのまま自分が。

T: ほんで、はっきり言うて、し・しばらく行かな、ほなけん。

M: ほなけど、ほれだったら、ほんなレシートや見んほうがあえでえ。後で後悔残れへんの？

T: いや、やっぱりレシートは見るだろう？ほんでも。

M: 総額ぐらいか見いへんのよ。

Z: 俺やって見たことない。(笑)

M: ほの、払う金額は見るけんど、ティッシュ、あの、一つずつはチェックせん。

Z: あいつは生活みなかかっとうけん。量がちやうわだ。

T: 細かいって言われても俺はやっぱりするんよ。いや、俺やわな、工場やほんなとこでせられとんよ、ほやって。一個でもあったらお前の責任と思たらな、20年も30年もほやって。細かいことを。ほやけん、やっぱりな、ほの影響もあるんよ。

M: うん、検査やけんな。

T: ほたら、あんな所、スーパーのお姉ちゃんやはな、ほれが仕事でえ。商品、これナンボ、あれナンボで、年がら年中・見とらなあかんのよ。お客さん以上にほれをしし・知っと

かなあかんていう、ほれをほやって思とんよ、自分でな。こんなええ格好したらあかんけんどな。ほたらやっぱり、ほういう風にいつもの正価と違う場合がある。ほんなら、一番頭にはめとかないかんと思うて、ほたら、ほれをいい加減に打つ人がおる。

Z: 打つちよる所か。あ、えーと、あの、スキャンだろ？みな。

T: あのな、ほの打つちよるんが、打つちよる場合がほれを、ほれが定価のんになるんよ。

Z: いや、ちゃうちゃうちゃう、ほれを聞つきよるんちゃうんよ。手打ちでしよるか、スキャンでしよるかかっていうことを聞つきよるんよ。

T: 両方よ、ほなけん。打つちよる場合もあるんよ。スキャンもあるし、打つちよる場合もあるんよ。

Z: まあ、ほら、あの一、あの、特売の時はな。

T: ほたら、ほの、打つ場合で、間違うんな。ほの場合(スキャン)は絶対にいけるんだろけんどな。

M: いやあ、あれも信用できんぞ。ほなって、一回通したはずのに、またしよんぞ二回も。

T: いや、あの、信用で・できなんだらやっぱり自分で確認せなあかん。誰や確認してくれんでな。

M: 「あら？二回通したんちゃうん？」て思うときはあるな。うん。

T: ほんで、あんまり、ほれいっぺん違う、金額のおっきい場合は、もう、ほの場でしたけんどな。「これ、ちゃうでえ。」ってはっきり言うたけんど、まあ、ひひ・・・百円より下やけんな。どこのスーパーでもあるわ。

M: あっちこっち行くでえ、Tは。

T: ほの経験今までしたけんどな、もう、どこのスーパーでもほれはある。ほら、ほら、年がら年中ほんなんちゃうじよ？ほなけん、俺が言よんは、小さいかも分からん。ほなけど、新聞の何い、見よ・見よってもほんなけあるけんな。スーパーの店員がよお、間違うっていう女の人もおるけんな、実際に。少々はあるんだろけんどな。

Z: ほらあ、間違う人もおるわ。

T: ほたらな、俺は思うんよ。これは、し・こんなこと言いたあないけんど、知っとしてしよんかな、ほれをなんも、全然知らんとしよんか。

M: 知っとして出来るんじやったらほうするわ。(笑)

一同:(笑)

T: ほんでな、言友会におったんです、スーパーでなんか。ほの子に聞いたらな、ほれをな、言うてほしいってはっきり言われた。

Z: ほら、ほうじゃ。

T: ほうせなんだらほんなん、分からん。ほの子はな。ほの子はほやって言うた。ほうかいなど思たけんどな。

Z: ほらほうじゃ。ほなってじよ、い、一日百人も二百人もワアーと一所懸命打つちよ、打つちよんは、あ、えーと、こう、シューンシューンと行くやつで。ほんで、あの、こう、今日だけ、えーと、あの、価格が変わるっていう時だけ手打ちにしとるだろ？確か。わざわざ価格が変わるんやけん分かつとるはずよ、ほの子やってな。ほなけど、間違う訳じゃ。ほなけん、ほれは言うたげないかん。えーと、あ、言うたげることが親切なわ。

T: 俺もほう思うんよ。ほなけど、ほれが俺はでけんのよ。

M:親切せなあかん。

T:いや、俺もな、袋はめよって見るだろ？ほたら、「あ！これ、いつもとちやうでえ。」と
思うんよ。ほんで、よう言わんのよな。

Z:特売の時だろ？あくまでも特売の時だろ？

T:いや、ちやう。ほなけん、ほんな時あるんよ。

Z:て・定番はスキャンやけどな。

T:いや、スキャンとちやうんよ。ちょいちょい、う・打っちよるでえ。なんか知らんけど、
こやって。

Z:ほれは、あの、バーコード・バーコード入力してないけんやな。ほればっかりちやうも
んな。手で打っちよるもんな。ほれは言たげな。一日一善、ほれが親切なわ、な。言う
たげよ。

M:まあ、吃音は軽うなった？言友会来るようになって。

T:いや、ほなけん、俺やわな、話せんところと思た、一切話せんところと思て、ええ状態やけ
んな、今。会社へ行っきよらんけん。ほれでは生活でけんもんな。やっぱり、自分から
話せなあかんわな。いや、ほんま、話しかけていかなんだら。ほうせなんだら、話でけ
んようなるわな、しまいに分が。話かけていかなんだら。

M:あの、え、こんな、あれ、言葉は今使わんけど、「無言の業」ってあるじゃん。いつま
で黙ってしんぼうできるか。「無言の業」やったら何日ぐらい黙っとれるかな。

T:ほれは中々でけん。

M:でけんわな。

T:ほれ、俺、なに、よう言よるんは、テレビ見もって、ほの、言うもんな、ほなって、
黙ってテレビ見よったらあかん。ほれぐらい、あれ、言葉を発せなんだらあかんのよ。
ほら。いや、ほんま。

Z:はい、どうぞ。

R:ありがとうございます。次、Nさん、どういう時に気になるか。

N:えっとー、うーん、ま、中学校とか高校とか、うん、まあ、あの物凄いい気にしよったん
ですけど、なんか、あの、言友会来るようになってから、そんなに気にならんようになって、
ほんで、元々人とは・話をするのが好きなんで、こうなんか、喋らずにはおれん
っていうか、はい。なんか、ほなけん、なんか、それにあの、あんまり気にはするけど、
うん、まあ、そこまであ・深あに考える必要は無いかなーっていう感じですかね。まあ、
あの、話ができ、楽しかったらそんでえっかなって。

一同:(笑)

R:確かに。(笑)

N:うん。まああの、まあ、言いたいことが伝わったらもう、なんでもええんじゃないです
かね。はい。ていう感じにひ・開き直る。(笑)

T:昼飯やわ一緒にもう皆で？

N:はい。

T:食べるんですか？昼飯とか。

N:いや、あー、ねー、あ・あの仕事は2時までなんで、帰って食べます。はい。

T:ほんなんは無いんやな。

N:はい。

R:言友会に入ったら開き直れますか?(笑)

N:(笑) そうですねえ、あの、なんか、あ、なんか、あの、想像しとったよりも、なんか、こう、なんか、バァーみたいな感じで。(笑) はい。

R:ありがとうございました。

N:いえいえ。

R:Oさんは。

O:ほうですねえ、あの一、あの、普段から吃音を意識してるかっていうことなんですけど、もう、僕は小学校の低学年で自分が吃音っちゅうんを、こう、気が付いてから、もう常に頭の中から離れられないんですね。常に、こう、あったっていうか、こう、悩みの中心、頭の中で、もうつつ・常にあったっていうか、もう、ほら学生時代なんかはそうですね。で、まあ、今現在の吃音っていうんが、自分の性格のベースにあるっていうか、もう、自分自身を、こう、なんて言うかな、形作った基になっとるって言うてもええぐらいなものかなとは思ってますね。それは、ほの、あの一、あの一、なんて言うんか、大人になってこう、分かっていったっていうか。ほの、吃音やから、まあ、消極的な性格なったんか、消極的な性格やから吃音になったんかっていうか、こう、卵が先か、鶏が先かみたいな感じ、で、こう、どっちがどうなんだろうっていう風に思うんですけど。あの一、なんて言うかな、吃音の人でも色んな性格の人がいると思うんですよね。例えば、Zさんみたいに、僕から見たら吃音の性格の典型ではないと思うんですわ。なんでこの人、吃るんやろうなあ、というような性格の人で、僕なんか、その典型的な、ような性格でないかなみたいな感じで思っただけなんですけど、ほれは、まあ、な・何に、何でほういう風に違いが出て来るかっていうんは、やっぱりほの人の性格っていうか、ほの人の、うーん、性格をこう、形作るもんっていうんは吃音だけではないと。やっぱりほれ以外に、生活していく上で、こう、なんか、自分はこれが得意で、これだったら負けんなあ。例えば、Zさんだったら、こう、ちっさい時に鉄棒が上手やったって聞いたんですけど、ほういう、こう、なんか自信があるもんがあったら、ほれでこう、あの一、やはり、自分はこれがあるから、吃りやけどこれがあるから、まあ、いけるんや、みたいなんが。ほの辺りが僕は無かったんですよね。うん。ほなけん、吃音もあつたし、まあ、昔からほの、運動もほなに出来なかつたし、えー、字も下手やったし、歌も下手やったし、まあ、で、あの、小学校の低学年の時なんかやったらね、こう、体が弱くて、よく、こう、学校を休んでたんですよね。ほういう感じでこう、自分にこう、対して自信があるものが何も無い。何も無いっていうんがやっぱり、何か1つでもあれば、また自分の性格っていうんも変わったと思うんですよ。ほの辺りが無いっていうんが、こう、今、今まで来とんかな、みたいな。なけど、まあ、自分もこう、言友会っていうんを知って、「あ、自分、悩んどつたん自分だけでないんや。」っていうんはすごくこう勇気付けられたっていうか、ほんで、まあ、ここでこう、あの一、なんて言うんですか、ほなに、あの一、近況報告みたいなんで、こう、人前で話す練習っていうんは、普段の生活とか、仕事上でもやっぱり相当役立ったっていうか、人前で話すっていうんに対して、こう、あの、場慣れさせてもろたっていう、まあ、非常に良かったと思います。ただ、ほの一、なるべく自分自身としたら、ほの一、若い時に比べて吃音は改善し・してきたかなっ

ていう風に思ってた時があったんですよ。ただ、ほの、あの一、ま、何年か前に仕事一上でこう、管理職になって、まあ、なんて言うのかな、人を引っ張っていかないかんような立場になってから、あ、吃音で自分、何も自信無いのにほんなんが上に立ってええんかみたいなの、ほれーって、新たなこう、あ・・悩みっていうか、ほういう不安ていうんが出てきて、こんな自分が上に立ってええんやろかみたいなの。ほういう不安ていうか、ほういう精神的な悩みっていうんが出てきて、で、今に至っとおっていうか。ほれで、こう、あの一、吃音がこう、改善してきたのにほういう悩みが出来て、吃音そのものはほなに変わってないのに相対的にこう、喋るのが苦手になる・なっている、っていうか、こう、今の立場やったらもっとスムーズに喋れない・いかんやろみたいなの。ほういう、なんていうのかな、こう、ほういう、ま、自分の中でイメージを作っしてもとうっていうか、ほれが新たな悩みっていうかな、ま、ほういう風なこう、何故か自分で自分を、こう、苦しめるような所があるなあっていう風に。わ・分かっとなやけどほういう風に思い込んでしもおっていうか、ほういう所がありますね、はい。ほんなもんですけど。はい。

R:部活とかでなんか、段々上の方になってくると、やっぱそういうやっぱ下の人とかに指示とかもなんか、せないかんくて、やっぱりちょっと悩んだり。

O:下っ端の時やったら全然悩・悩み、ほんなこと考えてもなかったもんが、こう一、上、今・今までこう、小さい時からこう、あまりこう、リーダーシップっちゅうか、ほういうリーダーになったことっていうんがあんまり無いんですよ。だから、ほういう、なけん、若い時、子ども時代、学生時代に、なんかほの一、あの一、ほういうちょっと人の頭に立って、人を引っ張っていくようなことを経験が出来とったら、だいぶその辺りはこう、精神・今の精神的な不安ってだいぶ違ってたんでないかなっていう風には思ってるんですけどね。

Z:まあ、仕方がないわな。上がっていく、上がらされるわな。

O:ほなけん、今やったらもう、でけるだけ、「こんな上司もおってもええわ。」みたいな感じで。世の中広いんやけん、ほら、まあ、ダメ上司も中にはようけおるわ、みたいな。こんなんがおってもええわ、みたいな感じで、自分自身に納得させようとしとる所があるんよな。

Z:ほれは、ええんちゃうん？ほのほうか。

O:ほやってやって、出来るだけこう、気休めかも分からんけどね。ほやって出来るだけこう、気持ちを楽にさせよう、みたいな、ほういう所があるわね。

Z:あんなんも慣れやもんな。うん。

R:ありがとうございます。まあ、最後に一言なんですけど、ま、さい・この一ヶ月、あのみ・前に言友会に参加して、ま、一ヶ月経って、ま、よく、最近よく食べるようになったんですよ。(笑)

M・N・Z:(笑)

R:ていうのも、あの一、なんか、この、あんまこう、誤魔化さんくなってきたっていうか、

M:うんうん。

Z:うんうん、はいはいはい。あー。

R:こう、今までこう、あんまり吃っ・りかけたら、もうちょっと言わなか・かったこ・言

葉ちょっとずつ言うようになってきて、ま、吃るようになってはき・たんです。で、まあ、ま、伝わらん、こ・こう、意味が伝わらなくて意味ではちょっと悪いかもしれないんですけど、まあ、気持ち的に、まあ、吃りに対する考えかか・方が、まあ、ちょっと変わってきて、まあ、よかったなど、今、思っています。

Z:やろうって気になったんやな。ほれはええ。

R:そんな感じです。(笑)

M:あの一、は・会話の途中で、話してる途中で、こう、・・言い換えるでえ。あの一、もう固有名詞は言い・換えれんけどな。T君とか、W君、ほなけど、会話の途中で言い換えする、その、あの一、なんちゅうん、言葉っていうか、ほの一、語呂っちゅうか、すぐにパッパッと頭に浮かんでくるんは、回転、頭ええ証拠やな。ほなけん、俺やでも、もうどうしようもなかって、卵買いに行っ、小学校の時にな。卵がなんぼしても言えんでな、ほんで、鶏卵下さいって言うた、あの時。なーんか、これ、小学生にし・したら、ませた子やなど思われたりしとるか分からんけど、そういう、そういった意味で、ほんまの気持ちが伝わらなくていうか、言い換えることによって。ほれだったら、少々のこと言い換えても、自分の気持ちにえー、え、え、えっと・素直に、こう、話は、どうなんかなあと思ったりするんやけどなあ。

O:まあ、ほんでも、固有名詞は別にして、い・言い換えて、言え・言えたら、ほんで、相手に伝わたらええんでないかいなと思うけどねえ。僕は、まあ、小さい時、言い換えていうんはこう、罪悪感みたいなのがたしかにあったけど。今は、とにかく相手に伝わりゃええかみたい。

M:ほんで、あの、あ、何いで、母音が言いにくいけん、「ありがとう。」「ありがとうございました。」っていうんでも、「すみません。」っていう、あれ、あ、あ、え、えーっと、えーと、食堂に入ってから注文するんでも、「すすすす・すみませーん。」っていうて、「ちょっと、すみませーん。」っていう、なんで謝らないかんのな、ほんな、「ありがとう。」っていうんでも、「どうも。」で済ます人もおるし、「どうも。」、ほの、母音が言い・言いづらい人がちょっと、こう、なんでも大体「おはようございます。」でも、なんでも、えーっと、母音から始まる所を。

O:母音で始まる言葉、多いもんねえ。特に挨拶言葉が。

M:ほなけん、もう、最初の方、「お」やと思たら、「はようございます。」「はようございます！」て、こんな大げな声で言うたら通じるなあと思ったり。ほんでもう、はな・話しても「え？」って聞き返す、されるのが一番苦手やから、一発目に決めたらと思て、大きい声で、もう、ほら、近所の何やでも、あの一、一斉清掃あったやろ？こないだの日曜日、町内の、近所の人で、こう、出るでえ。ほしたら、皆、こう、会話無いんよな。コミュニケーション無く、黙々と、こう、草刈ったり、家の前のちょっと、あれ、掃除したりな。ほんな時に「はようございます！」って、こう、入っていつてから、で、「久しぶりやな、誰々さん。」とか言うて、ほの、ほしたら、皆ポツポツと、こう、言うてくれる、くれて。やっぱりほの、何て言うか、こう、挨拶は基本やなあ、と思たりして、うん。

Z:分かるわ、ほら。

M:もう、ほなけん、ほの、近所付き合いもこの頃無いでえな。

Z:無い無い。

M:もう、ほれこそ、隣は何をする人とか、うん。

R:一応、これで。

M:まとめて。

R:え?まとめる?(笑) まとめる…。ま、気負わずに。(笑) 一応、気負わずに喋りましょうという。皆さんの意見が。

M:ほなけん、この言友会が存在する意義っていうか、この一ヶ月に一回の、えっと、例会でも、うーん、どんなんかなあと思ったり、す・することもあるんやけど、やっぱし、新しい会員さんが、あ、こう、はは・入っ・な、来てくれるから、時々。ほなけん、やっぱ、必要なんかなあと思たり。去年一年間に、えっと、7名の人 came もんね。ほんで、残ってる人は、Nさんと、あの一、広島の、あの一、なんて言うたん、あの人とか、Fさん。うん、ほんで、一回きりやけど、あの一、えっと、ホテルのえっと、コックさんで、うん、行きたいけど、休み取れる日が一緒にならんから言うて来れん人もおるしね。

6月16日 3分間スピーチ(参加者:M,N,R,T,W,Z)

M:はい、ほな、お願いしますー。

W:えっとー、えーっと、

M:お題は？

W:お題？「家族について」

M:家族？はい。計ってなかった。

W:えーとー、まず、私の、W家の家族なんですけど、えー、まず、えー、えーと、父70歳、えー、元大工です。結構、こう、器用なんで、まあ、色んな物作りとか、をしています。あと、ま、倉庫の中の台とか棚とかも、ほとんど親父が作ってます。え、ほれと、えー、母65歳元、縫製工の責任者です。でまあ、縫物が得意なんで、あ、色んな物を縫ってます。で、今年の、なんか、10万ぐらいする、なんか、その、ミシンを買って、一生懸命、あの、縫ってます。で、あ、えーと、姉38歳、某大手会社の所で働いてます。えー、ま、姉は、えーっと、非常に口が達者で、

M・N:(笑)

W:たまーに、あの、ど・毒舌というか、所もあるんですが、こう、結構、ま、服買ってくれたり、ジュース買ってくれたり、優しい所も、あります。ただまあ、彼氏がおるかどうかわからんのすけど、たまーに、こう、夜とか、急に晩出ていったり、ポツポツ、ちよっと、

M・R:(笑)

Z:夜遊びしよんな。

W:で、後、まあ、家族というか、と、雀が6羽ほど住みついています。なんか、一回、家の前の、塀の上でなんか、こう、虫か何かを探してて、えー、一回あの、お米を、

M:10秒前。

Z:撒いた？

W:撒いたら、6時前ぐらいからチュンチュンチュンチュン鳴いて、なから、あの、普通の雀よりかこうだいたい、太って、太ってるんすけど。(笑) 以上、で、雀を含めて、ま、10名程です。

Z:すごい。よおけおるでえ。(笑)

M:はい、ありがとう。3分30秒、3分30秒。ど・どうしようか、30秒前に言ようか。はは・話せ、だいたい、ほなけん、10秒前ぐらいに言うて、

Z:3分間スピーチっちゅうんは、どういう意味があって3分間スピーチっちゅうんえ？

M:うん、ほの、時間内で内容をまとめる、自分の考えを、まとめる練習。まあ、5分にしてもええやけど。5分だったら、長いけん。ほなけん、あの一、ブロック大会とか、え、ワークショップで、え・えと、マイメッセージってあるじゃないですか、各自の代表者が寄ってな。あの一、舞台の上でやるんに、大体、5分から7分よ。3分では足らんや言う人が多いけん。7分だったら結構、あああ・あの、長いな、話すの。ほな、次の人指名してください。

W:あ、Zさん。

Z:えーっと、あの、あ、「ペット」や言うて、題です。えーっと、ペットについて言うたら、

えーっと、あ、えーと、あ、僕は、あ、えーと、八百屋をし・て、えーっと、あの、生まれたんですけど、えーと、あの、八百屋をしとった時に、あ、犬がペットでいてました。えー、あ、えーと、あ、名犬ハチ公。

M:ほー。

Z:名前はごっついええんです、賢かったんです。ほんで、あの一、す、あの一、す・その時は、ほの、やっぱり、犬って、ペットとか言うんは、まあ、えーっと、あ、昔は大家族です、でした、大体。あの、5、6人かな、大体いてたか、5、6人いてましたから。ほの、ペットっていう存在感ちゅうんは、えーっと、あの、家族の一部っていうんが、大体そういうペットの存在感でした。あの、猫を飼ったり、犬を飼ったり、ていうことですかね。ほて、今現在になってみたら、ペットがパートナーにか・変わってきましたね。ほの一、少子化問題、高齢化・化問題とかで、結婚する人しない人、ほら、人間が、あ、えーと、あ、一人一人に、あ、えーと、あの、あ、あ、あの、個性的になったっていう風に、あ、えーと、いいように言いますけど、一人になるっちゅうことは寂しいこと、必ずある。悪いこともあるけど、寂しい。ほの時にペットっていうんがパートナーとして、あ、あの、えーと、すごく重要になってくると思います。ほたら、今の時代は、ほの、ほういう、あの一、まあ、あの一、あの、あの、パートナーっていうことで、ペット、ほの一、なんちゅうんあれ、あの、抱いたらキュッキュキュッキュ言うとか、そういう、えー、えーっと、あ、癒しの部分が、えーっと、あ、人間には欲しいっちゅうんがあって、ほれがそういう、あの、あ、産業が流行ってくると思います。そそ・そういう風になってくると思います。ほんで、えーっと、あの、僕は今は、あの一、あの、あの、ペットは、あ、えと、何も飼ってないし、えーっと、あの、それから、あの、これからも飼うつもりも無いし。まあ、えーっと、まあ、どしてかって言うたら、ま、えー、えーっと、とりあえず奥さん、ええ奥さんがおるからね。

M:(笑)

Z:ペットはいらないと。ペットと一緒にっちゅう意味でないんですよ。

N:(笑)

Z:ペット以上のもんですからね。ほなけん、今の所は飼う気はありません。ほれだけです。

M:早いなあ！

Z:2分か？

M:2分25秒。

Z:ほういうことです。意見があったら言うてください。あー、ほうか。ほな、M君。

M:えー？順番なるでえ、ほな。

Z:うん、ほら、ええでえ。

M:ほな、ちょっと計って。

Z:はい、いくよー。

M:はい、えーっと、お題は、

Z:1、2、はい。

M:「整理」、「整理」って、あの、整理整頓の「整理」。「整理と食事と歩くこと」やいう、

Z・R:(笑)

M:これ、さあ、何から話していいもんかと思ひながらこれ、何いしたんですけど、あの一、

せ・まあ、一番目のこの、整理整頓の整理ですね、私の家族は今、娘と妻と2人なんですけど、この2人が整理好きで、もう家の中の模様替えなんか再々して、こないだもリビングを、あの一、いらいまわって、僕の大事なもん引き出しに入れてあるんですけど、それいざ今度出してみたらで、無いし、全然違う所に置いて、「あれ、どこやったん？」や言うて、もう、あんまりにも、こう、いじられるんがちょっと嫌になってます。それで、こないだは、あの一、衣装替えて、え一、もう、えっと、夏物が要るのに、ほれがどこへいったか、えっと、見当たらんで、そういうので今、えっと、あの一、悩んでます。それでまあ、あの一、食事はまあ普通にしてるんですけど、歩くこと、歩くことと、まあ、ウォーキングですけど、ウォーキングを僕は週末に大体、え、土曜日日曜日、1万5千歩ぐらい、2日で3万歩ぐらい歩くのを、目標に頑張ってます。

Z:すごいでえ。

M:今日も朝、ちょっと歩いてきたんですけど、それで、えっと、こないだテレビで良い汗と悪い汗の見分け方って言うんやってまして、ジョギングとかウォーキングで汗を、えっと、えっと、かいた時に10円玉を、こう、汗にへばりつけたら、あの一、それがターっと、下へ、え、え、じわっ一と、え一と、えっと、下がってくるんですね。ほんで、悪い汗の場合は、ほら、部屋ん中で汗かいて、まあ、ほんな、塩分も水分も全部出るもんだから、10円玉がおんなし所に一カ所に塩分と引っ付いた物がおるんですって。ほれで、あ、これ、いっぺん、じゃあ、汗かいても拭かんと置いといて、実験してみないかなんかと思てみたり、えっと、し・しよるんですけど。まあ、ほんで、今、やってるスポーツを、あの一、歩くんですけど、入浴もシャワーをおお・終わった後とか、30秒前に言うて。

Z:うん。

M:あの一、腹筋を50回やって、その後で、腕立て伏せを10回か15回を、え、えっと、2セットぐらいやってるんですけど、腹筋50回日に日にやって、

Z:30秒前で一す。

M:腹筋は、えっと、えっと、えっと、割れないんですね。そんなけお腹出とおかなあと思ってる、あれ、問題無いと思うんですけど、どなたか知つとる人おらん？あの一、腹筋で、あの一、こういうシットアップベンチの斜めになってるやつで、足こうかけて、下から上に起こすやつなんですけど、

Z:ほんなんしよん？

M:それを、捻ったりして、

Z:へえ一。

M:50回ぐらいやってるんですけど、もう、全然、まあ、えっと、体重はちょっと減ったと思いますが、そういう風な感じで頑張ってます。以上です。

Z:ふーん。

M:ほなけん、あの一、汗、良い汗と悪い汗の見分け方、良い汗はスポーツ、柔軟か、ジョギングなんかやった後の、汗は、水分は出るけど、塩分は全部出ないんですって。塩分はちょっと出て、後の分は、残ってるか、返ってるか、分からんのやけど、水分がほとんどやから、10円玉へばりつけたったら、タタタタタタッと下がってくる。普通の、ほの一、悪い汗、お年寄りなんか、かく汗やけど、へばりついたまんまでおるんですって。

10 円玉を、首に、こう、かけたら。それが、えっと、悪い汗って言っていました。

Z:ふーん。ふーん、うん。

M:オーバーしとるなあ、5 秒。

Z:1 万 5 千てごついなあ。

M:うん？

Z:うん。ほんだけ歩いたらごついわ、ほれ。1 日 1 万 5 千だろ？ほなって。

M:1 時間半くらいで歩けるんよ。

Z:アスファルトやけんな、ほんで。

M:アスファルトやな。

Z:うん、ふーん。

M:次じゃあ、N さん。

N:え、えっ？(笑) はい。えー。

M:お題は何ですか？

N:お題が、「四国の道歩き」

一同:(笑)

N:なんですけど、なんか、え、なんか、全然纏まってなくて。(笑)

Z:ほら、分からんわな。

N:どうしましょう。(笑)

Z:分からんわ、ほら。なんや分からんわな。

N:えっと、これは、八十八カ所巡りっていう事で、いいんですかねえ？えっと、うーん、まあ、あの、八十八カ所巡りっていうても、なんか、なんか、あの、個人的にはそんなに、なんか、パツとしないんですけど、なんか、うーん、まあ、記憶に残とるっていうたら、まあ、なんかあの、爺ちゃんが、あの、八十八カ所巡り、あの、「せないかんほど、悪い事してないもーん。」とか。(笑) 言よったぐらいしか、お・覚えてないんですけど、なんか、数年前に、ああ・あの、高知に旅行に行った時に、あ・あれ、なんか、あれ、ずーっと、海岸線行っきよったんですけど、なんか、あれ、なんか、あれ、パンダの着ぐるみ着て、八十八カ所巡りしよった人がおって。で、で、なんか、次の日の新聞に、なんか、その人乗とったんですけど。あの、なんか、どういう目的で、その、パンダの着ぐるみ被って歩っきよんか、すごい、・なんか、謎なんですけど。(笑)

M・Z:(笑)

Z:謎やなあ。

N:はい。で、なんか、うーん、こう、八十八カ所巡りする程、こう、なんか、うーん、まあ、なんか、ほんま、なんか、個人的には信仰心があ・ある訳でもないし、こう、なんか、

Z:あの、しよる人どう思う？

N:あの、なんか、あの一、ちゃんとしたあ・あの、目的を持って、あの、ちゃんとゴールしたら、すごい達成感があるんだろうなあって思うんですけど、うーん。なんて言うたらええんですかね。(笑) ほんまに、纏まってないんですけど、えっと。うーん。なんか、あの、外国でも、あれ、なんか、あれ、八十八カ所巡りみたいになんかの、

Z:あるあるある。

N:ああ・あれ、なんか、ヨーロッパで、なんか巡礼の道ってあるじゃないですか。なんか、
M:10 秒前。

N:えー、10 秒前？えーっと、えー。(笑) え、なんか。なんか、こう、道のり何キロも、
あ・あるじゃないですか？で、なんか、あの、それを、なんか、ようあの、挫折もせん
と出来るっていうんが、ほんまに凄いなあって。思います。すいません、なんか、全然
纏まってなかったんですけど。(笑) はい。はい。

M:3 分 25 秒。

N:(笑) はい。

Z:はい。

M:えーっと、S 会長から、え、えっと、「申し訳ありません。今日行けませーん。」て言う
て、なんか、あ、あれ、仕事のほうが、はよ終わらんかって、

Z:うん。

M:もう、日曜日が仕事やけん。はい、ほな次の人。

Z:はい。

M:どっちか。

N:(笑) じゃあ、おおお・R さん。

R:はい。えっと、テーマは、「老後にしたいこと」

M:うん、なんて？

R:「老後にしたいこと」

M:あ、老後。(笑)

R:たぶん、僕が、たぶん、一番引いちゃいけない。(笑) では、始めます。言友会で、こ
んなこと考えると思ってなかったんですけど。(笑) まあ、考えてみて、とりあえず思
いついたのが、旅行をしたいなど、まあ、思いました。まあ、今まあ、先月話たんです
けど、旅行する部活入ってて、まあもう、えー、活動はしてないんですけど、まあ、そ
れで、まあ、日本そこそこ周ってきて、せっかくだからもう、人生の内に日本全国一通
り周ってみたいな、と思っで、老後に旅行したいなと思っでます。で、まあ、老後は
僕、まあ、今まで旅行してきた感・感じで、都会はあんまり好きじゃないので、人混み
はあんまり得意じゃないので、なんか、こう、島とかに、こう、移住してみたいなあと
思っでます。島でスローライフじゃないですけど、ま・まったり過ごしたいです。で、
まあ、島に移住して、まあ、なな・70 過ぎぐらいでもう、僕は多分死ぬと思うんで。(笑)

N:(笑)

Z:えー。なんで？70 で死ぬの。

R:あんまり、長生き、まあ、今、若いんでまだ分かんないんですけど、あんま長生きした
い願望は今無いので、まあ、順当にいけば、70 ぐらいで多分死ぬのかなと。で、僕は妻
よりささ・先に死にたいです。(笑) のこ・残されて僕は生きていける気がしないので、
まあ、妻よりさ・先に死ねたら、まあ、僕は幸せです。

Z:「よかった。」って言うんやな。

R:(笑)

Z:亭主関白やな。

R:で、まあ、あと、老後、最近、こう、M さんの歩くみたいな話を聞いてちょっと思った

のが、最近、こう、ま、夕方とかランニングしてるんですけど、たまにこう、夫婦とかで歩いたり、ら・ランニングしたりしてる人が

Z:ほうじゃろう。うん。

R:「羨ましいなあ。」とか思いながらいつも見てる。(笑)

一同:(笑)

R:なんで僕、「一人でこんな走ってるんだろう?」とか。ま、そういうのを見てて、すごい将来、老後じゃないかもしれないんですけど、将来、こう、なんか、こう、一緒にこう、散歩とかランニングとか、してくれ、るような人と結婚したいなという夢が。家で、こう、ダラダラして、ブクブク、妻が太っていくのはちょっとあれかなっていう感じで、ちょっとまあ、散歩したいなあと。まあ、ゆ・夢ですね。これ。夢であります。

Z:ほら、ええわ。

R:いい・今どれぐらいで?

M:あ、2分40秒。

R:2分。あ、あー、まあ、そんな感じで、まあ、まだ若いんで分かんないんですけど、まあ、綺麗に言えば、両親みたいな夫婦に、

Z:あー。

R:なればいいなど、

Z:ほら、ええわ。

R:思います。以上です。

Z:はい。

R:はい。

Z:お父さんお母さんになって。

M:2分56秒でした。一応な、時間内で。

R:Tさん。

M:順番回ってくる、もうドキドキないだろお?

T:はい。れん・れんあ・「恋愛について」

M:恋愛?

T:恋愛。俺、今まで、言友会でこんなことや話たことはいっぺんもありません。けど、今日は話したいと思います。あの一、まあ、自分が恋愛というと言えるんは、高校卒業して、ほんで、会社い行っよって、ほ・ほの頃の話じゃけん。綺麗な子やなーって、あー、スタイルもええ子やなーって、思たんです。ほんで、まあ、何日か、何か月か、何年か知らんけど、なって、ほの子が会社の何におって、りよりりよ・寮におって、わざわざ、会社の寮に俺、電話かけたん。

M:電話したん!?

T:ほの子が、ほなけん、ほんまはしたあないんよな。ごっついひどいけん。吃りもひどいけん。なんでや知らんけど、

Z:うん、ええでえ、ほれ。

T:勇気出たんか知らんけど、

M:(笑)

T:自分で、電話かけて、まあ、したんですけど。まあ、ほの時は、ちょうど、会社で、し

しし・しー・仕事をしていますや言うてね、ほんでほの時はあかなんで、またかけたんやけど、ちょっと話たんかな、ほんで、ほの子にはちょうど、今・つ・付き合いようけん、付き合・おうてる人がおるけん、なんやかんやで、言われて、結局、なんも、ほんで、なんも、後も何も進展もせんと、ほの子にもう会うて話もせんと、ずっと来たんですけどねえ。ま・まあ、言うたらな、ほないようけ無いんよな、俺。ほなけん、ほの子のことを、やっぱ、ずーっと思とお、ほなけん、馬鹿なんやな、俺は。

M:(笑)

T:ほの子の事をずーっと思とお。

Z:ええこっちゃ。

T:ほんで、まあ、ほの話はほんでええんやけど、今度、ほなけん、ちょうど、ほなけん、ほなけん、ほの、若い頃と今の中間ぐらいの時ありまして、ほの人場合は、ほなけん、ひひひ・人妻だって、人妻の人な。人妻の人と、あることでいつも同じことをしていきよったんです。ほんで、まあ、いき・あ、1週間かな、あー、1ヶ月に1回か2回かな、ほ・ほの時が来たら、ほの人やけん、10人より下やったけど、ほの人と会って、音楽関係をしてたんですけど、まあ、ずーっと、まあ、同じことしよって。ほんでな、ある日、いしょ・一緒に、皆でちょっと食べに行こうや言うてね、行ったんですけど、ほの人と、まあ、話しよって、あー、この人、あー、え一人やなあと思ひまして、け・結局ほの人の場合やったら、い・いま・今までにも、ちょっとは話しとんよな。会うてるけん。同じ、こういうグループがあったら、このグループで話しよるけん。ほたら、ほの人は、もう、声かけたらあかん人でえ。今は、思ったらじよ。人の奥さんに、よう、ほんな声かけたなあ、と思たんやけど、ほんで、うん、ほ・ほれも、俺、勇気絞って電話かけたけんね。ほの人に。平気で、ほれで、図々しいなるなあとか、自分勝手やなあと、今、よく思います。

Z:ええでえ。

T:で、現代に、ほの話も今、現代に、至っては、あの、まあ、ねえ、色んな、あの一、ほなけん、恋愛があると思ひま、まあ、ほれはええなど、一ヶ月にいつぺんぐらい会うて、し・食事したりねえ、ちょっと、ほんなんでも、ええなあ。思ってます。

Z:うん、うん。ええこっちゃ。

T:今、そういう人を募集中です。以上です。

M:はい。

Z:探さなあかんぞ、探さな。

M:4分20秒です。

T:ふん? _

M:4分20秒、大サービス。

R・M:(笑)

Z:待ったってこんぞ、待ったって。

T:話すなには遅いな、これ、だいぶ。

M 遅いんちゃう。えーっと、ほれとな、最後のがな、余分だった。いける、いける。

T:すんません。こういうこと話たん初めて。ほんまにな。やっぱりな、自分の中に、このこと話たあないっていう、これがあるんよな。やっぱり、今までこんなことはな・はな・

話したことなかったんよ、うん。自分の中で、このことは言わんとこと。

M:ほんで、相手の方からモーション、あってから、お見合いの時でも断ったんもあったでえ。ほんなん、ほんな人と付き合わんや言うて、勿体無いことしたなあ、会うたらええのに。

T:いやなあ、ほなけん、俺やの場合はな、もう、1人の子に、もう、決めたら、病気なんよな、いや、何い、今は何とちゃうんでよ、ストーカーじゃいうたら、あんなことはせえへんじょ？ほの子の家の傍に、じーっとおったりな。ほの子に電話かけてかけてするん、そんなことはせえへん。ほ・ほれになったら、俺、病気やけんな、ほれは。もう、ほなになったら、もう愛情じゃない。

Z:R君の老後はよかったな。わし、わしやて、若い時やったらな、

M:誰が書いたか、だいたい、

Z:50、もう50の人が、な、おったらな、俺、思いよったんよ若い時、「お前や、はよう死なんけん俺や税金払うとう。」

R:(笑)

Z:ほら、絶対思いよるはずやわ。もう、若い時。

M:藍住町にぽっくり地蔵ってあるんよな。

R:え？ぽっくり地蔵？

M:うん、ぽっくり地蔵って。ほなけん、もう、あの、歩いとって、ぽっくり逝けたらええなっちゅうて、しよってな。

R:へー。

M:ほういうん、知らん？

R:し・聞いたことないです。

Z:年寄りと一緒にしたらあかん。

一同:(笑)

T:ほんなんは、今全然ないだろ？

R:初めて聞きました。

Z:ほんなん、あつた・あつたって、見たってなんや思えへんわな。

R:(笑)

Z:頭残っとれへんわ。(笑) お前なんぼおな？後、何年？

M:まだまだ。

Z:嘘お、2年ぐらいだろ？

M:まだ、3年、4年ある。ほんでも、まだ、あれでも、・・・出会いとかほんなんに興味あるでえ。ほしたら、今山歩きしよる人でな、相手のフルネームも、えっと、知らんし、電話とか、全然し・知らんのよ。向こう、Mさんて知っとんよ。こっちが余分は、「は一子」とか「か一子」とか言よんよ。2人連れで歩つきょんじゃな。ほんで、ああ・後になり、先になり、な。車があったら、「あ！はよ登っとんな。」とか、後から追いかけて行くんよ。そしたら、かんぼの宿でコーヒー飲んみよれへんかなと思て、ロビー開けて覗いたり、

Z:あー、ほこまで、歩くんじゃ。車で、こう。

M:で、ほの人たちの車が無かったら、今日は歩き止めやなど、思たら、モラエスの公園、

上へ行って、そこでスス・ストレッチして、

Z:あー。

M:降りてくるんやけどな。ほの人やが先行して行きよるな、と思たら、行って、あの、かんぽの宿で自動ドアがピッて、開くじゃん？ほんで、え、えっと、ロビーから、「いかなかな？」と、こう、

Z:(笑) ストーカーや。

一同:(笑)

M:あの、生垣みたいな、こう、植木があるで。向こう2人が、ほのところでおるんよ。帽子被って。で、おるなあ、と。植木の間で、こやーって覗いたら、「あ！おった！」や言うて向こうから声がして。「おった。」や言うて、どうぶ、物みたいに言われんだ。かんまんで、一緒してって言うんで、うん。どうぞっちゅうたら、缶ジュース買うてきて、そこへ座って、こう、こう、話して、帰りは一緒に降りてくる。ほれが、元気もらえる秘訣。

Z:コーヒー飲まんの？

M:こ・コーヒーやこの頃熱いから、もうジュースよ。缶ジュースよ。

Z:あ、中入って？

M:ほんで、え、えっと、3人分ぐらい座れるんよ。

Z:かんまんの？

M:かんまんの。ほなけん、山歩きであそこ利用する人よおけおる。そういう、あの、なんの、楽しみもあるんよ。山だけで出来ることで、歩つきよって。ほんで、色々こう、あの一、相談も受けるでえ？ほしたら、子どもさんがJテクト行きよる。光洋精工。ほんで、辞めたい辞めたいって言うて、ほなけど、正社員で入っとおのにな、絶対ほれはないと、ほういう話までするようになってきたな。

T:あの一、半分、ほとんどの人がな、交代の勤務なんよ。ほたらな、

M:夜がしんどいんか。

T:うん。あの一、人が、ゆうが・夕方、家へいんによるのに、ほれからな、会社へ行くんがな、辛いんよ、はっきり言うて、ほんま。げつ・月曜日が一番辛い。「あー、今日からまた一週間やなあ。」てな。ほれでよう、よう、しよった。今日ちょっとしんだいけん、うん。月曜日が一番しんだい。今日からまた一週間晩やなあと思うて。交替勤務やわ、あんまり、し・していかんほうがええ。お金は少々ええけんどねえ。健康じゃわな。健康第一と。

Z:ほれは、ほなけん、お金取るかやな、お金取るかやろ？

T:ほなけん、やっぱり、健康のほうが。

Z:労働条件が悪いんやけんお金がようけくれるんやけんな。簡単なけんお金が安いんじゃ。両方求めたらいかん。

M:ほれと、来月、もうええ？ここで。来月、例会終了後にビアガーデンがあるんやけど、いつも、毎年行きよるけど、今年は料金アップで。

7月21日 3分間スピーチ(参加者：D,K,L,M,N,R,T,Z)

M:2、4。2、4、6人やから、あの一、3分間スピーチか、5分間スピーチ、30分ぐらいやって、後、話し合いしようか？あの一、時間まで、なんか、テーマ決めて、ほんで、ほの、話し合いの司会を誰か、私やってみますっていう人、おったら、ほなZやって。ほんで、ほな、今から3分間スピーチの議題、あの一、これ、あの一、なんか、こないだの続きにあるんやけど、こないだ、なんか、長ーい題名が、やりにくーい題名もあったけど、むむ・もう、だいたい、え、2文字か、家族とか、旅行とか、選挙とか、赤ちゃんとか、そういう風な、簡単なテーマで、ほんで、あの一、あの一また、こう、くじ引き混ぜて、議題が、このテーマが、え、えっと、自分に当たらんように、自分が書いたやつか自分に当たらんようにしませんか。今から3分間スピーチするんで、ほれのテーマを、を、書いてくる。

L:自分に当たらんように？

M:うん、あの一、この、今配った紙に、え、え・えっと、書いてください。あの一、ほんで、ほれを回収して、こう、

L:あ一、自分のに書いて、

M:そう、ほれで、うん。するように。

(テーマを紙に記入する時間が5分ほど設けられる)

M:ほな、Nさんから、こう回って行こうか、俺が最後で。上から何番目？

N:3番目。(笑)

M:1、2、3。

K:ああ、人のん？

M:うん、人のん、人のんを、ほんで、

K:意見を言うん？

M:自分のだったら、変えるけんな。ほな、Kさん。

K:ほんなん、自分のん、ほんなん、わしが書いたやつ、みな話しにくいと思う。

M:いけるだろ、考えて。いける、ほの、考える練習をやな。何枚目？

K:え？

M:何枚目？

K:ほな、

M:一番上？

K:3つ目。

M:また、1、2、3。あ、自分のじゃわ、多分。

K:違う。

M:違うん？ほな、T君、何番？

T:上から3番目。

M:上から3番？1、2、3。Zは？

Z:ほれでええ。

M:一番上？

K:よおけ持っとんで、ほなけんど。あと、3つしか持ってないで？

M:Lさん。

Z:ほんまやな、難しそうな。(笑)

M:自分のだったら、交代しよ。5分か10分休憩しましよ。ほんで、ほの間にまあ、考えといて。

(休憩)

M:ほな、いきますか？うん。1番にやって、やりたいっていう方、終わった人が次の人を指名してくださいね。ほな、T君いけ。まだできてない？

T:あんまり、考えることはない。

M:難しいテーマ？

T:ちゃう、俺とは、あんまり関係ない、縁のないやつ。

M:前もあつたでえ、自分に関係ない「恋愛」ってゆうやつ。

T:ほんなんばっかりな。ほなけん、こんなん嫌んよ。自分の言いたいことという風はええやんか、パーンと。

M:言いたいことをほれに絡ましたら？

T:俺は絡まんのじよ。

M:絡まんのか。ほな、後から遅れて、お・遅なったから、えっと、Kさんの発声練習に、

K:ほなに言われても。

M:近況報告。

K:近況報告、前回出席してから、先程も、Mさんから、原稿が来んとか言うて、注文を受けたんですが、

M:遅いんです。

K:あの一、これはですね、前にちょっと申し上げた、え一、松山で学校の、OBの総会があるっちゅう、これまあ、1000人ぐらい、

Z:ほ一。

K:ひめぎんホールや言う所へ集まるんですけど、これで、まあ、徳島での、支部長をしよるんよ。というので、私、この度、辞めて、引退してバトンタッチした訳な。んで、それがあって、功労賞やいうこと、その席で功労賞を戴けると。こういう風なことで、授賞をしてもらいました。で、え一、これについて、受賞したということで、乾杯の音頭をやってくれと。これ、まあ、大勢の中で乾杯の音頭、これまあ、非常に緊張感あつた訳なんですけど、まあ、今までも言うてきたように、私、喋るのが苦手な部分、「徳島のK」と、こういう風に自己紹介、まず申し上げないかんのが、は・一番最初に、挨拶の時に、言わないかん。これに自身がのうて非常に緊張した面持ちで、挨拶をさせて頂きましたが、まあ、無事、え一、乾杯の音頭させて頂きました。あと、近況報告、先々々週か、これもちょっと学生時代の昔の、今頃になって、学生時代とか、そんな時代の話をする訳なんですけど、え一、え一と、徳島出身の人なんですけど、大鵬薬品行きよって、ほんで、東京でも生活しよって、久しぶりに同窓会東京でしょうや言うてくれてな。と

いう風なことで、東京で彼が、佐久平、長野県の佐久平ちゅう所に別荘がございまして、別荘でほな、あの、やるという風なことで、そこへ行って参りました。東京から車で、けんど 30 分ぐらいか、うん、非常に不便な所。まあ、しかし、東京で生活するんは大変やなど。とういうことは、東京ではマンション住まいなんです、東京でのマンション住まいちゅうたら、土を触ったり、こう、自然との接触が無いでしょ？ほかにはないけど、そういうことで、自然と接触ができる別荘を買ったと。ほういう風なことで。まあ、ただ、もう、私やも 70 近いあれになって、車の運転出来んようになったら別荘も使い道無い訳よな。

Z:うんうん。

K:うん。せっかく買うた訳やけど、これからどうしようかと思うと、車が乗れる間だけしか、来れんのやと。うん、あれじゃ、こ・自分の子ども達に相談した所で、子どもはまだほんな別荘で遊ぼうやいうつもりがないしな。あの一、ほなけん、要らんわと。受け取ってくれんのやと。うん。ほんな風なことで、東京で生活するんも中々大変じゃなあと、こういう風な感じで。ほな、近況報告はこんな所で終わります。で、今日の議題「若者は選挙に行こう」と。こういう話。誰の、誰の提案か分かりませんが。これ、ちょうど、幸い、今日の徳島新聞で、さ・産経だったんか、徳新だったんか、どっちか忘れたけど、若者の投票権について。これ投票している、まあ、今回もまあ 50%前後でなかろうかという風な投票率、ほしたら、まあ、有権者が何人おるんかしら、8000 万人とするわ。なあ、8000 万の内の 50%。うん、50%やいうたら、なんぼ？8000 万の 50%やいうたら、4000 万。4000 万のうち、4000 万の内、投票に行く人の比率ちゅうたら、60 歳以上の人が非常に多い。

Z:あ一、はいはい。

K:うん、比率がな。ほんで、若い人の票が非常に少ないと。うん。ほなけん、選挙する度に若い人たちの、意見が、全く反映されないと、うん。ほなけん、内の、若い人の投票権、1人2票、1人2票ぐらいの権限、与えんと若い人の意見が反映出来んでないかと、ほれもごもつともやなど。ほれより以前に若い人が投票しないのが1番悪いんじゃけんどな。ほなけん、結論は、ほの、お年寄り、に、恵まれたような、有権、あの一、有利に働くような、政党ちゅうんか、そういう政治を選ぶ、政治がどうしても、ほの、立候補の活動に反映されると。で、若い人の意見がどうしても反映されにくい状態になるとる訳ね、うん。ほういうことで、若い人が、あ一、やっぱり投票率が少ないと、若い人の投票率の比率を上げて、うん、投票をしないと、これからの、お一、時代？やっていけんと。今後、そういう状況が益々、高齢化社会で増える訳でございますんで、うん。ほなけん、高齢者率ほどいい政治しかできないと。ほれでは、将来は非常に危ないと。危ぶまれる状況だと。こういうことで、若い人の投票を積極的に進めて戴くようにしていくべきだなと。こう思いますんで、若い方、投票してきましたか？

N:はい。

K:行ってきましたか？

R:はい。

K:ほうですか。ここ・この人も若いけん、行ってきましたか？

L:昨日、昨日行きました。

K:昨日行たん？という風なことで、若い人は積極的に参加して自分達の意見を反映するよ
うな選挙でありたいなど、こう思う訳でございます。

一同:(拍手)

Z:反映されんけん行かんのじゃな。

K:うん。 反映されないというよりは、

Z:反映されんけん行かん行かんのん。

K:興味が無いん違うで？

Z:ほなって、みんな、なあ？政治家やほなって、自分自身が定員を減そうや言うたら誰や賛
成せんやもん。共産党からしたってみなそうで。自分と、みな守って、ほんで、国民
に何々しますて、する訳がない。ほらほうでよ。絶対ありえないわ。ああ、どうぞどう
ぞ。

K:ああ、私が指名せないかんので？ほな、しし・指名してほしい人、手え挙げて。(笑)
Lさんいこう、ほな。

L:3分がどうか分からん、したことがない。(笑) えーと、「道」、「道」というテーマで、

M:「道」？

L:ちょっと難しいんですけど、まあ、道、まあ、実際の道と言うか、何を言うか考えたん
ですけど、実際に道を、ま、まあ、私は方向音痴で、その話でもいいんですけど、まあ、
ほれとは別に、ま、まあ、じじ・人生の道ということを見ると、まあ、よく言われる
のが、まあ、いい・生きていく上で、人間、数々の出会いをこう、実際、今度どちらの
道、まあ、3つぐらいある場合もありますけど、選ぶかによって、ほこに一生、うん、
どんな人生を送るか変わってくると思うんですけど。で、やっぱり後悔することたぶ
んたくさんあります。後悔して、もう一度また、戻ったりして、またその同じ分かれ
道に来た時に、どちらを選ぶのかなって考えて、もしかしたら、後悔してると言いなが
らもやっぱり同じ道を選ぶような気も、します。ただ、今までも、そうですけど、どち
らの道を選ぶかという時に、誰かに言われたとか、強制されて選んでいくと、ま、後悔
しかないけど、とりあえず自分で選んでいけば、悩みながらも、まあ、選んでいけば、
やっぱり、まあ、あの時、違う道を選んでたらよかったなと思うかもしれないけども、
まあ、自分で、とりあえず自分で決めて選べば、それはそれで仕方が無い。諦めもつく
し、まあ、自分選んだんだから、お互いのせいにも出来ないし、

Z:そうそう。

L:ま、今でも考えてますけどね。

Z:まあ、あの、人生、よかったですか？人生まだまだやけど。

L:いや、もう、

Z:今まで。

L:やっぱり、それぞれ、やっぱり、あっちの道を行けば、こうだったのかなあという風に。

T:30秒前ね。

L:まあ、結局、まあ、これからも迷いながら選んでいくと思うんですけども、自分に聞いて
自分で考えて、

Z:そうそうそう。

L:自分でちゃんと、まあ、人の意見も参考にしながらですけど。ま、選択していきたいと

思います。

Z:はい。

K:今までに一番、大きい悩みって何で？判断に迷うた、一番大きいのは。

L:大きい・・・

K:進学とか、結婚とか、いろいろあるだろうけど。

L:うーん、まあ、結婚も1つですね。

K:結婚が1番大きかったん？

L:大きい、後はまあ、県外の大学に出てて、帰ってくるか、どうするか。

Z:ほの、ほんな悩みはな。結婚、なんとなく、結婚て、あ、まあ、女の立場でないけん分
からんけど。結婚しようと思うだけで、おお・俺は悩まなんだなあ。

M:女の人の場合は違うわ。

Z:うん？

M:女性の場合と男、

Z:そうそう、ほなけん言よんじゃ、男と女はちゃうけど、女の人っちゅうんは、結構悩む
んだろうか？

L:うーん、まあ、人によるでしょうけどでしょうけど。

Z:男性が、「結婚しよー。」って言うた時に、「いや、ちょっと待ってよー。」とか言うて、

L:いや、

Z:「あと1人おるけん。」とか。

L:ええ？(笑)

Z:いやいや、ほら、おって当然で、ほら。「この人といけるんかな？」とかやな。

L:そら、ありますよね。

K:ほなって、気質の条件でやな、どれもこれも全部OKの人と、一部欠けとる人と、いろ
いろあるんちゃうん？相手が。

Z:ほれが分からんけん結婚ちゃうん？

K:ほら、ほうじゃ。ほら、ほなけんどな、判断に悩むっちゃうことは、自分の期待の条件
と、の中で、何もかも、何もかも期待通りだったら、すぐ結婚という結論が出るんちゃ
ん？

L:条件で結婚しようとは思わないですよ。

K:いや、ほなけんど、相手選ぶ、あの一、なんか、あれ、対象になる、相手が現れるまで
は、いろいろとあるんちゃうん？

L:いやあ、やっぱり、ほんとに、たまたま偶然会って、偶然好きになって、

K:あー。うんうん。

M:どうですか？若い人？

N:えっ？えっ？

M:(笑)

K:あんたや、どうで？結婚するとすれば、

N:結婚ですか？

K:どういう人と、あの一、理想のあれがあるんちゃうん？理想の条件。

N:うーん、なんか、うちの両親は、なんか、そういう恋愛感情とかで結婚してないんで、

Z:ほやって言うた？
L:見合いみたいな感じですか？でもない？
N:お母さんのほうは、なんか、あの、別に、なんかあの、好きでもなかったし、
Z:ああ、なかった。
N:妥協したみたいな感じで聞いたんですけど、あの、お父さんのほうが、なんか、あの、
猛アタックして、ほんで妥協して結婚したみたいな感じで聞いたんですけど。
Z:大体ほんなんじゃわ。
N:はい。
Z:男は、「しよ、しよ。」っていう。やっぱ、ほの考えが、男はぞ。もう、この子って思た
ら「しよう。」って思う。
N:やっぱりね、なんか、うん、まあ、うん、そういうんで、結婚したせいか、夫婦喧嘩し
よっちゅうしよって、なんか、うーん、まあ、自分的にはちょっと反面教師かなあって
いう感じがするんで、
Z:今はしよらんのだろ？
N:いや、してますよ、しよっちゅう。(笑)
Z:(笑) ああ、そう。すごいなあ。
L:喧嘩はされないんですか？
Z:喧嘩やるかいな、恐ろしい。
L:ええ。(笑)
Z:(笑) 一切逆らわんわよ。(笑) 喧嘩やは両方が嫌になるけんな。
M:そろそろ、次、Lさん、指名して下さい。指名して？
L:しめ、しめ？
M:次の人。
L:ああ、指名？
M:うん。
L:指名・・・ じゃあ、お名前を。
R:おお・Rです。
L:Rさん、お願いします。
R:はい。僕は、「映画」がテーマです。で、まあ、この、こ・これまでの、え・映画れ・映
画歴みたいなのを、まあ、僕まあ、映画けっこう好きなんですけど、一番最初好きにな
ったのは、小学校の頃に「マトリックス」っていう映画を観て、
Z:ああ、マトリックス？
R:はい。
Z:ほー。
R:すごい映画があるんだなと、し・CG とかすごい、ほの、自分の今まで観たテレビと
かドラマとかじゃないものがあって、皆でマトリックスごっ・ごっこみみたいなのを小学
校の頃はすごい、真似したりしたのが、映画好きになった始まり。で、まあ、それから、
近くのレンタルショップで、まあ、DVDを借りたり、まあ、お・親も結構好きなので、
まあ、それで一緒に観たり、まあ、してました。で、高校に・に入って、すごい、なん
か、あの、「バイオハハ・、バイオハザード」っていう、あのゾ・ゾンビ映画を観てか

ら、すごい、そういうゾンビとかホラー映画みたいなのを、

M:「バイオハザード」？

R:「バイオハザード」っていう、

Z:ああ、あの、化学危機じゃ。

R:はい、はい。ゾンビに噛まれたら、その人もゾンビになってしまう、みたいな映画を観て、それからすごい、そういう系の、その近くのレンタルショップの、ホラー映画を全部観ようと思って、

Z:へー。

R:そういうのを、一人で観るのが好きでした。(笑) で、まあ、そうだな、大学入ってからも、まあ、ちよくちよく、まあ、でも、前ほどは観なくなって。大学入ってから一番好きだったのが、「パラノーマルアクティビティ」っていうホラー映画があああ・あって、ほの一、主人公のはは・ハンディカメラの映像と、し・しん、なんか、こう、しん・寢室の、か・か・監視カメラみたいなのがついてて、

Z:うん、うん。

R:その、映像をじゅん・順番に観るみたいな、すごい映画、そういう映画で、ま、せー・せー・製作費が、なんか、何百万とか、の映画なんですけど、すごい興行収入が、何千万か、何億とかそんな、大ヒットした映画で、すごい、あ、こんな映画も作るんだなあと思って、びっくりしました。で、まあ、一番好きな映画が、「イエスマン」という映画があ・ありまして、まあ、コメディ映画なんですけど、まあ、人からなにか、まあ、主人公が、まあ、こう、のの・まあ、飲みに行こうとか言われたら、まあ、「行けたら行くよ。」みたいな、有耶無耶な返事をする人だったんですけど、とある会に行ってから、全部イエ、選択肢を迫られたら、全部「イエ・イエス」っていう、ようにし・したらすごい人生ハ・ハッピー！みたいな映画があって。(笑) まあ、「飲み・飲みに行こう。」って言われたら、うん、「すぐに行く。」とか、夜中でも、呼ばれたらすぐ行くとか、「奢ってくれ。」って言われたら、全部奢るとかして、ま・な、そういうコメディ映画なんですけど、まあ、その、そういう生き方もちょっと、一瞬真似してみたりとかして、確かにこの生活は楽しいとか思ったんですけど、くる・くる・まあ、この、お金とかも凄い飛ぶんで、苦しいんですけど、まあ、すごい、楽しい生活を過ごして、この映画にすごい影響されたぶ・部分もあります。で、まあ、最近で、まあ、あんまり DVD とか、近くのレンタルショップ屋さんが、潰れちゃって、その一、あんまり観れてないんですけど、まあ、え・映画館に行くのも、最近あんまり、ちょっと、1000円とか、1000なんぼ払ってまで、ちょっと観に行くのは、あれかなと思って、あ・あまり行かずに、たまに、好きなえ・え・映画の続編とかが出たら、まあ、DVD 借りに行く程度で、まあ、映画とかも、そろそろ、ひひ・1人映画とかもちょっとしてみたいとか、思ってます。はい、以上です。

一同:(拍手)

M:今んで何分？

T:5分以上違うん？(笑)

M:いやいやいや、R君は上手に、なに、纏めるけん、

Z:映画なあ、昔、Kさんもよお観たけど、3本立てとかな。

L:ま、2本立ては。

Z:2本までは知っとる？3本立てあったな、Kさん？

K:3本は・・・

R:3本。(笑)

M:ほんな時代、

Z:俺若い時行った。俺、小学校の時ぼんぼんだったでえ？

M:うーん。

Z:ほなけん、映画、あ、映画は、よう行ったんよ。お金あったけん、うん。ほなけん、3本立てやってな、ほの、あ、ほれと、あの、えーっと、あ、「笛吹導師」とかな。(笑) あんなん、よう行った。

T:この辺でもいっぱいあったもんな。

Z:映画館はいっぱいあった。

T:ごっつあったんよな。方々に、方々にあった。

M:はい、ほなお願いします。

R:うーん、Tさん。め・目が合った。(笑)

T:何も、することないけん。「りよりよりよ・旅行」という、

M:旅行？

T:うん、題で話します。まあ、自分、この人が書いた旅行と、また、自分の旅行という意味で、話が違うかもし・・しりませんが、ほこは、

Z:ほら、ほんでええわ。

T:お願いします。

Z:自分の、旅行。

T:まあ、普通、一般的に、言われる旅行は、ほなけん、国内とか、海外とか、まあ、1人旅とか、団体の何とか、色々、ありますけど、また、自分も、まあ、今まで、生きてき・きた中で、ほとんどは、まあ、まあ、他の、ひ・人から、まあ、「行かんか。」と言われてほとんど、行っているのが、旅行ですけど。まあ、自分、も、ちょいちょい、こうね、き・なけん、国府の何があるんですけど、なけん、朝早うに、一番の何で乗って、池田の方に行ってもいいなあ、と思う時もあるんですけど、まだいっぺんも、そういうことも、実行してません。ほなけん、まあ、ししししししししし・死んでしまうまでには、

M:(笑)

T:そういう事もしたいなあ、と。ふらっと、何も決めんと、東行ったり、に・西行ったり、まあ、そういうんもまた、そういうんもええなど、思います。まあ、自分、まあ、今の所1人やけど、まあ、ほのまま、自分1人になってしもて、放浪みたいになって、しし・しまうようにも思て、1人旅っていうんはあんまり、ようしません。まあ、ほなけん、なんかあって、あります。んで、自分本来は、まあ、1年に1回や2回、また、言友会でもあるんですけど、ほの日の、ほんまに、ほのひひ・ほの日の、当日に、ならんかったら、まあ、ちゃんとせんのやな、支度。で、いつも、バタバタしとんですけど、ほなけん、ほんまに、したかったら、あの、早うから、なけん、1日前ぐらいに、ちゃんと準備しといて、ほの日はただ、起きたらすぐ、パッと行けるように。(笑) あの、した

いんですけど、いち・・いつも、ほなけん、その日になるまで、何もせんと、ほっといて、ただ、バッグに詰めて、パッと行ってます。まあ、そういうんがええんか、いかんのか。(笑) まあ、知らんのんですけど、まあ、ほれからは、まあ、1人旅みたいなんも、あの、し・・したいと思ってます。以上です。

一同:(拍手)

T:あ、ほんで、言わなあかんのやな？

M:うん、うん。

K:い・言い残しが？

T:うん？

K:言い残しが。

T:いや、つ・次の人。

一同:(笑)

Z:ええんぞー。

T:ほな、Zさん。

Z:はい。えーっと、あの、与えられたんは、えーっと、「医者に殺されない47箇条」やいうて、

M:ええ？ああ。

Z:こんなもんがあるらしいんですよ。これも今、あー、これも一緒ですけど、えー、あの一、あの、これにつ・まあ、あの、通じると言うんですね、あの、さっきちょっと、あの、えーと、あの、えーと、前してたことですね。そういう、お上が全てである、医者が全てである、自分をそのものにいつでも委ねてる。お医者さんに任せとったらいける、国に任せとったらいける、そういうんでは駄目だという、こういう、あの、正式な本が出だしたっちゃうことですね。えーと、あの、保健も一緒ですね。保険も差があって当然であると、いうんが出だした。えーと、あの、ようやく、日本もほういう、欧米の、あ、えーと、あの、考え方、えーと、あの、文化、文化とは言わんけど、か・考え方。皆が平等が、えー、えーっと、なんちゅうん、え、地位も何もない平等であるっちゃうんが平等であること、えーっと、あ、間違いですね。都会に住む人と田舎に住む人と、当然、単価は違うんだし、当然、生活も違う。そ、あの、それを平等にしようやいうこと自体おかしいんです。ていうことが、これと同じように、ほういう、お医者さんに任せとったらみないけるわ、自分が無いんですよ。大体、日本人の平均でね。もう自分の意見を言わないっていう考え方ですね。ほな、こ・、あの、こんな本なんかは、「医者に殺されない47の」読んだことはないですけど、自分で責任を持たないかん部分も、まあ、言えば、これからあるよと。ほれで、えー、まあ、よう言われるように、えーっと、あ、えーっと、あの、インフォームドコンセントっていうんは、あるお医者さんにかかるとしたら、もう、全部いけるわっていうんでなしに、違う所も行きましようよ、と。あ、えー、えーっと、あ、えーっと、あ、えーっと、今までの日本人であれば、そのお医者さんに係ったら、その人に一生、係らないかんっていう考え方があるね。ほういう、その人の、ちゃう所へいったら、罪悪感ようなもん、を、感じて、よう行かないっていう人が多いですね、日本人の平均的にね。だけど、自分の命やからね。お医者さんの命ちゃうんよな。お医者さんに命を全て渡したら、恋愛感情、あなたのためだ

ったらどこでも付いていきますと、ちやうんやけんね。ああ、こっちでおかしいなあと思たら、違うとこ行かないかん。そんでもおかしいなあと思たらちやうとこ行かないかん。そういう選択肢ができる時代になったってことと違うかえ。ほなから日本人が、ほういう、えーっと、あの、えーと、こういう所、ここ・こやってしたらいかんって、国に言われても、それはおかしいと。自分で考えないかん。こういう意見もあるんじゃないかっていう意見を持ってほしい訳ですね。ほんで、あと、えーっと、ま、あの、えーっと、あの、五木寛之、あの、す・作家の人ですね。あの人もよく書いてますよね、あの、えーっと、お医者さんは行かない、行たことがないとか言うて。え、えっと、ほんとか嘘か知りませんがね、僕は、あの、えっと、新聞の本の、あの、広告なんかによく書いてますわ。あの人も、そういう、自己、あの、自分自身は自分でコントロールする、っていう意識を持ってるんだらうと思います。ああいう考え方の中にね。そういうことは大事なんですよね。ほなけん、まあ、あの、これからは自分で、自分で自分を、あ、えー、管理していきましょう。その代わり、こういう人には従わない、その代わり自分で責任を持つ、今度反対にね。ああ、今まではお医者さんに任しとったらお医者さんが、してくれ、だから自分は責任は無いわっていう、考え方ですよ。お医者さんやって間違ふ事も当然ある。ほなけど、私はお医者さんに任せとったけんあんたが悪いんじゃないかっていう、時代ではもうないと思います、これからはね。そういうことが大事やと思います。ほんで全然変わって、ちょっと思い出したんですけど、えーっと、英会話教室行ったことある人おりますか？ない、ない、ない、ない？ありますか？ほたら、先生って決まっていますでしょ？あれ。なんとなく。ね？ほたら、変わりましたと、変わったことありますか？先生、いや、この先生嫌やて、ちやうとこ行きたいって。

L:無いです。

Z:無いでしょ？それをしないんですよ、日本人は、あ、僕はしてきたんです。この先生は気に入らん、僕に合わんと。ほなけん、あの、あの、違う人にしてくれって。ほたら、してくれます、それは。言わんから、せんのです。言わんから、教室の方は、あ！この人でええんやなど納得しとると思う。あ、ここの先生をつけとったらええ。ほなけど、何人か先生いてると思う。ほなけん、いや、この人は駄目やから、こっちの方にしてくれって、いうことがなんか日本人は何か罪悪感を感じてるんですよ、その人に変わって、その人に悪いなあ、って。せっかく教えてくれたのに、そうでない。自分が学びたいんだから、自分に合う先生を選ぶべきなんですよ。同しお金払ってるんだから、同しように、お医者さん、あ、えーっと、インフォームドコンセントの先生やっても、何でもええですよ、自分で、これからは選んでいきましょう。ほういうことです。

一同:(拍手)

Z:はい。

N:えっ、え？

Z:あ、しとらんな？

N:あ、はい。(笑) はい。えっと、テーマは、「選挙」です。

M:ほー。

Z:ごっつい、わしに係ってくるな、プレッシャーが。(笑)

N:(笑) えーっと、まあ、あの、今日選挙いい・行ってきたんですけど、まあ、正直に言

うたら、まあ、選挙に行っても意味がないような感じは、まあ、自分でもしよって、あの、政治家もちゃんとやってないし、

Z:そうそう。

N:将来あの、自分が年金もらえるかどうかもちよっと不安やし、

Z:ちゃんと見とけよ、自分でほんまに。

N:(笑) で、ほなけん、まあ、あの、うん。今の政治やったら、ほんまに、あの、選挙行ってもなんも変わらんのんちゃうかなって思ってるんですけど、選挙権て明治ぐらいでしたっけ？出来たん。あれ、

Z:画期的なことじゃもんな。

N:はい、あれ、なんか、あの、ずうっと、まあ、あの、なんか、まああの、欲しかって、やとあの、手に入れた選挙権なんで、まああの、そういう所考えると、まああの大事にしていかないかなあって、お・思う部分があって、まああの、ちゃんと選挙にも参加するようにしてるんですけど、うーん。まあなんか、

(扉が開く)

R・N:こんにちは。

D:あ、どうも。

N:なんか、ちょっと前に、あの、父親から聞いたんですけど、あの、1回選挙するんに、あの、すごい膨大な、あの金がかかるとるって聞いて、

Z:何億円てかかるけん、うん、そうそうそう。

N:それに、あの、自分たちが払いよる税金が使われよるって考えたら、あれなんか、ほんまに、あれ、なんか、何回も選挙するんも嫌やし、ほんで、あの、選挙やっても、政治家はちゃんとせえへんし、ほなけんあの、とりあえず、まあなんか、税金増やすとか、国民の生活をどうにかするというよりも、政治家にはあ・あの税金をちゃんと使うようになってもらいたいと切実に思います、はい。

Z:公表せんでええけん、あれがおかしい。

N:はい、それと、まあ、もう1つ言うんだったら、憲法改正するとか言うてるじゃないですか？なんか、憲法を、あの改正するって言う人には、絶対当選してほしくないです。

Z:ああ、変えたくない？

N:もう、あの、戦争は絶対やってほしくないんで、はい。もう出来れば、難しいと思うんですけど、まああの、世界中から戦争がなくなるように、はい。まあそうなったらいいなって思ってるんで、うんー、あの、うん。なんか、せつかく、戦争を放棄したのに、なんか、もっかいやるんかなって思って、なんか、そういうなんか、ひ・広島とか、あの、おおお・沖縄とかもなんかモニュメントとか作って、なんか、まあ、そういうんをせつかく大事にしよんのに、なんか憲法を改正あ・あの改正してしまったら、あの、それのい・意味もなくなるっていうか、そういう感じがするんで。まあ、戦争はしないで、もっと他に何か、日本をようするために、他に出来る方法をちゃんと見つけてほしいなあっていう感じですね。

Z:若い人の意見じゃ。 終わり？

N:(頷く)

一同:(拍手)

Z:まあ、戦争はなくならんわ、ほれは、な。

M:はい、ほな、えーっと、お題は、えっと「夏に、えっとやりたい事」ていう、頂きました。そうですね、あの、今別に一やりたいことっていうのはそんなに無いんですけど、あのー、今ちょっとイイ・インターネットの YouTube の動画を見るんに凝ってまして、色々あのー、演歌歌手とか、長渕剛が、あのー、被災地で自衛隊員を励ましたり、あのー、色んな、え、えーっと、ギター1本で松島基地なんかに乗って行って、あのー、みなを、えっと、えっと、えっと、えっと、鼓舞する力っていうか、あれはすごいなあと、皆肩をくんで、こう、基地全体が、あのー、1つに纏まっているような感じの、そういう慰問を何か所か続けていて、あのー、その後で防衛大臣、あの時は、いつ・いつみっていうたんかな？なんかの発言で首になった。あれ、なんですけど、大臣し・賞を頂いたり、そういうのをえっと、見たり、ああ、普通のえん・演歌歌手では中々できない、これ、あれなんです。そういうのに、え、え、えーと、僕も何いして、あのー、何年か、7年ぐらい前に、えっと、桜島ライブ、あのー、ライブを、えー、えっと、やった時も、え、えーっと、見てたら、胸が熱くなって涙がポロポロでてきた。そういう風な、あの、溶岩を削って、あそこ、国定公園か、国定公園でしたね。それを鹿児島県知事とかの、あの、あれ、あの、え、えっと、許可をとって、ブルドーザーで均して、足場作って、ほこで、一晩中の、あのー、えっと、コンサート、え、えっと、ライブ、雨が降れば、ほれ、おじゃんになるんですけど、日本各地から7万人がおしかけて、桜島へ行く、あのー、えっとフェリーボート、臨時便を出して、車は絶対降ろさせんと、下も上も満載の人間を押しかけて、そ・それを、えっと、えっと、成功させていくっていう、えっと、あれ、っていうのが、すごい、あ・あ、このー、やっぱし、えっと、鹿児島県人、えっえっと、薩摩隼人ななあと思ったりしました。それと、これ、夏に、えーっと、やりたい事っていうのに関係ないかも、えっと、分からないですけど、僕はー、あいつの、歌が好きで、あのー、えっと、えっと、「乾杯」なんかでも、好きなんですけど、高音が出ないんですよね。それでー、えっと、えっと、さ・えと、えっと、先程も言ったけど、リップロール発声法で、あのー、上の高音を歌えるように、えっと、きたんで、ほれを、カラオケボックスでなしに、カラオケ喫茶、えっと、舞台がある、そういう、あのー、カラオケの所で、知らないひ・人に聞いてほしいなあっていうのは、今年の夏にやりたい、こと、っていうか、うん。ほんで、で、仲間の内に入る、あの、ボックスでなしに、あのー、えっ、ちょっと演台があって、上に上がって、こう、歌う？皆が聞いている、そういうあれの、あの、喫茶ちゅう、近くにあるには、あるんですけど、中々行く機会がなくて、うん、そういう、所で、度胸試しに、こういう、行ってみたいなあと思ってます。あとー、あのー、すぎもとまさとっていう歌手ご存じですか？あの人は、しし・下積み下積みでもう、家にも帰らず、母親が、えっと、亡くなっても、親不孝で、えっと、「吾亦紅」っていう歌をギター1本で紅白かなんかに、えっと出たんかな。親に不幸を分ける、それで、結局、最後は自分が離婚して、あの、自分の生き方を確立したっていうような、う・歌なんですけど。その人の一番弟子に、あさみちゆきっていう女の人がおるんですよね。あの、えーっと、山口県出身で、40、もうすぐ40歳に、えーとなるのかな。その人の、歌に今はある、何いして、色々、あの、えっと、テープに録ったり、あのー、車の中で歌ってます。以上です。

一同:(拍手)

Z:あの、吾亦紅ってな、あれ、吾亦紅ってな、

M:吾亦紅。

Z:3 番のな、

M:うん。

Z:えーっと、あの、私は離婚しました、あ、えーっと、あの、これで本当の人生を歩めま
す、ような意味があるでえ？

M:うん。

Z:あれは何の意味？

M:あれ、今まで、

Z:結婚したことが悪いっちゃうこと？

M:違う。いままで、ほの、なんて言うん、散々親不孝

Z:親不孝は分かっとお、それは知っとお。

M:ほれ一、まあ、言えなんだんだろ。

Z:うん、それは分かる。

M:ほんで、あの一、自分 1 人で、まあ作曲したり、何、ししし・したけど、売れんでえ。
その下積み生活に奥さん支えてくれとったんやけど、売れだしてから、結局離婚したで
え。娘も何して、1 人に、ほんでな、ほの後の続きで、すし屋で、っていうような歌も
あるんよ、本人とあさみ、ち・えっ、えっと、ちゆきと一緒に、

Z:ほなけん、ほの、

M:ほのな、すし屋でも、ほの、あの一、なんていうん、え、父と母とのことは、む・娘に
は、分からんだろうけどっていう、そういう内容が出てくるんよ。ほなけん、これまで
自分の意志で、行動でけなんだんじゃわ。

Z:結婚によって規制されたという意味やな。

M:やっとな自分が、ほの一、1 人立ち、して、いろんな、あの、子どもも追い放して自由にな
ったっていう、自分の生き方が、っていうことでないんかなと思うんやけどな。

Z:ほなけん、結婚、え、あ、まあ言うたらお嫁さんも子どももおって、いうことで何も出
来なかった、自分は犠牲になった、ほれを離婚したことによって、自分は自由になっ
たっていうこと言いたいんやな。どしてほんな言葉が出てくるかな、って。結婚を否定し
とるんか、

M:それは、本人に聞かな分からんわな。

Z:ほれを否定しとるもんな。ほんなん言われたら、あ、えーと、あ、嫁や、辛いわな。今
までほなって、貴方を一生懸命支えてきたのに、離婚してようよう自由になったや言わ
れたら、何のために一生懸命頑張ってきたんかなあ。

M:あのひ・あの人の作詞、えー、作曲の、ほういうのが多いな。あの、売れん、えっと、
作家がな、あの一、ほれを支える、

Z:ほんなんは、現実にようけあるわよ。ほんなんなんぼでもあるでえ。あるけどやな、

M:売れんずくで終わる人もおるしな。

Z:いやあ、なけん、あ、えー、あー、ええよくなったら、なあ、えーと、あの、苦勞して
一緒に頑張ってきてくれた、捨てて若い子にいくっちゃうんがなんぼでもある、ほら。

ほれを正当化しよんな、まあいうたら、極端に言えば。(笑) いやあ、ごめんごめんごめん。いや、ちょっとほれが何も言葉の意味が気になっとな。

M:ほなけんみな、カラオケで歌いよる人でな、私情を読むでえな。ほの一、あの、理解してな、歌いよる人がどれだけおるかっていうことやな。あの一、カラオケ喫茶でいうたらな。

Z:いや、ほんなん、気にする必要はするしやな、せん人はせんでええんやけど、わしは気になっとな聞つきょうだけで、いやいや、言うたけんぞ。言うたけん言よるだけで。

M:あ一、ほな D さん。今な、3 分間スピーチをしようたんよ。ほなけど、初めての方がようけ、おるけん、簡単な自己紹介と近況報告。

D:近況報告、はい。

M:うん。

D:え一っと、こんにちは。え一、御無沙汰しております、え一、D と言います。徳島市の富田町に、から来ております。え一、仕事は公務員をしております。え一、家族は、嫁と、え一、大学1年の娘と、え一、高2の息子、の、4人家族です。え一、近況報告はあんまり、あ、え一、娘が、県外の大学に行きまして、今部屋を借って1人で生活を4月から始めとるんで、家族が1人減って、あの、最初はちょっと途惑った、というか寂しかったんですけど、今だ・だいぶ、3人の生活に慣れてきた、とこです。仕事は、え一、税金の仕事をしております。え一、ま、え一と、私の、吃りは難発で、え一と、難発性の吃音です。え一、さ・最近ていうか、ここ、ここ、1、2年ちょっと調子が悪うて、え一、え、電話で、鳴門、電話で鳴門市っていうのが言えなくて、あの、「な」っていうんがすごい、もう、どないしょ、どど・どないしょうとお・思っつて、ほんでまあ、あの一、前、え一っと、それで、車の中で、あの一、まあ、調子が悪うなって、よお、あの一、車の中で、通勤、車で通つとるんで、さ・3、40分あるんですが、車の中で、あの、鳴門、「な、なーと」最初の言葉をこう、伸ばすような形、「なー」伸ばすような発声練習をするようにして、それでちょっと今、だいぶ効果が出てきたようで、電話する時もこんまい声でこう「な、なー」あの電話かける時に、「なーと、なーと」って言いながら、電話をかけたら、案外こう、出来、で、出来るようになって、今ちょっと自信がついたというか、電話を、まあ、鳴門市っていうことで電話をする時も、まああの、市内にかける時は市役所って言うんですけど、もう市役所とも言わず、もう鳴門市役所と、あの、言う練習と、練習かねてする、しております。あと、あとはまあ、変わりはもう一切。(笑)

M:体は?

D:あ、体はですね、あの、えっと、ま、3年、4年、3年ぐらいですかね?ちょっと体壊して、え一っと、たんですけど、今はまあ、何とか、え一っと、この前の、4月に人間ドッグがあったんですけども、え一、体重もちよっと減ってて、あと、あの、高脂血症とかも、だいぶ数値が下がって、だいぶよおなっております。

Z:ほなええでえ。

D:はい。(笑)

Z:酒飲んみようわりに。

D:お酒もやっぱり、量は減ったっていうか、あんまり飲めんようになってきて、で、飲んだ

らもう頭が痛くなるっていうか、飲みに行く回数もかなり減りました。ほなけん、最近
はあまり、月に1回も行っていない、です。はい、以上です。

Z:はい。

一同:(拍手)

M:ほな、5分前に終わりたいと思うんで、今から30分、えっと、どなたか、議事進行し
て、話し合いたいと。5分前にここを切り上げて、

K:5分前って、6時5分前?

M:5時5分前に。向こう、6時に始まるけん。

K:6時やったら、1時間もかかるん?

M:いや、ここに、ここにおれんけん、

K:うん?

M:ここが5時までに出ないかんのよな。

Z:ほな、あっちは6時に。

K:この使用期限が、5時まで。

Z:始まるんが6時なんだろう?

K:1時間あるんじゃ。

M:ほなけん、ゆっくり行って、あの一、始まる時間まで紀伊国屋でおってもいいし、ほん
で、

Z:紀伊国屋な。

M:ロビーがあるけん。ロビーで、あの一、話しよってもええし、ゆっくり歩いて、30分
あつたら行けると思うけん、な。足、いける?怪我人に合わせて歩かないかん、ほない
かからんじよ。ほな、30分、何かやって。話のさっきの続きでもいいし。

Z:あ、ほな一、あの、僕が、えーっと、小、中学生ぐらいだったと思いますけど、あ、あ
れ、林海学校、っていうであって、えー、あ、あの、ディベート。あ、え、こっちの意
見とこっちの意見を、

M:ちょうど8人

Z:2、3、4人、あ、ここで分かれてね。

K:ディベートって何?

Z:討論。

K:ふーん。

Z:ここ、こっち側、こつが4人な、こつが4人な。で、東京オリンピックありますね?
今度。えーと、あの、えーと、あの、僕やもほの時に、東京オリンピックのことで話た
んですよ。東京オリンピックを、とりあえずこっちは賛成で、賛成の意見を言う。こう
いうことをいうたらええ。こっちは反対で、ほんなことした駄目だと、言う事を言う。
はい、えー、

M:どっちが反対?

Z:こっちが反対。とりあえず、今は反対。

M:うちのが反対。

Z:反対な。ほれと、意見、はい。

D:反対はやっぱり、財政的にも厳しいし、と・東京、まあいうても、やっぱり、あの一、

税金を使うんで、やっぱり、その一、スポーツだけに特化するっていうか、そういったことについては、あの一、控えるほうがいいと思います。負担が大きいうことで、反対です。

Z:財政の問題、ほういうことやな。

D:はい。

Z:はい。

L:うーん。まあ、逆に、仕事を、も増えると思うし、一時的かもしれませんが、ま、今仕事無い人にも仕事が出来ると思うし。

Z:あ、あ、あの雇用促進に繋がると。うん、いうことやわな、まあ言うたらな。はい、反対、はいどうぞ。はい、はいM君。はいどうぞ。

M:うーん、ほんで、あの、誘致するより、もっと他に、あの一、え一、国民のためにやることがあると思う。

Z:例えば、どんなん？

M:うん、あの一。(笑)

K:自分で言えんもんを。(笑)

Z:ほな後にしよか？

M:うん。

Z:はい、あ、あの、賛成意見な、今言うんわな。

R:あの、み・みんなまあ、国内からもそうですけど、みんな東京に移動、したりして、けい・経済が動くし、まあ、

Z:活性化するしな。

R:かい・海外から、まあ、金が、みん・みんな観に来るから入ってくるんで、まあそういう、経済を回すっていう意味ですごい、いいんじゃないかなと。

Z:それに対してどうですか？うん、T、はい。

T:あのねえ、まあ言うたら、もう、東京は、いっぺんもう、いっぺん、196よ・4年にももう、いっぺんしたんですよ。ほんな所でもうせんとねえ、ほない、日本でも他の所で、いっぺん、して、ほしいですけど。

Z:ほの意見どうですか？はい。

N:いや、やっぱり、こうなんか、日本、

Zあ、:東京でしないで、っていうことを言よるけん、こっちが言ってることは。ちゃうとこでしたら、東京ばかりでなしに、な。

N:はい一。あのなんか。今、あの必要なは、あの、なんか活気とか、あの元気とかやと思うんで、

Z:ああ、アベノミクスじゃないと。うんうん。

N:なんか、そういうんが、あつたら、あの、なんか、元気にもなるだろうし、

Z:うんうんうん。

N:その一、東京の、オリンピックをなんか観たんがきっかけで、なんか自分もこういうことしたいとか、そういうなんかパワーとかも湧いてくるんじゃないかな一っていう、き・感じがじます、はい。

Z:はい、ほれに対してKさんどうですか？反対の意見は。

K:わ、わし反対？

一同:(笑)

M:反対、こっちゃでえ。4人こっちって。こっちが反対ちゃうん？

Z:こっちがは、反対、ああ、ほな賛成でもええ。ほな、

M:ほれで、反対の意見でいう。

Z:ほな、さっき言よった、はい。どうぞ。

M:浮かれとる場合で無いと思うんよな。実際、みな生活も困って、国民がな。働く場所ものうて、何しとうし、ほんで、あの一、ふ・復興の問題も解決してないし、ほんな、東京電力やって、ほら、ようけ、電気や何も、何い、え、つこたり何を思うんやけど、もう、ほら、あの一、俺はせんほうがええと思うんよ。ほれもやっぱし、あの一、全体の底上げ？若者の働く場、うん。

Z:はい、賛成派。

K:難しいな。(笑) いやー、なあ。あの一、オールスター戦しようわな。プロ野球。

Z:あ、プロ野球、はいはいはい。

K:な、これは、大谷の素晴らしいピッチング、バッティング。あるいは、ゴルフ？松山が今活躍。オリンピックすることによってやね、そういう人が次々と出てくる。夢中になって、夕べも7時までゴルフ見よった、な。ほんで、しち・7時ぐらいから、野球？やっぱり、そういう、オリンピックすることによって、次々出てきて、今、あれ、彼女が言うたんと同じように、やっぱり、あの一、なんていうんかな、気分的に華やいだ、こんな、周りが沈滞したからこそ、華やいだ話が、話題が次々挙がってくれば、これは一、非常にいいことでないかなと、私はこう思う。

Z:あの、ほの一、え一、あ一、え一、あの、えっと、あの、華やいだ、人たちを作ることによって、ほういう、え一、あえ一、え一と、ほれに、恩恵を受ける、まあいうたら、あの、議員とか貴族とか、あ一、工事とか、工事主とか、ほんなんがすごい儲けるようになるわね。

K:ほら、経済的利益を受ける人、ほれと精神的な利益を受ける人、で、ほない日本人の活躍、あるいは、そういう活躍によって、ほの、精神的な利益を受ける人、色んな利益があると思うんじゃな。ほなけん、両面の利益があるとすれば、ええことでなかるうかなとは思うな。

Z:え一、あの、する前に、やっぱりあの、ほういう、あ、あ、あの、地方か？ほういう、あ、え、え一と、野球とか、柔道界とか、ほういう、スポーツに対しても、あんまりにも、ほういう、まあ言うたら1つの、ほの、え一、まあ1つちゅうか、うーん、特定の、特定のものに対して、え一と、あの、税金を使いすぎよると思うんよ。そういう事に対してな。えっと、あの、スポーツしよる人は、もつともつといてると思う。ほういう、え一、メジャーじゃない人。メジャーじゃない人にも目を向けてほしいわね。ほういう、オリンピックっていう、あの、あ、名の下において、あの、取り上げられる人は当然ええけど、そういう人でなしに、底辺ではたら、っていうか、あの他のスポーツをしよる人もおるちゅう、そういう人たちにも目を向けてほしいと、いうことは言いたいですね。

K:どうだろうかなあ、と思うけど。そういう、活躍、こら、数少ない人が活躍して、その

人たちが目立つけれども、そういう人たちに憧れて小さい子どもが、今また、僕もやりたい、私もやりたい、

Z:そう！

K:そういう人を見ることによって、その、話し合いの、あの一、なんちゅうか、スポーツの底辺が広がって行って、というプラスの効果もあると思う。

Z:そ、ある特定の運動に対してね。

K:そうそうそう。

Z:ほなに、あ、もっとほれをね、え一、深く下げて、ほの、なんちゅうんだろう、ま、ま、高校野球、ま、高校野球始まるわな。高校野球やあるけど、今の、え一と、あの一と、定時制の野球もあるか？知らんけど。定時制とか硬式とか、いうのももっとマスコミがやねえ、そればかり捉えるでなしに、ほの、高校の定時制でも何でもええけど、硬球の野球大会やいうんがトップになった人は、当然、あの一、ほういう、え一と、新聞に、え一と、マスコミ、の目に？まあ言うたら触れるようにしたいわね。

K:ほらほうじゃな。

Z:ほたら、なお一層差が広がってくるんですよね、オリンピックをすることによってね。

K:うーん。

Z:反対の意見としてはですよ？

M:もう1つ、あの一、あの一、ちょっと、側面からも、えっと、見ないけんと思うんですけど、あの一、前の、東京オリンピック、1964年、昭和39年。あの一、僕が高校3年の時だったんよ。あの一、あの時は、東京は水不足で、断水も起きたし、ちょうど吃音の話しに行とった時に、もう、水が出ないで困った時、オリンピックで。ほんで、初日に合わせて突貫工事で、えっと、首都高速作ったんですよ。あれの、震災工事がまだ終わってない。それで、今でさえ高速1号線で、羽田から、あれで、渋滞が物凄いわあるし、ほういう時に、あの一、行って、交通量とか集中して、麻痺状態になると思うしね。ほらもう、あの一、天皇や皇太子が来て、信号全部青に変える、やいう訳にはいかんのですよ。一旦乗ったらそのまま、そういうのを、どうします？今の渋滞が益々拍車かけて、もう、もう、首都高の上でもう走れんような状態が起きて、

K:だったん？

M:いや、なると思うんですよ。

Z:ああ、なると思うんな。

M:ただ、ほれを側面からもっと、あの一、何せないかんと思いますね。

K:その体制は、ほなけん、整える予定ではないん？私の、今、あの一、どの部分が、弱いかなんか、私も分かれへんけど、東京ではな、うん。ほなけん、あれは、なんぼ、千、え？2020年か？

Z:知らんのよ、わし。

K:2020年になるんだろ？あと、ほなけん、あと、7年、か、な。7年の間でそういうんも充実させるんではないんだろ？その辺は分からんけどな。

Z:分からんわな。

K:分からんけんどうな。

M:ほんで、1カ所に競技場や全部集めるんでなしに、移動するや、いうてなったら、もう、

移動、出来る状態でないから、都内は、

K:あー。

M:ほなけん、代々木国立競技場やいうて、昔の古いあれやな、全部メインはこっち持って来て、なるべくその中で、するっていう、あれになってたでしょ？ほなけん、ほこにでももっと、あれ、せないかんのちやいますで。

Z:いいよ、はい。

K:まあ、ほなけんど、この度の売りは、1カ所に集めて、ほなに、移動に、無駄がないようにというんが、売りじゃわな。どっちがええんか悪いんか、どっちや分からんけんど。

Z:まあ、ほな、言えば、この、今、あー、M君が言うたように、ほういう側面的な面で、えーっと、まあ、混乱が生じ、財政面で駄目だと。ま、こっちの賛成側に言うたら、ほういう、え、え、えっと、あの、えっと、あの、ヒーロー的なこともでき、経済も活性化、あ、まあ言うたら、一時的であれ、何であろうと、経済を一時的でも活性化することが大事じゃ、ということだったわな。はい、今度反対です。はい、反対意見言うて。反対の意見言うて。

L:反対の意見？

Z:東京の誘致に反対。こっちは東京誘致に賛成。

L:ああ、今のの反対を。

Z:そうです、全然意見が変わる。ほなけんね、このディベートっちゅうんはほういうね、あの、あの、外国でも言よったけど、貴方の意見は尊重するけど、私はこう思いますって言う、ほの考え方の違いの差を、えーと、あの、認める？それが大事なんですよね。ほたら、日本人は、あんた同じ考えでなかったんだったら出て行けっていう考え。そうじゃないんよ。みんな色んな意見があるって当然なんですよ。意見があって、みんなの意見が纏まっていくんやから。その訓練ですよ。はい、どうぞ。(笑) ちょっと難しいだろ？

L:まあ、さっきと正反対なんですけど、

Z:うん、正反対、そうそうそう。

L:うーん、まあ経済が活性化すると言っても、実際、昔の東京オリンピックの時は、その後、高度成長期、

Z:なったわな。繋がったわな、うん。

L:けど、ここ最近のオリンピックは、開催した後には下がっていくの、ことになってるので、それを思うと、一時は上がっても、また下がるのが。

Z:またな。はい、どうぞ。

D:うーん、まあ、あの一、日本という国はもう、あの先進国で、成熟した国なので、まあ、そういった国がするっていう所を、あの一、まあ負担というか財政的な不安所もあるんはあるかも分かりませんが、まあ、やっぱり、あの一、か・沈滞したムードを払拭するっていうか、まあ、あの一、花火上げる、花火打ち上げるっていうか、そういう意味で、東京オリンピック1回やったら、それでみんなが結集、力を結集して、もう一度日本中を団結っていうか、それもまた、発揮できて、あの一、精神的に、あの一、こう、繋がってっていうか、まそういうのも、あるかも分かれへんし、あと、まあ、あの一、日本、日本のまあ、あの一、文化の素晴らしさとかそういうのを世界に、あの一、アピー

ルするというか、そういうぜ・絶好の場だと思うんで、あの一、是非できればと思います。

R:さ・え?これ、ささ・さっきの、こう、自分のい・意見に反論みたいな、

Z:ああ、ほんでもかんまんよ。ほなけん、あの、えーと、反対派の意見。あ、えーと、あの、善と悪があるで、ほれの悪の方を出してくれたら。

R:悪の方?(笑) ま、さささ・さっきもこう、まあ、まあ、オリンピック誘致するここ・ことで、まあ、その、日本にかか・活気をみたいな、話もありましたけど、別に国外でやっても別にそれは変わらない、まあ、日本人が活躍したら、別にテレビでも新聞でもどんな方法でも見ようと思たら全然見れるんで、それを全然別に、他の所でも、この一、例えば、あの0、パブリックビューイングみたいなのも、して、全員で盛り上がったことも全然可能ですし。まあ、別にとと・東京にこだわる意味は無いんじゃないかなと。

Z:ほの一、現場でせんで、お金を使ってそこまでせんでええでないかと。

R:別にとと・徳島からでも見えるんで。

Z:あ、インターネットが今ごっつい普及しとんだから、えーっと、映像観ようと思たら観える、昔と違ってね、

R:はい。

Z:いつでも観えるやないかと。

R:昔は、まああの、カラーテレビみたいなのがすごい、あの、東京のオリンピックで、なんか、すごい、

Z:あれ、しん、あのオリンピックの時からカラーテレビになったんで?わし、高校の時やオリンピックあったもん。

M:高校3年じゃわ。

Z:なあ。ほなけん、あ、えーと、職員室観にいったもん。

M:昭和39年。

Z:ああ、ほうか。Kさん、どうだった?

K:カラーテレビ、

Z:カラーテレビではなかった、

K:あれ、いつだったん?

Z:ほの時は白黒だったんかも分からん。

L:テレビが、普及したとかではない?

Z:え?

L:テレビが普及した、

K:テレビ、普及、1番

Z:テレビはあっただろ?

K:あれは?美智子さん結婚式、

L:ああ、その時、

K:オリンピックの前やった、どっちやった?

Z:あれ、ああ・後、ああ、ほうか。あの時にテレビ観よったな、ワーワー言うて。

K:オリンピックじゃなくて、美智子さん結婚式の時が1番、こう、増えた時期やな、テレ

ビがな。

Z: ああ、そうそうそう、言よったな、ほんなん。

K: カラーは、カラーどうだったんかなあ、うん、忘れたあ。

Z: 忘れたなあ。

K: 昔の話じゃわ。

Z: 頭ん中カラになるんやな。はいどうぞ、はい M さん。

M: もう、ほら一、あの、財政面で、まあ、税金もつぎ込むだろうけど、ほら、物凄い、ほの、見返りっていうか、ほれ以上の経済的に、

一同:(笑)

M: 何がおかしいん？ほら、もう、テレビやほんなんで見ると違くて、現場に行って、生で見ると迫力っていうのは、物凄いもんがあると思うんよ。やっぱし、ほなけん、東京へ、東京へ言うて、押しかけると思うんよな一、陸上競技でもな、やっぱし、中々入れんで。ほら一、物凄く、金は、

Z: 渋滞の問題はどうなるん？

M: え？

一同:(笑)

M: あれは一、あの一、競技場を集中、えーと、さすことによって、これは、

Z: 車では行かないと。

M: 首都高に変わる、新しい、湾岸道路とか、外周道路を、あの、えーと、整備して、もう、それまでにだいぶ完成します。もう、地下のトンネルも 1 メーター 1 億円つぎ込んでやっとなんかというんで、そういうので、交通面では、大丈夫です。

Z: はい、はい。

N: はい。あの、なんか、そういう、大きい、イベントするってなったら、やっぱし、ひび・人がよおけ来るじゃないですか？ほうしたら、ほの分、あの、犯罪も増えるし、

Z: ええこと言うなあ。おもっしょいなあ、ほうやなあ。

N: えー、心配、あると思います。はい。

Z: ほ一。まあ、えー、えーと、あの、あ、当然外国からも、あ、えーと、あの、来んといかんし、

N: はい。

M: あ一、ほういう意見もあるな。

Z: やっぱし、違うな、視点が全然違うんな。

K: ほんまじゃ、全然違う。

Z: ほな、T 君。

T: はい、

Z: 賛成派の言うんぞ？

T: まあ、ほなけん、とと・オリンピックしたら、どうも、ほの、全世界の人が来てくれるから、観光なんかは非常に、いいと、思います。東京オリンピックも楽しいんやけんど、ついでに、日本観光も、あ一、して、ほしいなど、思います。

Z: えーと、あ一、えー、あの、波状効果っちゅうん、あれなんちゅうん、あれ？

D: 波及効果。

Z:波及効果、

T:波及効果。

Z:波及効果を求めると。があるとか、な。東京だけでなしに、東京オリンピックすることによって、北海道行ったり、名古屋行ったり、京都行ったり、

T:あんまり、日本のことをししし・知らんと思うけん、日本へ来て、ね、お金と暇があったら、もう、方々へ行ってね、ほしいわね。

Z:ほたら、全体な、日本が観光都市にな、観光国になって潤うてくると、まあ言うたらほんなんやわな、意見わな。はい、はい。

K:もう、みなみたいに2枚舌よう使わん。

一同:(笑)

Z:そういう風に言うけん日本人はいかんのやな。意見を2つ、

K:ほんなん、みな卑怯なわー。

一同:(笑)

Z:ゲームやけんな、これは、ただの。

M:日本人ではな、これ、あるんよ。本音と建て前、

K:本音と建て前、ほれは

M:上手に使い分ける人は世渡りが、、お前ほんまは考えとることちゃうやろと。

Z:ほら、日本人の、あの、

(扉が開き、施設の管理人が入室。施設の利用時間が過ぎていることを伝えて退出する。)

M:はい。はい。

Z:ほな終わろうか。